

目 次

I.	教 育 課 程 に つ い て	2
	カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー	
II.	単 位	6
III.	成 績 評 価 基 準	6
IV.	服飾学部服飾表現学科カリキュラム表	7
V.	履 修 の 方 法	13
VI.	学 芸 員 に つ い て	17
VII.	授 業 計 画	25
VIII.	ゼ ミ ナ ー ル	91

I. 教育課程について

(2022 年度生用)

本学の教育課程は、学則第2条の目的にそって、構成されています。

教育課程(学則第25条)に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧 7 頁の服飾学部服飾表現学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

カリキュラムポリシー (教育方針)

本学科の教育の使命と目的を効果的に実現するための教育組織として、1 年次は一部服飾学科と共通のものも含めた学科独自の初年次教育課程を経て、2 年次後期、3、4 年次で5 つの専攻に分かれた専門教育課程を設けています。初年次教育課程では、教養科目によって一般的教養を養い、服飾関係科目によって感性、技術力、表現力を育成します。その基礎の上に立って、専門教育課程で、創造力・表現力をもった服飾表現に関する専門職業人を養成することを目指しています。

教養科目は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・総合・国際関係・外国語の科目を多数開講し、外国語は8 単位以上、それ以外の科目で26 単位以上の履修を要求しています。また1 年次には初年次科目の「学習基礎」を必修として、大学で4 年間学ぶためのスキルを修得させています。外国語については3、4 年次での受講も可能にし、服飾表現業界での必要性に対応しています。

初年次教育課程では、服飾関係科目、服飾経済科目と服飾表現科目の共通必修科目と専門選択科目を設けています。服飾表現科目の共通必修科目の中核科目として服飾表現概論、プレゼンテーション論、グラフィックデザインⅠ、写真表現、身体表現Ⅰがあり、これらを全員に履修を義務付け、服飾表現に関する基礎的な技術や表現方法を全学生が修得することとしています。これが本学科の初年次教育課程の特徴です。

2 年次前期のオムニバス形式の「服飾表現演習」での学修をもとに、2 年次後期の専門教育課程では、「衣装表現」、「スタイリング」、「ビジュアルマーチャンダイジング」、「ショープロデュース」、「映像・メディア表現」の5 つの専攻に分かれます。専攻独自の必修科目は19 単位を設定しています。各専攻の教育目的と目標を達成するために必要な必修科目を専攻ごとに3 科目設定しています。初年次教育課程の科目、専門教育課程での選択科目と合わせて専門教育課程で専攻の必修科目を履修することによって、各専攻の目指す専門職業分野の人材育成を可能とする方針のもとにカリキュラムを編成しています。

本学科の履修科目の単位内訳は次の表の通りです。

履修科目単位内訳表

(2022年度生用)

杉野服飾大学 服飾学部 服飾表現学科

授業科目の区分と履修方法			修 得 単 位 数
専 門 科 目	必 修		59
	選択必修		10
	選 択		21
専門科目合計			90 単位
教 養 科 目	初 年 次	必 修	10
	一 般 体 育 国際関係	選 択	16
	外 国 語	選択必修	8
教養科目合計			34 単位
総 合 計			124 単位

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では下記の表に掲げる専門課程の専攻別の教育目的に従って、目標の欄に掲げている服飾表現関係の専門的職業で活躍できる人材の育成を目標としています。

1年間の初年次教育課程の教育を受けますが、その間に一部服飾学科と共通のものも含めた学科独自の内容の19単位を必修科目として履修します。これによって、服飾を物として成立させる技術や服飾経済に関する知識を得た上で、視覚的な感性や表現力を持った服飾表現の専門教育に備えての基礎的な能力を培うこととしています。

2年次後半から4年次までの専門教育課程では、専攻ごとに専門必修科目19単位の履修を求めています。さらに専攻ごとに25単位の専門選択科目の履修を求めています。

以上の専門基礎科目と専門科目を合わせて90単位を履修することで専攻別の教育目的と目標を達成することとしています。

また教養科目34単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざしています。

教養科目34単位と専門科目90単位の合計124単位を修得することで卒業を認定し、学士（服飾）の学位を授与することとしています。

専門教育課程 専攻別教育目的と目標

専攻名	目的	目標
1) 衣装表現	衣装表現に必要なとされる発想、デザイン・構想、エスキース、制作、プレゼンテーション等の創作のプロセスにウェイトを置いた実践能力の育成を目的とする。	舞台や映画で美しく独創的な衣装を制作する衣装デザイナーなどの人材育成を目標とする。
2) スタイリング	スタイリストの基礎力として、過去から現在までにおける服飾表現の流れ（或いは“流行”）を把握し、社会におけるファッションの役割の上に表現できる能力の育成を目的とする。	TVや雑誌で、モデル、タレント、アーティストの魅力や個性を引き出すスタイリングをするスタイリストなどの人材の育成を目標とする。
3) ビジュアルマーチャンダイジング	魅力的な店舗や展示空間を想定し、視覚的に商品の世界観を伝えることができる能力の育成を目的とする。	ショップやイベント会場で消費者に視覚的に訴える演出を行うVMD(ビジュアルマーチャンダイザー)などの人材の育成を目標とする。
4) ショープロデュース	服飾表現における「ショー」に特化し、ステージ形態（舞台）、レイアウト等の造形プラン、音楽、ライティング、映像演出などの空間プラン、モデルのパフォーマンススケジュールなどの時間プランなどを総合したプロデュースとその運営能力の育成を目的とする。	ショーやイベントのコンセプト立案から企画、制作、運営まで観衆を魅了する空間を創るイベントプロデューサーやショースタッフなどの人材の育成を目標とする。
5) 映像・メディア表現	メディアにおける服飾のあり方を考え、視覚情報としてのそのイメージを伝えるために、映像の企画・構想、撮影、編集技術を修得し表現していく能力の育成を目的とする。	TVやネット配信など多彩なメディアでクオリティの高い映像表現を行う映像ディレクター、映像作家などの人材の育成を目標とする。

杉野服飾大学の学修（教育）成果測定の指標（アセスメントポリシー）

1. 初年次教育課程の学修成果測定

- ・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後2年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。
- ・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。
- ・表現学科は5つの専攻によって指標を行う。
- ・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

2. 服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

3. 各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

4. 卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次4年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率
- 服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。
- ・卒業年次の3年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の2年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科2年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

5. 就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
- *専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

Ⅱ. 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の1時限は正味45分ですがこれを1時間と計算します。従って1コマ（2時限続き）は90分としています。

1. 講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を1単位とします。

2. 実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を1単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

Ⅲ. 成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	—	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

◆GPA(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をS→4、A→3、B→2、C→1、D→0と点数に置換えて算出するのがGPAです。

$$GPA = (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した科目の総単位数}$$

IV. 服飾学部服飾表現学科カリキュラム表

(2022年度生)大-1

専 門 科 目	授業科目名	単位数			履修方法			資格 取得を 目的と するもの	配 当 年 次 期 期	週時間数				
		講	演	実 験 実	必 修	選 択	自 由			目 録 野 黒 キ ヤ ン パ ス	日 野 キ ヤ ン パ ス	学 芸 員 課 程	前	後
													義	習
服飾造形基礎 I			3		○			○			1	6		
服飾表現概論	1				○			○			1	1		
色彩演習	2				○			○			1	2		
衣服材料学	2				○			○			1	2		
ドローイング I a		2			○			○			1	4		
西洋服飾文化史	2				○			○			1	2		
服飾造形基礎 II			3		○			○			1		6	
グラフィックデザイン I		1			○			○			1		2	
身体表現 I—基本の動き—		1			○			○			1		2	
写真表現		1			○			○			1		2	
ファッション・フィールド・リサーチ		1			○			○			1		2	
プレゼンテーション論	2				○			○			1		2	
現代ファッション論	2				○			○			2	2		
日本服飾文化史	2				○			○			2	2		
表現心理学—魅力の発見、魅力の伝達—	2				○			○			2	2		
身体表現 II—パフォーマンス—		1			○			○			2	2		
空間構成 I		1			○			○			2	2		
画像表現		1			○			○			2	2		
ドローイング・構想		1			○			○			2	2		
グラフィックデザイン II		1			○			○			2	2		
服飾表現演習		2			○			○			2	4		
色材演習		1			○			○			2		2	
服飾表現史	2				○			○			2		2	
空間構成 II		2			○			○			2		4	
立体造形構想		1			○			○			2		2	
近代日本モード史		2			○			○			2		2	
マーケティング・データサイエンス論	2				○						2	2	は2	
マネキン学	2				○			○			3	2		
プレゼンテーション技法		2			○			○			3	4		
ポートフォリオ演習		2			○			○			3	4		
卒業制作企画		3			○			○			4	6		
卒業制作		6			○			○			4		12	
計		21	38	0										
専門科目(服飾関係)必修科目については、59単位を修得すること														
衣装デザイン・制作 I			2	(○)				○			2		6	
スタイリング演習 I		2		(○)				○			2		4	
ビジュアルマーチャンダイジング演習 I		2		(○)				○			2		4	
ショープロデュース I		2		(○)				○			2		4	
映像・メディア表現 I		2		(○)				○			2		4	
衣装デザイン・制作 II			2	(○)				○			3	6		
スタイリング演習 II		2		(○)				○			3	4		
ビジュアルマーチャンダイジング演習 II		2		(○)				○			3	4		
ショープロデュース II		2		(○)				○			3	4		
映像・メディア表現 II		2		(○)				○			3	4		
衣装デザイン・制作 III		6		(○)				○			3		12	
スタイリング演習 III		6		(○)				○			3		12	
ビジュアルマーチャンダイジング演習 III		6		(○)				○			3		12	
ショープロデュース III		6		(○)				○			3		12	
映像・メディア表現 III		6		(○)				○			3		12	
専門選択必修合計	0	46	4											
専門科目(服飾関係)選択必修科目については、10単位を修得すること														

専門科係目	授業科目名	単位数			履修方法			目録	日野	資格取得を目的とするもの	配当年	週時間数		備考		
		講義	演習	実習	必修	選択	自由					学芸員課程	当		前	後
専門科係目	流通・商業入門	2				○	○				1	2				
	ファッションビジネス概論	2				○	○				1	2				
	ファッション画Ⅰ		1			○	○				1	2				
	ファッション画Ⅱ		1			○	○				1		2			
	経営学入門	2				○	○				1	2又	は2			
	服飾造形応用		2			○	○				1		4			
	現代デザイン論	2				○	○		○		1	2又	は2			
	ファッション販売論	2				○	○				1	2又	は2			
	流行論	2				○	○				1	2又	は2			
	アパレル素材論	2				○	○				2	2又	は2			
	画像設計演習		1			○	○				2	2又	は2			
	ドローイングⅡ			1		○	○				2	3又	は3	原則としてドローイングⅠ修得者のみ履修可		
	和服構成論・実習Ⅰ			1		○	○				2	3				
	和服構成論・実習Ⅱ			1		○	○				2		3			
	衣服管理	2				○	○				2	2又	は2			
	染色化学	2				○	○				2		2			
	繊維ファッション産業構造論	2				○	○				2	2又	は2			
	ファッション史	2				○	○				2	2又	は2			
	ブライダルファッションプランニングゼミ		2			○	○				2	2	2	2023年新規開講		
	インターンシップ			2		○	○				2・3		集中90h 又は集中			
	色彩論	1				○	○				2		1			
	服飾手芸(ニットを含む)			1		○	○				3	3又	は3			
	リテールマーチャндаイジング	2				○	○				3	2				
	ショップディスプレイ	2				○	○				3	2又	は2			
	服飾クラフト			1		○	○				3	3又	は3			
	アパレル産業論特講	2				○	○				3	2又	は2			
	民族衣裳論	2				○	○				3	2又	は2			
	染織史	2				○	○		○		3	2				
	ファッションプレゼンテーション演習		2			○	○		○		3	4				
	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2				○	○				2	2				
家庭電気・機械	1				○	○				2	1					
食物学(実践栄養学)	2				○	○				2		2				
家庭情報処理	1				○	○				2		1				
食物学(食品学)	2				○	○				3	2					
住居学(製図を含む)	2				○	○				3		2				
保育学(実習及び家庭看護を含む)	2				○	○				3		2				
食文化論	2				○	○				3	2					
食物学(調理実習・実験)Ⅰ			1		○	○				3	3					
食物学(調理実習・実験)Ⅱ			1		○	○				3		3				
専門選択小計	47	9	9													
専門科目小計	68	93	13													
専門科目合計		174														
専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として 21 単位以上を修得すること。																

授業科目名	単位数			履修方法			資格取得を目的とするもの	配当年	週時間数		備考			
	講義	演習	実験	必修	選択	自由			目黒キャンパス	日野キャンパス		学芸員課程	前	後
													期	期
初年次	学修基礎	2			○		○			1	2			
キャリア	文章表現	2			○		○			1	2			
	情報演習Ⅰ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○		○			1	2			
	情報演習Ⅱ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○		○			1	2			
	キャリアプランニング	2			○		○			2	2			
	社会人基礎A	2				○	○			1	2			
一般	社会人基礎B	2				○	○			1	2			
	心理学A	2				○	○			1・2	2			
	心理学B	2				○	○			1・2	2			
	文学	2				○	○			1	2又	は2		
	日本美術史	2				○	○	○		1	2又	は2		
	西洋美術史	2				○	○	○		1	2又	は2		
	憲法	2				○	○			1・2	2又	は2		
	社会福祉学A	2				○	○			1・2	2			
	社会福祉学B	2				○	○			1・2	2			
	化学A	2				○	○			1・2	2			
	化学B	2				○	○			1・2	2			
	体育	体育A		1			○	○			1	2又	は2	
		体育B		1			○	○			1・2	2		
国際関係	言語と服飾文化	2				○	○			3・4	2又	は2		
	日本文化・日本事情Ⅰ	2				○	○			1・3	2	外国人留学生は履修のこと		
	日本文化・日本事情Ⅱ	2				○	○			1・3	2	外国人留学生は履修のこと		
	英語(総合)A	2				○	○			2	2			
	英語(総合)B	2				○	○			2	2			
	ワールド・カルチャーA	2				○	○			2	2			
	ワールド・カルチャーB	2				○	○			2	2			
	実用英語 A	2				○	○			2	2			
	実用英語 B	2				○	○			2	2			
	ファッション英語 A	2				○	○			2	2			
	ファッション英語 B	2				○	○			2	2			
	フランス語(総合)A	2				○	○			2	2			
	フランス語(総合)B	2				○	○			2	2			
	ファッションフランス語 A	2				○	○			2	2			
	ファッションフランス語 B	2				○	○			2	2			
	中国語(総合)A	2				○	○			2	2			
	中国語(総合)B	2				○	○			2	2			
中国語(会話)A	2				○	○			2	2				
中国語(会話)B	2				○	○			2	2				

授業科目名	単位数			履修方法			資格取得を目的とするもの	配当	週時間数		備考			
	講義	演習	実験	必修	選択	自由			目録	日野		芸術	前	後
英語(総合)Ⅰ	2				○		○		1	2				
英語(総合)Ⅱ	2				○		○		1		2			
基礎英会話Ⅰ	2				○		○		1	2				
基礎英会話Ⅱ	2				○		○		1		2			
フランス語(総合)Ⅰ	2				○		○		1	2				
フランス語(総合)Ⅱ	2				○		○		1		2			
フランス語(会話)Ⅰ	2				○		○		1	2				
フランス語(会話)Ⅱ	2				○		○		1		2			
中国語(総合)Ⅰ	2				○		○		1	2				
中国語(総合)Ⅱ	2				○		○		1		2			
中国語(会話)Ⅰ	2				○		○		1	2				
中国語(会話)Ⅱ	2				○		○		1		2			
日本語Ⅰ	4				○		○		1・3	4	*外国人留学生は下記の欄を参照			
日本語Ⅱ	4				○		○		1・3	4	*外国人留学生は下記の欄を参照			
教養科目小計	104	4	0											
教養科目総合計		108												

服飾表現学科「専攻」、「インターンシップ」に関して

■「専攻」に関して

服飾表現に関する豊かな知識・技術を修得して、服飾表現の専門職業人として活躍できる能力の育成のために、以下のように専攻科目を履修することとする。

- 一つを選んで「主専攻」とする。
- 主専攻科目以外の専攻科目の履修による単位取得を可能とする。

■「インターンシップ」に関して

服飾表現に関する豊かな知識・技術を修得して、服飾表現の専門職業人として活躍できる能力の育成のためには、実際の職場における体験でなければ得られないことが多い。それを実践するためには「長期インターンシップ」が不可欠である。

専攻科目の授業の一環として、以下のように「長期インターンシップ」を実施する。

- ・「長期インターンシップ」は単位化する。
- ・実施は「3年次前期」から「4年次前期」までの期間内とする。
- ・上記期間中に「集中」若しくは「分割」して実施する。

※—「長期インターンシップ」に関連する科目

3年前期

- ・「衣装デザイン・制作Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、実験実習2単位)
- ・「スタイリング演習Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位)
- ・「ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位)
- ・「ショープロデュースⅡ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位)
- ・「映像・メディア表現Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位)

3年後期

- ・「衣装デザイン・制作Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位)
- ・「スタイリング演習Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位)
- ・「ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位)
- ・「ショープロデュースⅢ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位)
- ・「映像・メディア表現Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習6単位)

4年前期

- ・「衣装デザイン・制作卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年前期、演習3単位)
- ・「スタイリング卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位)
- ・「ビジュアルマーチャンダイジング卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位)
- ・「ショープロデュース卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位)
- ・「映像・メディア表現卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年前期、演習3単位)

- ・教養科目については初年次の「学修基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習Ⅰ」「情報演習Ⅱ」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、

一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

- ・外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれかⅠ～Ⅱまで8単位を修得すること。(母国語を除く)

*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。

具体的には実力テストの結果に応じて①「日本語Ⅰ(4単位)」「日本語Ⅱ(4単位)」を履修する

②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。

但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語Ⅰ(4単位)」「日本語Ⅱ(4単位)」を履修することができる。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

授業科目名	単位数			履修方法			目	日	野	学	配	週時間数		備考				
	講	演	実	卒業を目的とするもの								黒	キ		芸	当	前	後
				必	選	自												
	義	習	習	修	択	由	ス	ス	員	課	次	期	期					
博物館に関する科目	生涯学習概論	2					○		○		1		2					
	博物館概論	2					○		○		1		2					
	博物館経営論	2					○		○		2	2						
	博物館資料論	2					○		○		2	2						
	博物館資料保存論	2					○		○		2		2					
	博物館展示論	2					○		○		3		2					
	博物館教育論	2					○		○		3	2						
	博物館情報・メディア論	2					○		○		3		2					
	博物館実習			3				○		○		4	3	3及集中	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学			
計	16		3															
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。																		
カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。 1) 原則として開講学年順とします。 2) 個々の履修状況に応じて審議決定します。																		
(注) 各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。																		

令和5年度 服飾表現学科 履修科目申告表 (2年)

大学 服飾表現学科 2022年度生用

区分	履修方法	科目名	開講	曜日	時間	単位	申告	授業コード
専 門 科 目 (服 飾 関 係)	必 修	現代ファッション論	前	木	1~2	2		524101
		日本服飾文化史	前	水	7~8	2		523701
		表現心理学-魅力の伝達	前	火	5~6	2		522501
		身体表現Ⅱ-パフォーマンス-	前	木	7~8	1		524701
		◎空間構成Ⅰ	前	月	3~4	1		521301
		画像表現	前	火	1~2	1		522101
		ドローイング・構想	前	木	5~6	1		524501
		グラフィックデザインⅡ	前	火	3~4	1		522301
		◎服飾表現演習	前	月	5~8	2		521501
		色材演習	後	月	3~4	1		521351
		服飾表現史	後	月	5~6	2		521551
		◎空間構成Ⅱ	後	木	7~10	2		524751
		立体造形構想	後	水	3~4	1		522351
		近代日本モード史	後	火	1~2	2		522151
		マーケティングデザイン・サステイナブル	前	水	9~10	2		523901
◎衣装デザイン・制作Ⅰ	後	木	1~6	2		524151		
◎スタイリング演習Ⅰ	後	金	7~10	2		525752		
◎ビジュアルマーケティング演習Ⅰ	後	水	7~10	2		523751		
◎ショープロデュースⅠ	後	金	7~10	2		525751		
◎映像・メディア表現Ⅰ	後	水	7~10	2		523752		

◎は日野校舎での開講科目です。

学年	科目名	開講	曜日	時間	単位	授業コード
学 年 外 科 目						

主専攻	
学籍番号	
氏 名	
2月才リ	仮申告
	本申告

区分	履修方法	科目名	開講	曜日	時間	単位	申告	授業コード
専 門 科 目 (履 修 関 係)	選 択	アパレル素材論	前	水	5~6	2		523501
		画像設計演習	前	火	8~9	1		522801
		ドローイングⅡ	後	月	7~9	1		521751
		和服構成論・実習Ⅰ	前	火	8~10	1		522802
		和服構成論・実習Ⅱ	後	火	5~7	1		522551
		衣服管理	後	水	3~4	2		523352
		染色化学	前	水	3~4	2		523302
		繊維ファッション産業構造論	前	金	7~8	2		523701
		ファッション史	後	火	5~6	2		522552
		プライダルフashionブライディングゼミ	通年	金	3~4	2		523302
		インターンシップ	集中	8月実施者		2		521751
		色彩論	後	集中		1		527152
		家庭教育学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	前	土	1~2	2		526101
		※家庭電気・機械	前	土	5~6	1		526501
		食物学(実践栄養学)	後	水	1~2	2		523152
※家庭情報処理	後	土	5~6	1		526551		
必修	前	木	3~4	2		524301		
心理学A	前	金	1~2	2		525103		
心理学B	後	金	1~2	2		525151		
憲法	後	金	3~4	2		525854		
社会学A	前	金	1~2	2		525101		
社会学B	後	金	1~2	2		525152		
化学A	前	金	1~2	2		525102		
化学B	後	金	1~2	2		525153		
体育B	後	月	9~10	1		521951		

※ 印は2分の15週の開講科目です。(8回)

★入力上の注意

- ・申告する科目の欄にブルダウんでO印をいれること。(前期・後期共に申告すること)
- ・指定クラスがある場合には指示通り申告すること。

★提出前の注意

- ・自身の控えを管理すること。(個人別時間割を受け取ったら控えと照らし合わせチェックすること)

区分	履修方法	科目名	開講	曜日	時間	単位	申告	授業コード
教 育 科 目	選 択	英語(総合)A	前	水	1~2	2		523101
		英語(総合)B	後	水	1~2	2		523151
		ワールドカルチャーA	前	水	3~4	2		523301
		ワールドカルチャーB	後	水	3~4	2		523351
		実用英語A	前	金	5~6	2		525503
		実用英語B	後	金	5~6	2		525551
		フッション英語A	前	金	3~4	2		525301
		フッション英語B	後	金	3~4	2		525351
		フッション語(総合)A	前	金	3~4	2		525303
		フッション語(総合)B	後	金	3~4	2		525352
		フッションフランス語A	前	金	5~6	2		525501
		フッションフランス語B	後	金	5~6	2		525552
		中国語(総合)A	前	金	3~4	2		525304
		中国語(総合)B	後	金	3~4	2		525353
		中国語(会話)A	前	金	5~6	2		525502
中国語(会話)B	後	金	5~6	2		525553		
博物館経営論	前	土	1~2	2		126102		
博物館資料論	前	土	3~4	2		126302		
博物館資料保存論	後	土	8~9	2		126851		
専門選択	集中	3月実施者		(2)				
自主ゼミ	前/期又は後期			一				

＜履修単位表＞年間55単位

区分	卒業要件単位	1年次既修得単位	2年次	合計
専 門 科 目	必修	59	(23)	(44)
	選択必修	10	(2)	(2)
	選択	21		
専門科目合計(S)	90			
教 養 科 目	初年次	2	(2)	(2)
	キャリア	8	(6)	(6)
	一般	16		
	体育			
	国際関係	8	(8)	(8)
外国語	34			
教養科目合計(K)	124			
卒業要件合計(S)+(K)	19	(4)	(6)	(10)
学芸員				
総合計				75単位

修得すべき標準単位数(2年次)

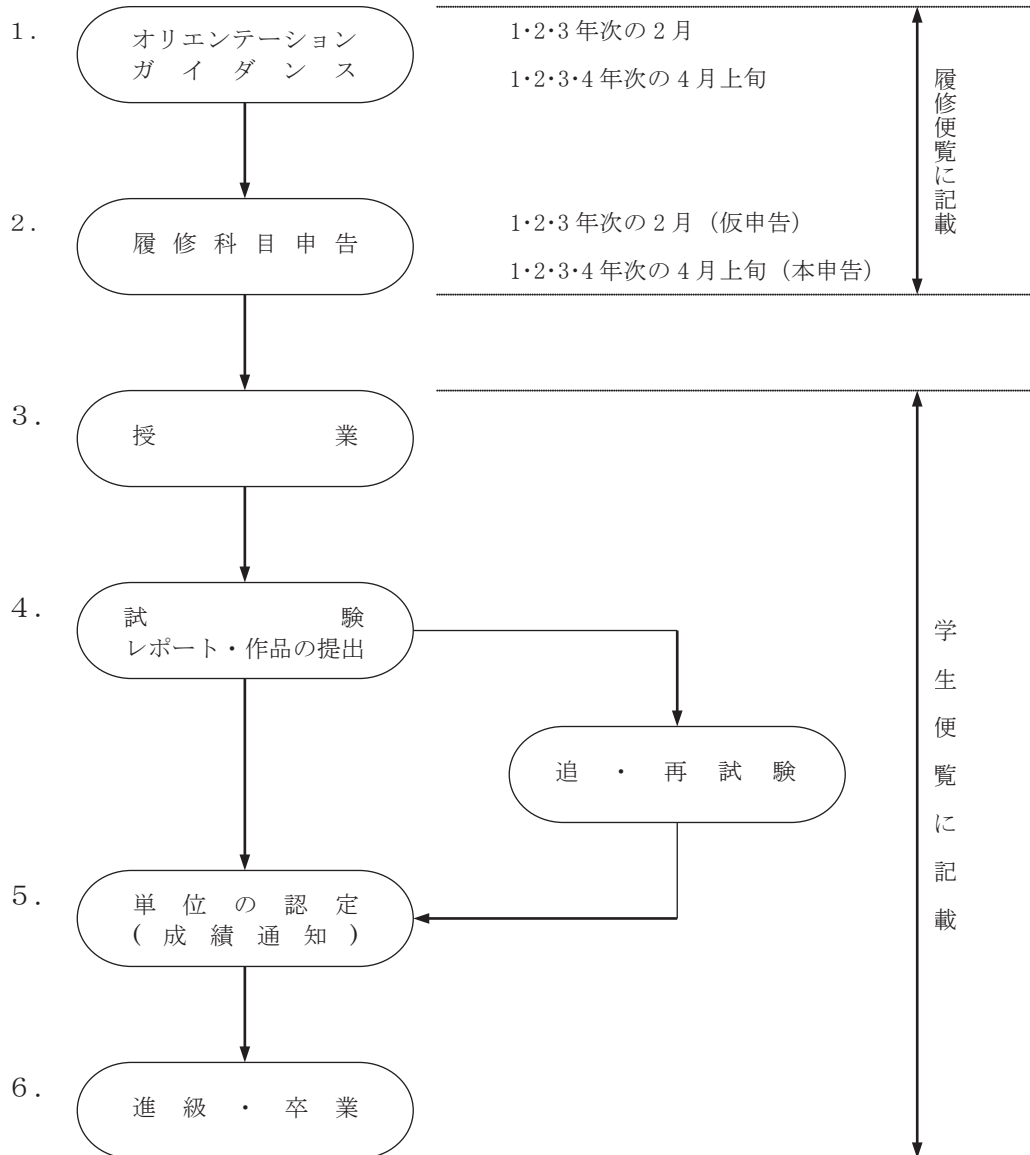
◆教職・学芸員課程の科目は除く

V. 履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。

以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



1. オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。(2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施)

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

2. 履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度開始時(一部の科目に限り後期)に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一ヵ年の学習計画を立て、教務課ではこれにより名簿・成績原簿等を作成します。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

1) 《履修申告にあたっての注意事項》

- ① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講(申告)は禁止されています。
- ② 申告した科目以外は試験(レポート、作品等の提出を含む)を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。
- ③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。
- ④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。
- ⑤ 2・3・4年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

2) 《年間履修単位制限(CAP 制度)》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として1年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 55 単位です。

※資格関係科目(教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目)は履修制限科目から除外されます。

3) 《履修申告の方法》

履修申告は「履修科目申告表」の記入と提出をもって手続きを行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力されますので、授業コードで履修申告をしてください。

各々の履修申告の方法は下記の通りです。

- ① 1年次の年度始め
1年次に受講する科目をすべて申告してください。
- ② 1・2・3年次の年度末(次年度の受講予定科目の仮申告)
これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の申告をしてください。
- ③ 2・3・4年次の年度始め(2年次以降の受講科目の本申告)
新年次における受講科目の申告をしてください。
また、仮申告をした科目の追加・変更のある学生及び再履修科目のある学生は、教務課の説明に従って手続きをしてください。

※ 一部の科目については、人数調整をした後に、受講する時間帯をお知らせいたします。

- ④ 1・2・3・4年次 後期開始前(9月上旬)
一部の後期開講科目について、期間をもうけて追加申告を受け付けます。
希望者は指定期間内 **9/7~8** に、教務課にて手続きをしてください。

4) 《履修科目申告書の記入上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

① 仮申告

1. 履修科目申告書の申告の欄に**黒ペン**で○印をする。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程履修欄に○印をする。
3. 自主ゼミの受講希望者は自主ゼミ欄に○印をする。
4. 履修単位の表は、分野別の単位数を各自で計算し、仮申告時に確認できる単位数を仮に**鉛筆**で記入する。

② 本申告

1. 履修科目の追加申告は**赤ペン**で○印をする。
履修科目の申告取消は、仮申告時につけた○を**赤ペン**で×印をする。
2. 他学年開講科目(再履修科目他)は「その他」の欄に科目名・担当者・単位・授業コードを記入し、○印をする。
3. 履修単位の表は、分野別の単位数を各自で確認や計算をして、**黒ペン**で記入する。
4. 申告書を提出の際は、履修した科目を履修便覧内の履修科目申告書(控)に転記する等各自控えを手元に残し、自己管理してください。

5) 《履修確認について》

- ① 提出された履修科目申告書はコンピュータ処理をした後、後日学生授業時間割表を各自に配布します。
(教室等の変更は随時掲示確認すること)
- ② 学生授業時間割表受け取り後、必ず提出した申告書と相違ないか本人の控と照合、確認し各自単位の管理をすること。
- ③ 学生授業時間割表に誤りがあれば、直ちに教務課へ申し出てください。(但し、クラス分けや調整で、曜日、時限を変更する場合があります。)

6) 《履修科目の放棄について》

- ① 本申告をした科目を放棄する場合は、教務課備え付けの「履修科目放棄届」に記入の上、教務課に提出してください。ただし、特定の科目については、担当教員の承認が必要な場合があります。

- ② 「履修科目放棄届」の提出期限

前期 5月20日まで

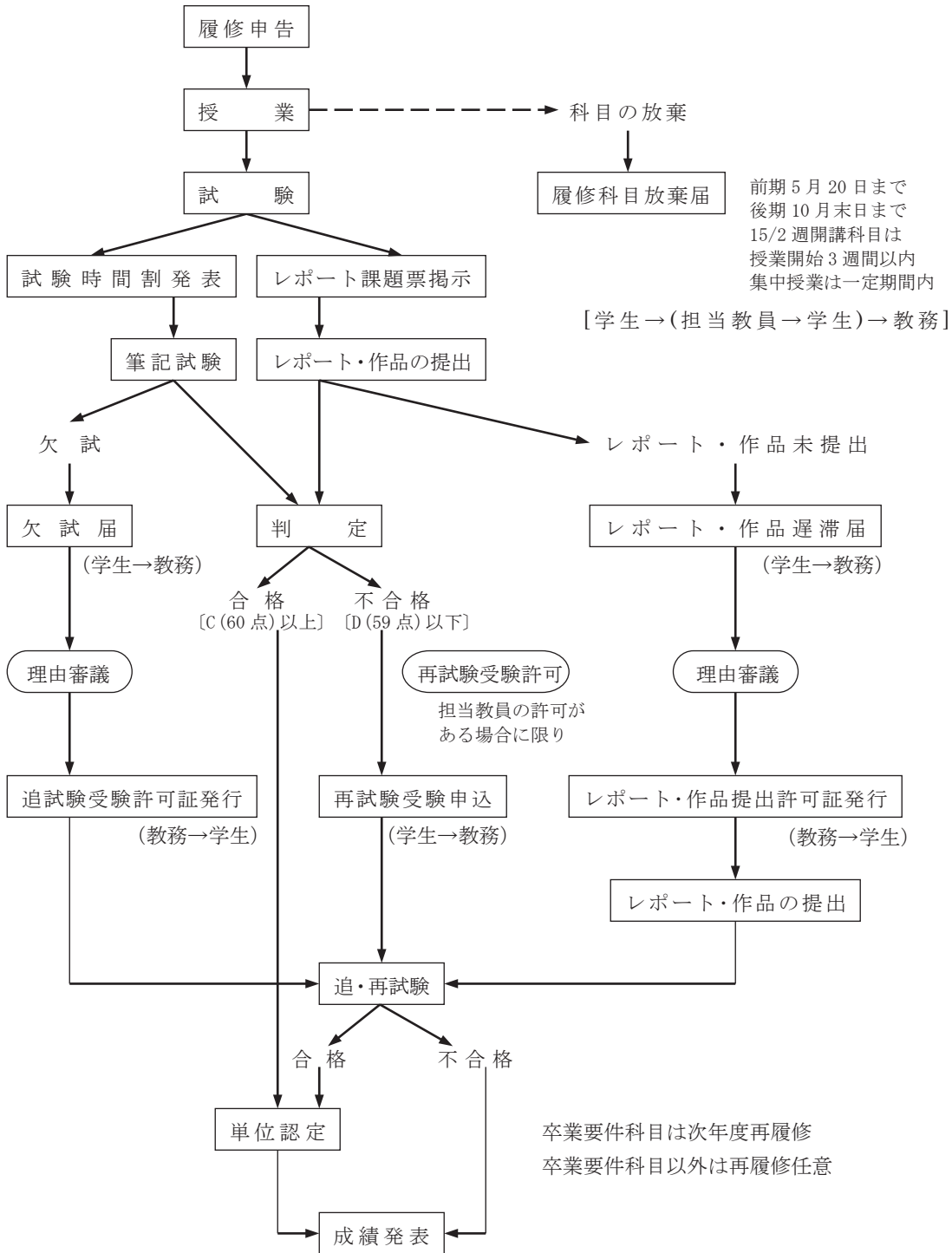
後期 10月末日まで

ただし1単位の講義科目($\frac{15}{2}$ 週の開講)については授業開始後3週間以内とします。

また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。

- ③ 必修科目、外国語科目及びコース別必修科目の放棄は、原則として認めません。
- ④ 期限内に「履修科目放棄届」を提出しなかったり、届出の期限を過ぎ、授業及び試験を無断で欠席した場合は、無届放棄とみなし、当該科目の成績は不合格となります。

履修科目申告から単位認定まで



博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を發揮することが期待されています。

学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

(平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋)

学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

博物館法（平成 26 年 6 月 4 日最終改正より一部抜粋）

（この法律の目的）

第 1 条 この法律は、社会教育法に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2. この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。
3. この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

（博物館の事業）

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- 1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
 - 7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - 10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
2. 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員、その他の職員）

第 4 条 博物館に、館長を置く。

2. 館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
3. 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4. 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
5. 博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
6. 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
2. 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

I. 大学における資格取得のための基礎条件

上記、博物館法第5条（1）に規程されている通りです。

II. 学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第1条に次のように規定されています。（平成27年10月2日最終改正）

科目名	単位数	ね ら い	内 容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の意義 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育 ・生涯学習関連施策の動向 ・社会教育の意義 ・社会教育の内容・方法・形態 ・社会教育指導者 ・社会教育施設の概要 ・学習情報提供と学習相談の意義
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の定義 ・博物館の歴史 ・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性) ・博物館の現状 ・学芸員の役割 ・博物館の館種・設置者 ・博物館関係法規
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム・マネージメントの必要性 ・博物館倫理 ・博物館の行財政制度 ・博物館の施設・設備 ・博物館の組織 ・博物館の職員 ・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等) ・博物館の財務、資金調達 ・マーケティング、広報・宣伝 ・博物館利用者の把握 ・博物館の危機管理 (リスクマネージメント) ・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等) ・博物館のネットワーク
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の収集 ・博物館資料の整理保管 ・博物館資料の保存 ・博物館資料の展示 ・博物館における調査研究活動の意義と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館保存科学の意義 ・資料保存の諸条件とその影響(温湿度・光・振動・大気など) ・収蔵庫と展示室の保存環境 ・伝統的保存方法とIPM ・生物被害の防除と対策 ・資料と環境の点検と記録(機器に対する知識を含む) ・災害の防止と対策(火災・地震・水害・盗難など) ・資料の現状の調査と把握 ・資料の修復 ・資料の移動(梱包と輸送の方法と知識)
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の意義 ・展示の歴史 ・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作 ・業者の評価・効果の検証及び改善方法 ・展示の技術と効果 ・博物館展示の情報伝達機器 ・展示解説書の製作(展示図録・パンフレット等) ・展示活動と情報
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の本質及び目標 ・生涯発達と教育 ・博物館教育の意義と方法 ・博物館教育の理念と理論(コミュニケーション、構成主義等) ・教育活動の企画と実施 ・博物館教育の諸形態(展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等) ・教育普及とコミュニケーション ・博物館と学校との連携 ・生涯学習と博物館 ・博物館教育の評価の目標と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開課題等について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館における情報の意義 ・資料収集保管活動と情報 ・研究活動と情報 ・博物館における情報の提供と活用の方法 ・博物館における情報機器 ・博物館における著作権 ・資料公開の理念(アクセス権)と方法(IT技術等を用いた広報発信等を含む) ・博物館における情報管理と情報公開 ・ICT社会の中の博物館 ・博物館における情報化の現状と課題 ・博物館のホームページ ・コレクション情報のデータベース化とネットワーク化
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館種の実態や学芸員の業務の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の取扱い、展示、博物館の運営等についての学内(見学を含む)及び博物館における実習。事前・事後の指導を含む。

- 1) 博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するものとする。
 - 2) 「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。
2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授 業 科 目 名	
文 化 史 美 術 史 考 古 学 民 俗 学 自 然 科 学 史 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第1条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
規定科目	単位数				
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第6条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
系	列				
選択	文化史	2 履修すること 以上 に わ た り	現代デザイン論	2	
			西洋服飾文化史	2	
			日本服飾文化史	2	
			染織史	2	
			ファッションプレゼンテーション演習	2	
	美術史		西洋美術史	2	
			日本美術史	2	

VII. 授業計画

【整理番号】

■専門科目■

- 【1】 現代ファッション論
- 【2】 日本服飾文化史
- 【3】 表現心理学
- 【4】 身体表現Ⅱ
- 【5】 空間構成Ⅰ
- 【6】 画像表現
- 【7】 ドローイング・構想
- 【8】 グラフィックデザインⅡ
- 【9】 服飾表現演習
- 【10】 色材演習
- 【11】 服飾表現史
- 【12】 空間構成Ⅱ
- 【13】 立体造形構想
- 【14】 近代日本モード史
- 【15】 マーケティング・データサイエンス論
- 【16】 衣装デザイン・制作Ⅰ
- 【17】 スタイリング演習Ⅰ
- 【18】 ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅰ
- 【19】 ショープロデュースⅠ
- 【20】 映像・メディア表現Ⅰ
- 【21】 アパレル素材論
- 【22】 画像設計演習
- 【23】 ドローイングⅡ
- 【24】 和服構成論・実習Ⅰ
- 【25】 和服構成論・実習Ⅱ
- 【26】 衣服管理
- 【27】 染色化学
- 【28】 繊維ファッション産業構造論
- 【29】 ファッション史
- 【30】 プライダルファッションプランニングゼミ
- 【31】 インターンシップ
- 【32】 色彩論
- 【33】 家庭経営学
- 【34】 家庭電気・機械
- 【35】 食物学(実践栄養学)
- 【36】 家庭情報処理

■キャリア■

- 【37】 キャリアプランニング

■教養科目■

- 【38】 心理学A
- 【39】 心理学B
- 【40】 憲法
- 【41】 社会福祉学A
- 【42】 社会福祉学B
- 【43】 化学A
- 【44】 化学B
- 【45】 体育B

■教養科目〔外国語〕■

- 【46】 英語(総合)A
- 【47】 英語(総合)B
- 【48】 ワールド・カルチャーA
- 【49】 ワールド・カルチャーB
- 【50】 実用英語 A
- 【51】 実用英語 B
- 【52】 ファッション英語 A
- 【53】 ファッション英語 B
- 【54】 フランス語(総合) A
- 【55】 フランス語(総合) B
- 【56】 ファッションフランス語 A
- 【57】 ファッションフランス語 B
- 【58】 中国語(総合) A
- 【59】 中国語(総合) B
- 【60】 中国語(会話) A
- 【61】 中国語(会話) B

■学芸員■

- 【62】 博物館経営論
- 【63】 博物館資料論
- 【64】 博物館資料保存論

現代ファッション論

鈴木 桜子

2年 前期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

「ファッションとは何か？」この問いに答えるのは容易ではありません。ファッションは私たちにとって最も身近な存在でありながら、個人と社会、歴史、文化、思想等のあらゆる領域と複雑に絡み合いながら現在に至っています。

本授業では、衣服と直接的な身体との関係、社会現象としての流行とメディアとの関係、様々な視点からファッションの現在の意味を問う展覧会に焦点をあて、「ファッション」について深く考えて行くことを方針としています。本授業は、ディスカッション、学生同士の相互評価、プレゼンテーションによるアクティブラーニングを重視します。

■到達目標（学修成果）

「ファッション」について、ディスカッションを通して自らのファッション論を導き出すことを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は服飾表現学科2年次の必修科目であり、卒業要件科目です。ファッションに関する多角的な視点を持ちながら専門性を高めていくための科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「ファッション」を考える なぜ衣服を着るのか	予習：シラバスの確認	10分
2回	I. ファッションと身体 ①コルセット	復習：授業ノート確認＋関連事項の調査	40分
3回	②化粧	復習：授業ノート確認＋関連事項の調査	40分
4回	③女性の服・男性の服	復習：授業ノートの確認＋α	40分
5回	④ディスカッション	予習：ディスカッションの準備	100分
6回	⑤レポートの評価	復習：レポート評価の振り返り	20分
7回	II. ファッションとメディア ①ファッション写真	復習：授業ノート確認＋関連事項の調査	40分
8回	②ファッション雑誌	復習：授業ノート確認＋関連事項の調査	40分
9回	③かわいい世界	復習：授業ノート確認＋関連事項の調査	40分
10回	④ディスカッション	予習：ディスカッションの準備	100分
11回	⑤レポートの評価	復習：レポート評価の振り返り	20分
12回	III. ファッションと展覧会①「ファッションと色彩」展	復習：授業ノート確認＋関連事項の調査	40分
13回	②「ラグジュアリー」展	復習：授業ノート確認＋関連事項の調査	40分
14回	③「○○○○○」展	復習：授業ノート確認＋関連事項の調査	40分
15回	プレゼンテーションと評価	予習：プレゼンテーションの準備	100分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッション時のレポート、プレゼンテーションは、受講者同士で評価をし、フィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ディスカッション&授業内レポート2回＋プレゼンテーション1回
※上記に関する受講生同士の相互評価

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

授業内で紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

沢山の服飾関連の授業を受講している皆さんにとって大事なことは、時に立ち止まり、物事を深く考える時間を持つことです。現在、ファッションについて社会学や哲学の立場から論じられている書物が数多く出版されています。それらをヒントに日頃からファッションについて深く考えてみましょう。

日本服飾文化史

梅谷 知世

2年 前期 必修 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

アジアの東端に位置する日本は、古くから中国をはじめとする諸外国の影響をうけながら、独自の美意識に基づく豊かな服飾文化を作りだし成熟させてきました。この講義では、服飾・染織品の実物資料、文献資料、図像資料などを用いて原始・古代から近世にいたる日本服飾の移り変わりを概説します。さらに、各時代の服飾の特質を政治や社会との関係、造形性、美意識、同時代の演劇・美術・文芸との関連性、外国文化の影響などさまざまな視点から捉え、服飾の多様なあり方について考えます。

■到達目標（学修成果）

- 1、原始・古代から近代までの日本服飾の移り変わりを理解し、説明することができる。
- 2、各時代の服飾の特質について、同時代の資料に基づいて理解し説明することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門必修科目の卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日本服飾文化史の視点	予習：シラバスを読み授業概要を理解する	30分
2回	縄文・弥生時代の服飾	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
3回	古墳時代の服飾	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
4回	飛鳥時代の服飾：服制のはじまりと唐風摂取	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
5回	奈良時代の服飾：衣服令と唐風服飾	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
6回	正倉院の服飾・染織	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
7回	平安時代の服飾（1）：和様の開花	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
8回	平安時代の服飾（2）：重ね色目	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
9回	鎌倉・室町時代の服飾（1）武家服飾の成立	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
10回	鎌倉・室町時代の服飾（2）：武家服飾の発展	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
11回	小袖服飾の成立	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
12回	安土桃山時代の服飾：武家服飾の変容と南蛮服飾	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
13回	江戸時代の服飾（1）：武家服制の確立と町人服飾の充実	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
14回	江戸時代の服飾（2）：小袖の開花	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
15回	まとめ	復習：1回から14回の授業内容を振り返り、理解を深める。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回の課題（授業内容の復習）について、次回授業時にフィードバックを行います。質問は随時受け付けます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献

増田美子編『図説日本服飾史事典』（東京堂出版） 増田美子監修『ビジュアル日本の服装の歴史①②③』（ゆまに書房）
その他の参考文献は授業中に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。 研究室：研究棟4階6042A

■備考

博物館や美術館に積極的に足を運び、服飾・染織の実物遺品や絵画作品などの図像資料を見学する機会を持つよう心がけて下さい。

表現心理学—魅力の発見、魅力の伝達—

手島 陽介

2年 前期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本講義では、自己表現や他者理解に目を向け、その基礎・基本を、実践を含めて学習する。自分の持てる魅力や力を存分に発揮できるように表現能力を高める理論と技術を身につけることが目的である。なお、本講義は次の3点から構成している。

第Ⅰ部 表現の歴史的考察(社会心理学) 第1～3回

第Ⅱ部 表現の場面に臨んでの振る舞い(パフォーマンス心理学、ポジティブ心理学) 第4～9回

第Ⅲ部 日常生活の中での自己表現(アドラー心理学、健康心理学) 第10～13回

■到達目標(学修成果)

1. 表現を構成している要素が理解できる。
2. 自分自身の魅力や良さの発見、また他者理解が出来るようになる。
3. 集団の前にて自己表現ができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件に必要な専門必須科目である。表現心理学の知識を実践的に身につけ、社会人としての基礎力・自己表現を培います。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	<実践>構成的グループエンカウンター(場面に応じた行動や感情を考える)[アクティブ・ラーニング]	復習:グループエンカウンターの自己の気づきをプリントに書き込む。	30分
2回	<講義>表現の心理学とは何か、表現の歴史的考察(社会環境・人格・感情)[アクティブ・ラーニング]	復習:プリントと教科書を振り返り、表現の歴史についてプリントに纏める。	60分
3回	<実践>テーマについてグループ毎に話し合い、「個」とは何か、「魅力」とは何かを考える[アクティブ・ラーニング]	予習:グループワークのテーマを考え、授業の準備をする。	60分
4回	<講義>自己表現を支える考え方(日本文化と自己表現、適応的無意識)[アクティブ・ラーニング]	復習:12の権利と表現の定義について振り返り、ノートに纏める	60分
5回	<講義>自己開示と自己呈示①(自己表現と成長、自己一致と不一致)[アクティブ・ラーニング]	復習:自己表現と羞恥性について日常の体験からワークを纏める	60分
6回	<講義>自己開示と自己呈示②(社会的な自己と他者、自己概念)[アクティブ・ラーニング]	復習:社会的な自己と他者について日常の体験からワークを纏める	60分
7回	<講義>コミュニケーションの要素(対人コミュニケーション)[アクティブ・ラーニング]	復習:コミュニケーションの要素について、日常と照らし合わせ例を考える	30分
8回	<講義>非言語的メッセージを考える(ボディランゲージ・フェイスランゲージ)[アクティブ・ラーニング]	復習:日常場面で、非言語的メッセージでのやりとりを実践する	30分
9回	<実践>グループ毎にてテーマを決めて心理劇にて表現する[アクティブ・ラーニング]	予習:グループワークのための、テーマや内容、構成を考え授業の準備をする	60分
10回	<講義>魅力とは何か(アドラー心理学、自己決定性、劣等感、コンプレックス)[アクティブ・ラーニング]	復習:本日の内容を復習し、ワークを纏める	60分
11回	<講義>不安・ストレスなどの感情への対処について考える(アドラー心理学、目的論、認知論、共同体感覚、勇気づけ)[アクティブ・ラーニング]	復習:不安やストレス体験について、日常と照らし合わせワークを纏める	30分
12回	<講義>アサーション技法(自己主張、アサーションについての考え方を理解する)[アクティブ・ラーニング]	復習:アサーション技法について実践をし、気づきをプリントに纏める	30分
13回	<実践>ディベートを通して、アサーション技法を取り入れ実践する(アサーティブな感情表現を考える)[アクティブ・ラーニング]	予習:ディベートの内容について、情報を収集し授業に取り組む	90分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:これまでの授業プリント、教科書、ワークを振り返り、テストの準備をする	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習:返却された課題、テストを振り返り、全15回の授業内容を振り返る	60分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

15回目に課題についての解説とテストの返却をし、本授業のまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

平木典子『アサーション入門—自分も相手も大切に自己表現法』講談社

佐藤綾子『非言語的パフォーマンス—人間関係をつくる表情・しぐさ』東信堂

その他、必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期:水曜日(12:00-15:00)研究室 後期:水曜日(12:00-15:00)研究室

【連絡研究室】心理学研究室(研究棟1階 6015)

■備考

毎時間、プリントと教科書を準備してください

身体表現Ⅱーパフォーマンスー

中村 蓉

2年 前期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

- 前半は主に「身体と感情・言葉・環境の関係性」を探求し、Jポップ・歌謡曲・洋楽の歌詞、小説の一節、映画のワンシーンなどをヒントに、自分だけが持つユニークな身体感覚と身体への意識を起こし、身体を自由にコントロールする楽しさを知る為のワークショップを実施する。
 - 後半は前半で培った身体表現への理解を基に、創作と発表を実施する。
- この授業では身体表現Ⅰをふまえ、授業担当のダンサー・振付家・演出家としての実務経験を活かし、あらゆるパフォーマンスの軸となる上記二点の経験を通し、身体表現の知識を深める。

■到達目標（学修成果）

- 身体への感覚を培うと共に身体機能への知識を深め、自分の身体や感情に対する興味の幅を広げる。また身体の機能にイメージを加えることにより身体表現の幅が広がることを実感し、最終的に「身体への知識」と「想像力」を融合させダンス作品創作に挑戦し、観る側に提示することをできるようにする。
- 身体を作品の素材として捉え「コンセプト」「言葉」「身体」を繋げることで小作品の創作を行い、発表を通し作品のコンセプトを観る側に伝えることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、必修科目である。服飾の根幹である「身体」について実際に身体を動かすことにより得る体感的知識は、全専攻の礎として、表現物の支持体となり活かされていく。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	身体感覚と意識を起こすワークショップ① ～見たことのない自分の「背中」を認識する～	予習:知っているダンスのジャンルを挙げる。好きな振付（CMやMVなど）があれば列挙する。	20分
2回	身体感覚と意識を起こすワークショップ② ～歌詞をヒントに身体にイメージを加えて動く～	予習:好きな音楽（歌詞ありなし問わず）を挙げる。心に残っている印象的な歌詞を列挙する。	20分
3回	身体感覚と意識を起こすワークショップ③ ～他者の身体を使い身体への意識を深める～	予習:生活の中で前を歩く人と同じリズムで歩いてみる。場所による人との距離の違いを意識。（ex.満員電車）	20分
4回	身体感覚と意識を起こすワークショップ④ ～どんなものにも「なりきる」～	予習:好きな彫刻・面白い彫刻の画像を探し保存する。	20分
5回	身体感覚と意識を起こすワークショップ⑤ ～世界の振付家の作品を観る～	予習:これまでに観たことのある舞台作品を列挙する。	20分
6回	身体感覚と意識を起こすワークショップ⑥ ～創作瞬発力チャレンジ・コンセプトを伝える～	予習:生活の中の「出会いと別れ」を探す。	20分
7回	身体感覚と意識を起こすワークショップ⑦ ～日本の振付家の作品を観る～	予習:前々回の授業で紹介した振付家の中で、気になった振付家や作品についてさらに調べる。	120分
8回	小作品創作のグループ分け 作品内容の共有と創作方法の話し合い	予習:興味のあるテーマを考える。	30分
9回	小作品の創作	予習:コンセプトを表現する為に必要な言葉や動きを考える。	30分
10回	小作品の創作	復習:創作の思い出し。予習:コンセプトを表現する為に必要な言葉や動きを考える。	30分
11回	中間発表・講評（ビデオ撮り）	復習:創作の思い出し・練習	60分
12回	創作	予習:中間発表のビデオ確認と課題をまとめる。	30分
13回	創作仕上げ	予習:作品の仕上がり振り返り創作の仕上げに必要なポイントをまとめる。	30分
14回	発表/講評	予習:本番前の身体のケア（ストレッチなど）・作品の練習	120分
15回	発表/講評	予習:作品を踊り切った感触・感想を言葉にまとめる	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

身体の動きについては都度その場でフィードバックを行う。コンセプトシートについてはシートを回収しフィードバックを記して返却する。創作の小作品については中間発表と14、15回目の講評にて発表後に口頭で行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	身体機能への理解度・コントロール力 全体の授業を通し身体の動きを見て判断する。 創作力・発想力 即興の動きとコンセプトシートにより評価する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 必要に応じて、資料を配布する。 ■参考文献 必要に応じて、資料を配布する。

■オフィスアワー・研究室 初回授業で伝える。

■備考 動きやすい服装（スカート不可）での参加。ジャージを持参し替えることも可。

換気・消毒の徹底など、コロナ感染症対策を行いながら進めます。状況により、シラバスの内容が変更になる可能性があります。

空間構成 I

千代崎 寛

2年 前期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

服飾表現学科の5つの専門分野それぞれに共通するテーマである「空間」についての実験と考察を繰り返す。理論的な知識にとどまらず自らの五感を使い身体感覚としての空間意識を獲得していく。メモやスケッチ、画像・映像撮影の記録を各自まとめた「ノート」を課題の軸とする。この授業では特に舞台や店舗における空間構成を主なモチーフとして取り上げていく。日野校舎の環境を最大限に活用し他の科目と横断しながら表現の基礎となる造形力や発想力を養成していく。

■到達目標 (学修成果)

- 1.各専門分野に共通する課題である「空間」について基礎的な考え方やアプローチを行う力を身に付けることが可能となる
- 2.実験・演習とノートによる記録を通して「空間」の重要性について考察や理解ができる
- 3.スタジオ設備とデジタル制作環境の活用によって「空間」を多角的にとらえることができる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー (学位授与の方針) については「空間構成 I」は服飾表現の分野で企画・提案や実際の現場において活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション・授業概説と導入 服飾表現と空間の関係について～ 課題「ノート」について	復習：配布資料 (授業概要、授業計画など) の内容を熟読しておく。	30分
2回	演習①_1「身体スケールからの考察」 課題① フィールドワーク①「身体・視点」	予習：「ノート」準備 復習：フィールドワーク①画像撮影	60分
3回	演習①_2「単位 (ものさし) についての考察」 自身の身体スケールから身の回りの空間の関係をはかる	復習：フィールドワーク①画像撮影・プレゼンテーション用ボード準備	60分
4回	課題①プレゼンテーションとディスカッション・講評 「ノート」提出	予習：演習②へむけてのリサーチ	90分
5回	演習②_1「光と影の演出①」(スタジオ・ライティング演習) 課題② フィールドワーク②「街・視点」	復習：フィールドワーク②画像撮影	60分
6回	演習②_2「光と影の演出②」(スタジオ・ライティング演習)	復習：フィールドワーク②画像撮影・プレゼンテーションボード準備	90分
7回	課題②プレゼンテーションとディスカッション・講評 「ノート」提出	予習：演習③へむけて舞台・店舗のリサーチ	60分
8回	演習③「舞台・店舗空間」(平面から立体へ・背景から) 課題③_1 グループワーク「撮影背景のための美術制作」	予習：美術制作 (素材) のリサーチ 復習：課題③の制作・記録	90分
9回	課題③_2 グループワーク「撮影背景のための美術制作」	予習：美術制作 (技術) のリサーチ 復習：課題③の制作・記録	90分
10回	課題③_3 グループワーク「撮影背景のための美術制作」 スタジオでの撮影	復習：課題③の制作・記録・プレゼンテーションボード準備	60分
11回	課題③プレゼンテーションとディスカッション・講評 「ノート」提出	予習：演習④へむけて街のリサーチ	60分
12回	演習④「空間プランニング」(仮設空間を使った提案) 課題④_1 グループワーク「マケット制作」	復習：課題④の制作・記録	60分
13回	課題④_2 グループワーク「マケット制作」	復習：課題④の制作・記録	60分
14回	課題④_3 グループワーク「マケット制作」 スタジオでの撮影	復習：課題④の制作・記録・プレゼンテーションボード準備	90分
15回	まとめ・展開 課題④プレゼンテーションとディスカッション・講評 「ノート」提出	予習：プレゼンテーション準備 復習：夏期課題・空間構成 II へ	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

ディスカッションと研究ノート・課題返却のコメント、プレゼンテーションの講評などで授業内にて随時フィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	45%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する。

■オフィスアワー・研究室

空間構成研究室 (日野校舎) 基本的には授業実施時間の前後に設ける。目黒校舎でのオフィスアワーは別途掲示する。

■備考

表出されるイメージは過去にみた「もの・こと」からのみ産み出される。イメージを Output し続けるためには常に Input し続ける必要がある。その円環する環境・システムを自分の中に構築して欲しい。

画像表現

中野 希大

2年 前期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

服飾表現における「ファッション写真」について考え、その表現に取り組みます。プライベートフォト、ストリートスナップ、ルックブック、コマーシャルフォト、ビジュアルブックなど、順を追って実践し、それぞれのイメージ構築を行っていきます。また、各自のテーマに沿ったコンテンツ収集と編集を通して、今日の様々なメディア表現を探ります。

■到達目標（学修成果）

- ①カメラを熟知し、目的に合わせてコントロールして撮影できるようになる。
- ②写真（画像）を様々なメディアの表現形式に合わせて活用できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、必修科目の卒業要件科目となります。服飾文化において、イメージ発信者の基礎知識として活きる科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	Theme1 プライベートフォト 課題提示	復習：課題の内容を考え、身近な撮影対象を決める。制作準備を進める。	60分
2回	Theme1 プライベートフォト 編集・制作	制作：プライベートフォトの撮影、セレクトに取り組む。	60分
3回	Theme1 プライベートフォト 提出・プレゼンテーション	制作：プライベートフォトの編集、レタッチに取り組む。	30分
4回	Theme2 ストリートスナップ 課題提示	復習：課題の内容を考え、学内外の撮影対象を決める。制作準備を進める。	60分
5回	Theme2 ストリートスナップ 編集・制作	制作：ストリートスナップの撮影、セレクトに取り組む。	60分
6回	Theme2 ストリートスナップ 提出・プレゼンテーション	制作：ストリートスナップの編集に取り組む。	30分
7回	Theme3 ルックブック 課題提示	復習：ブランドを想定し、服、モデルなど撮影対象、ページ構成を決める。	60分
8回	Theme3 ルックブック 編集・制作	制作：モデルの撮影、セレクトに取り組む。	60分
9回	Theme3 ルックブック 提出・プレゼンテーション	制作：ルックブックのレイアウトに取り組む。	30分
10回	Theme4 コマーシャルフォト 課題提示	復習：広告の内容を考え、学内外の撮影対象を決める。制作準備を進める。	60分
11回	Theme4 コマーシャルフォト 制作	制作：コマーシャルフォトの撮影、セレクトに取り組む。	60分
12回	Theme4 コマーシャルフォト 提出・プレゼンテーション	制作：コマーシャルフォトのレタッチ、構成に取り組む。	30分
13回	Theme5 各自のテーマによるビジュアルブック 課題提示	復習：各自のテーマに沿って、撮影によるコンテンツ収集など制作準備をする。	60分
14回	Theme5 各自のテーマによるビジュアルブック 制作	制作：各メディア表現に合わせた撮影、編集作業などに取り組む。	60分
15回	Theme5 各自のテーマによるビジュアルブック 提出・プレゼンテーション	復習：各メディア表現に合わせた仕上げ作業に取り組む。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出課題については、授業内講評あるいは返却時にコメントを添付する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	ポートフォリオ作品 50%、メディア表現作品 20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

写真の教科書、Photoshop、Illustrator の入門書など、各自のスキルに合わせて持っているといよい。

■オフィスアワー・研究室

前期：月・火曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階） または本校舎1階教務課

後期：木曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階） または本校舎1階教務課

■備考

- ・ カメラを各自で用意すること。デジタル一眼レフやミラーレス一眼を推奨する。ただし、課題や制作内容に合わせてフィルムカメラを含め様々なカメラを使い分けることは構わない。
- ・ 教室のプリンタ使用は原則として授業時間内に行うこと。

ドローイング・構想

瀬古 徹

2年 前期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

1. 「図発想」の能力を養う →図を描くことにより発想をし、又、発想を具体化するために図を描く。
「描かなければ、思いつかない！」
2. 「図表現」の能力を養う →図を言語のように、或いは、それ以上にあつかうために。
「描いたものは、伝わらなくてはならない！」

ものごとを表現する人にとって、「描く」ことが、生活の中で日常化していなくてはならない。描画を通して“思い描く”能力を鍛えて行く。具体的には、絵コンテ、デザイン画、プランニングなどを通して“描くこと”をコミュニケーションの道具に変えていく過程を学んでいく。

■到達目標（学修成果）

1. 「観察力」もとづく「発想力」を喚起させる能力を身に付けことを可能とする。
2. 「イラストによる企画書作成(デザインイメージを含む)」の能力を身に付けることを可能とする

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、必修科目である。服飾表現の根幹である「描くこと⇔思い描くこと」の体感的知識は、全専攻の礎として、表現におけるツールとして活かされていく。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 日常の、ものに対する視点（ものの見方、見え方）について、創作者倫理について	復習；スケッチブックの使用、肉眼での観察の徹底の確認、創作者倫理の確認	30分
2回	・「人物」－簡素な形態表現（出題）→幾何形態の構成による（20点描いて1点を選ぶ） [アクティブラーニング(A.L)] ・専攻による『それぞれの企画書』①説明、導入（出題）	予習；スケッチブック、ペンの準備 復習；ピクトグラム、参考作品確認 復習；「企画書」作成開始、リサーチ	60分
3回	・絵コンテ①（コマの逆絵コンテ）10コマ（出題） ・「人物」（提出）プレゼンテーション、講評 [A.L]	予習；「人物」の作成 復習；TVCMの分析、絵コンテの作成	45分
4回	・スタイリング①（出題）言語によるデザイン画（3点）、感性の言語化、言語の感性化 [A.L] ・専攻による『それぞれの企画書』②途中、プランニング	予習；自分の希望専攻による専門の将来プランニング 復習；言語によるデザイン画作成	45分
5回	・絵コンテ②（提出）プレゼンテーション、講評 [A.L] ・空間把握－1①（出題）「自分の部屋の見取り図」	予習；絵コンテの完成 復習；自分の部屋の測量、見取り図作成	45分
6回	・スタイリング②（提出）プレゼンテーション、講評 [A.L] ・衣装表現－触覚①（出題）フロッターージュで発想（3点）	予習；スタイリングの完成 復習；フロッターージュドローイング作成	45分
7回	・空間把握－1②（提出）プレゼンテーション、講評 [A.L] ・空間把握－2①（出題）自分の部屋の舞台装置化	予習；空間把握－1の完成 復習；自分の部屋の空間カテゴライズ	45分
8回	・衣装表現－触覚②（提出）プレゼンテーション、講評 [A.L] ・プレゼンイラスト①（出題）「親しい人の逆デザイン」	予習；フロッターージュドローイング完成 復習；モチーフ選出、視点の提案、作成	45分
9回	・空間把握－2②（提出）→プレゼンテーション、講評 [A.L] ・専攻による『それぞれの企画書』③途中、プランニング	予習；空間把握－2の完成 復習；「企画書」、素材の質検討	45分
10回	・専攻による『それぞれの企画書』④ブラッシュアップ [A.L]	予習；「企画書」、素材の質検討 復習；「企画書」、素材の質、ページ構成	45分
11回	・専攻による『それぞれの企画書』⑤ブラッシュアップ ・プレゼンイラスト②（検証） [A.L]	予習；プレゼンテーションイラスト完成 復習；モチーフ選出、視点の提案、作成	45分
12回	・専攻による『それぞれの企画書』⑥ブラッシュアップ [A.L]	予習；「企画書」、レイアウトの考察	45分
13回	・専攻による『それぞれの企画書』⑦ブラッシュアップ [A.L]	予習；「企画書」、視点の強化の考察 復習；「企画書」、視点の強化の再確認	45分
14回	・プレゼンイラスト「親しい人の逆デザイン」③ →プレゼンテーション、講評 [A.L]	予習；プレゼンテーションイラスト完成 復習；「企画書」、最終確認	45分
15回	・『それぞれの企画書』⑥プレゼンテーション、講評 ・まとめ→「発想」、「構想」、「全て」について [A.L]	予習；「企画書」の完成、プレゼン準備	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回の作品をプレゼンテーション時に授業内で講評、解説する。また、必用に応じて提出採点後、次回授業最初に、作品の全体的な評価点、問題点等を優秀作品の抜粋等により解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢等
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	通常作品、プレゼンテーション等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 授業の進行に合わせて、必要な場合プリントを配付する

■参考文献 必要に応じて授業時に指示

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示。連絡研究室：大学表現演習研究室(第3校舎1階)

■備考 なし

グラフィックデザインⅡ

土屋 純一

2年 前期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

現在、グラフィックデザインの領域は紙媒体から Web を中心とした電子媒体へ移行しつつある。紙媒体と Web などでは使用するアプリケーションや画像の形式、形態なども異なり違ったスキルが要求されるが、グラフィックデザインⅡではⅠで身につけた知識と Photoshop や Illustrator のスキルをもとに Web ページのデザインにも対応できる力を身につけてゆく。具体的には基本的な構造や html、css などの知識を理解し、Dreamweaver を使用して Web ページのフレームワークから動的なプロトタイプまでを制作することで、視覚的のみならず構造的なデザインについても理解を深める。

■到達目標（学修成果）

単にアプリケーションが使えるようになるのではなく、Web ページの仕組みを理解し、UI/UX だけでなくコーディングも意識したデザインができる基本的な力を身に付けることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定に必要な科目である。全専攻において、現在増えつつある電子媒体を使ったプレゼンテーションなどの情報発信に必要なデザイン能力を身につける為の授業である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	Web ページについて／仕組みや構造の基本、画像形式、画像処理、解像度、色について。	復習：Web 上で使用される画像形式やその特徴、制作方法などについて。	60分
2回	Web ページについて／既成のページ解析を通してファイル構造等を理解する。	復習：Web ページの仕組みの再確認。 予習：html について。	60分
3回	html について／タグの基本。使い方。ページ構築。	復習：タグの確認。 予習：css について。	60分
4回	css について(1)/基本。使い方。	復習：html の完成。 予習：css の応用について。	60分
5回	css について(2)/応用。アクティブ・ラーニング	復習：css の意味と機能の確認。 予習：html と css の関係について。	60分
6回	css について(3)/css によるページデザイン。アクティブ・ラーニング	復習：課題ページの完成。 予習：web ページに使用する素材準備。	180分
7回	Web デザイン(1)／自己作品をもとにした web ページの制作。確認テスト。アクティブ・ラーニング	復習：基本ページのレイアウトの完成。 予習：レスポンス対応について。	60分
8回	Web デザイン(2)／自己作品をもとにした web ページの制作。レスポンス対応。アクティブ・ラーニング	復習：レスポンス対応処理。 予習：各種リンクについて。	60分
9回	Web デザイン(3)／自己作品をもとにした web ページの制作。リンクの設定。アクティブ・ラーニング	復習：自己作品の Web ページを完成させる。 予習：Dreamweave について。	60分
10回	Web デザイン(4)／Dreamweaver について。	復習：Dreamweaver のツールについて。 予習：必要な素材を準備する。	60分
11回	Web デザイン(5)／Dreamweaver によるページ制作。プロフィールページの制作。アクティブ・ラーニング	復習：Dreamweave の基本操作について。 予習：プロフィールページの準備。	60分
12回	Web デザイン(6)／Dreamweaver によるページ制作。CSS デザイナーパネルの活用法。アクティブ・ラーニング	復習：プロフィールページを完成させる。 予習：Dreamweave の機能について	60分
13回	Web デザイン(7)／Dreamweaver によるレスポンスページの制作。アクティブ・ラーニング	復習：レスポンス対応処理。 予習：最終評価課題の対策。	60分
14回	Web デザイン最終評価課題。アクティブ・ラーニング	復習：不具合を確認、修正。課題の完成。 予習：ファイルのまとめ。	60分
15回	Web ページ公開、全作品の鑑賞、講評。ファイル提出	復習：Web ページの分析。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題ごとに個別講評を行う。作品はすべてデータで提出されたものを採点する。提出作品は学内システム内で公開。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	理解度、通常作品、ファイル等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

特に指定しないが授業ごとに紹介し、プリントを配布する。

■参考文献

世界一わかりやすい Dreamweaver 操作とサイト制作の教科書 CC 対応（技術評論社）、デザインの学校／これからはじめる HTML & CSS の本（技術評論社）

■オフィスアワー・研究室

月曜日、火曜日（12時10分～12時50分） 連絡研究室 大学表現演習研究室（第三校舎1階）

■備考

授業に必要な教材はプリント等で配布するが、さらに高度な内容を解説書などで参照して自主的に学習すること。プリント類はすべてファイリングし、授業に毎回持参すること。

服飾表現演習

角倉 典彦・大町 志津子・田中 聖一・中村 のん・中島 ゆう子

2年 前期 必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

自分の専門の系を2年後期に選択するための全系オムニバス授業です。各業界で実務をしている5名の担当者による授業です。

角倉：「映像・メディア表現」の入門編として映像制作の基本を、現役のTVディレクターとカメラマンの解説・指導による演習授業として学ぶ。

大町：衣装表現に必要な知識と表現力とは何かを、写真や映像などで学び実際に形にしていく基礎力を養う。

田中：前期はフロアショーの制作について、完成まで学んでもらう。

中村：スタイリストとは具体的にどのような仕事か。その概要と、プロになるために必要なものは何かについて学ぶ。

中島：VMDの基本を学び、店作りの重要性を理解する。授業担当者の経験に基づき、世界、国内のVMDのあり方を習得できるようにする。

■到達目標（学修成果）

角倉：映像制作のプロセスの基本を理解し、企画、撮影、編集の実践の基本ワークの基礎修得を目標とする。

大町：衣装デザイナーに必要な基本的な知識を得て、各時代のスタイルを理解しデザインできるようにする。

田中：フロアショーの制作について一通りの知識を得て、自らプロデュースできることを目標とする。

中村：スタイリストに必要な基本的な知識を得て、プロとしての仕事に繋げていけるようにする。

中島：ビジュアルマーチャンダイジングの基本を学ぶことで最低限度の用語、知識を学び店作りが分かるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で必修科目。2年後期の専門の系を選ぶためにこの授業を受けることにより、全ての系の授業内容を把握します。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	中村：スタイリストとは。その歴史、仕事内容について。質疑応答あり。人の魅力を見つけるワークショップ	復習：感想レポートを提出	30分
2回	角倉：ファッション映像の実例の提示と映像制作の基本1 企画立案と撮影絵コンテ、簡単な撮影の演習	予習：自分のカメラの動画撮影マニュアルの確認 復習：撮影技術復習	60分
3回	中島：ビジュアルマーチャンダイジングの基本を解説。 視覚に訴える店づくりとマーチャンダイジングの必要性を学ぶ。	復習：分かりやすいVMDのコピーを配布する 基本を覚える。	45分
4回	大町：衣装デザイン・衣装表現について写真や動画などで観ていく。 次回制作予定の帽子についての説明。レポート作成	復習：レポート作成 予習：帽子制作に向けての準備	30分
5回	田中：フロアショー制作の全体構成…スタッフ構成、衣装サンプルの構成、スタイリングまで。	復習：指定したショーの動画鑑賞	30分
6回	中村：映像から学ぶファッションの世界についての講義。参考映画（予定）「ココ・シャネル」	復習：関連映画を観る。感想レポートを提出	120分
7回	角倉：映像制作の基本2 /課題のグループ制作 デジタル編集入門 プレミアの初歩演習 課題編集	予習：パソコン操作の基本 復習：取込み素材の課題編集	180分
8回	中島：嫌いなスタイリング、好きなスタイリングのイメージ画像を集める。コーディネイトさせ、ファッション雑貨も含め提出する。	予習：Pinterestをネットで開き、VMD、ディスプレイに関連する写真を見ておく	45分
9回	大町：帽子制作に向けてのイメージ作り。デザイン画を描き制作。 デザイン相談。	予習：帽子のデザイン画を描く 復習：帽子を完成させる	30分
10回	田中：ショー音楽選曲及び制作、演出プラン、音響設備、ディレクション、進行について	復習：指定したショーの動画鑑賞	30分
11回	中村：スタイリング実践。担当教員による実践と講義のあと、学生が実践し、その場でフィードバック	準備：上下ともに黒の服を着用。服と小物を持参 復習：感想レポートを提出	60分
12回	角倉：映像制作の基本3 スタジオでの特撮と機材の使い方。課題作品講評	予習：取込み素材の課題編集 復習：自作ビデオの制作	60分
13回	中島：温度差による着こなしの違いをマップで提出。夏向け30℃のコーディネイト、冬場5℃のコーディネイトをマップに作成。	予習：雑誌の切り抜き。 復習：PCを使って作成。	45分
14回	大町：プレゼンテーション・ディスカッション・講評 帽子の変化やスタイルについての講義 レポート作成	予習：帽子の完成 復習：レポート作成	30分
15回	田中：モデルのウォーキング、リハーサル、フロアショーの発表。収録したショーの鑑賞。ショーの講評。レポート作成。	復習：授業終了後レポート提出。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

大町・中村：授業の終わりに小レポートを作成し提出後添削して返却します。提出方法は授業内で指示します。

中島：小テストの添削、返却は授業内で指示します。角倉：課題に対しては授業内で講評します。田中：最終日に課題と説明、講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

大町・角倉・田中・中村：特に指定しないが必要に応じて紹介またはプリント配布する。

中島：中島ゆう子著書の教科書のコピーを使いVMD用語を覚える。

■参考文献

大町：三省堂図解ライブラリー ファッションの歴史 ピエロ・ヴェントゥーラ/文・画・徳井淑子「図説ヨーロッパ服飾史」

中島：店づくり&ディスプレイ 商業界発刊 掛川幸代氏著書の本を使い具体的な手法を学ぶ

中村：DVD「ココ・シャネル」 田中：特になし。

■オフィスアワー・研究室

それぞれ担当者の第1回目の授業に指示する。

■備考

大町：予習・復習の時間は各自必要に応じて増減すること。中島・角倉・田中・中村：なし

色材演習

土屋 純一

2年 後期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

素材の色彩と材質感についての観察、発見、収集、分類、検証、構成を行う。具体的には布素材のみならず、ひろく身の回りの「モノ・コト」に眼を向けたフィールドワークから「オリジナルな色と質の資料」を制作し、平面、立体デザインへと応用する。そして将来「素材からのデザインの提案～展開」が出来る視点や可能性を準備する。

■到達目標（学修成果）

造形を行う際の素材の選択や、その特徴を生かした表現方法など色彩と質の構造について理解し、今後の服飾造形表現に応用する素材活用ができるようになる力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定に必要な科目である。造形表現における素材の色彩と材質に対する知識と発想力を高める為の授業である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入／授業概要。「フィールドワーク」の目的、方法。イメージと素材との関係。	復習：ファイル準備。 予習：フィールドワークによる素材調査。	60分
2回	講義／「視覚と触覚／色材と表現方法」、フィールドワークの状況確認。	復習：色材、作品、作家研究。 予習：フィールドワークによる素材収集。	90分
3回	演習①「サンプリング～資料制作」／収集、分類。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	60分
4回	〃／色と材質感。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感のリサーチ。 予習：素材と言葉の収集。	60分
5回	〃／素材の分類。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感と言葉のリサーチ。 予習：素材と言葉の収集。	60分
6回	〃／色とイメージの分類。色や質を表す言葉。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感と言葉のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	60分
7回	講義／「集積した色と質」演習②「サンプリング&リミックス～イメージからの展開」／導入～構造と構成。※演習①講評。	復習：作家研究。色彩と質感のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	90分
8回	〃／イメージからの素材の選択、色の分析。色彩表現と質感表現の技法。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と材質の再考察。 予習：素材収集と分類。	60分
9回	〃／織りによる平面構成。アクティブ・ラーニング	復習：構造と構成の再考察。 予習：素材収集と分類。	60分
10回	演習③「サンプリング&リミックス～立体への展開」／色の立体構成・質の変化。※演習②講評。アクティブ・ラーニング	復習：準備課題「質の変化」完成。 予習：素材と画像の収集。	60分
11回	〃／重層構造による立体表現。アクティブ・ラーニング	復習：立体表現としての材料の選択。 予習：素材と画像の収集。	60分
12回	〃／立体的な視点からのデザイン構成。アクティブ・ラーニング	復習：立体的な視点からの自己作品の分析。 予習：素材と画像の収集。	60分
13回	演習④「サンプリング&リミックス～質のデザイン」／色と材質感のプレゼンテーション。オノマトペ。※演習③講評。アクティブ・ラーニング	復習：画像スクラップの作成。 予習：素材と画像の収集。	60分
14回	〃／デザインのトリミング。アクティブ・ラーニング	復習：画像スクラップの作成。 予習：素材と画像の収集。	60分
15回	まとめ「イメージファイル」／色と質感イメージ。総合講評。	予習：色彩と質感に関するイメージファイルの完成。	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各課題終了後に講評を行う。最終作品ファイルは個別講評、採点后に返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	理解度、通常作品、ファイル等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

進行に合わせて授業内で紹介し、プリントを配布する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日、火曜日（12時10分～12時50分）連絡研究室 大学表現演習研究室（第三校舎1階）

■備考

毎回、授業で説明する「フィールドワーク」を通して、日頃から素材に対する幅広い考察を行うこと。授業準備を怠ると課題演習ができない。すべての配布プリント及び作品はファイルにまとめて毎回授業に持参すること。

服飾表現史

鈴木 桜子

2年 後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

これまで時代の装いはどのように表現され伝えられてきたのでしょうか。1年次の「西洋服飾文化史」で学んだ基礎知識をベースに、授業の前半では絵画を中心に、そこに描かれた時代服飾の意味を読み解き、後半ではストーリーを伴う服飾表現について漫画や絵本の世界を取り上げ考察していきます。授業の方針として、授業の前半・後半共に受講者自ら服飾表現を読み解く題材を取り上げ調査し発表するアクティブラーニングを重視します。調査をする上では、海外の大学や博物館のアーカイブを利用し、調査方法の一つとして海外のHPにも触れていく機会を設けていきます。

■到達目標（学修成果）

受講生は本科目を履修することによって、絵画、絵本、漫画等を資料に、時代と共に発展していった表現技術について学ぶことができ、「服飾」という新たな視点からその表現内容を理解することができるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

服飾表現学科の卒業認定に必要な必修科目です。2年次以降の各専攻において、より専門性を高めて学修していく上での基礎科目になります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス	予習：シラバスを確認する	10分
2回	絵画にみる服飾表現 ～西洋絵画篇～ ①資料の選定	予習：図書館で絵画資料を探す	40分
3回	②調査の方法その1	復習：図書館で関連資料を調査する	40分
4回	③調査の方法その2 プレゼン方法	復習：図書館・HPで関連資料を調査する	40分
5回	④服飾表現を読み解く 事例1	復習：図書館・HPで関連資料を調査する	40分
6回	⑤服飾表現を読み解く 事例2	復習：図書館・HPで関連資料を調査する	40分
7回	プレゼンテーションと評価（1）	発表の準備	100分
8回	プレゼンテーションと評価（2）	発表の準備	100分
9回	漫画・絵本にみる服飾表現 ①資料の選定	予習：漫画・絵本資料を探す	40分
10回	②調査の方法その1	復習：図書館で関連資料を調査する	40分
11回	③調査の方法その2 プレゼン方法	復習：図書館・HPで関連資料を調査する	40分
12回	④服飾表現を読み解く 事例1	予習：図書館・HPで関連資料を調査する	40分
13回	⑤服飾表現を読み解く 事例2	復習：図書館・HPで関連資料を調査する	40分
14回	プレゼンテーションと評価（1）	発表の準備	100分
15回	プレゼンテーションと評価（2）	発表の準備	100分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

2回行われる発表について、受講生同士で相互評価を行いフィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※プレゼンテーション（2回）

※上記についての受講生同士の相互評価

■教科書

なし

■参考資料

The Museum at Fashion Institute of Technology <https://www.fitnyc.edu/museum/>

The Metropolitan Museum of Art <https://www.metmuseum.org>

Victorian & Albert Museum <https://www.vam.ac.uk/> 他

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

なし

空間構成Ⅱ

千代崎 寛

2年 後期 必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

前期「空間構成Ⅰ」をベースにスケールを拡張した3次元空間での応用・展開を図る。時間の変化や音響、照明などの要素を加えさらに五感を使った身体感覚としての空間意識を獲得していく。メモやスケッチ、画像・映像撮影の記録を各自まとめた「ノート」を課題の軸とする。空間意識を持つことで舞台や衣装表現、映像・ショーのディレクションや被写体のスタイリング、ビジュアルマーチャンダイジングへと展開していく。

■到達目標（学修成果）

- 1.各専門分野に共通する課題である「空間」について基礎的な考え方やアプローチを行う力を身に付けることが可能となる
- 2.実験・演習とノートによる記録を通して「空間」の重要性について考察や理解ができる
- 3.スタジオ設備とデジタル制作環境の活用によって「空間」を多角的にとらえることができる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については「空間構成Ⅰ」は服飾表現の分野で企画・提案や実際の現場において活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション・授業概説と導入 服飾表現と空間の関係について～ 課題「ノート」について	復習：配布資料（授業概要、授業計画など）の内容を熟読しておく。	30分
2回	演習①_1「音空間からの考察」 課題① フィールドワーク①「街の音を聴く」	予習：「ノート」準備 復習：フィールドワーク①音の収集	60分
3回	演習①_2「音響のための道具・素材」	復習：フィールドワーク①音の収集・プレゼンテーション用ボード準備	60分
4回	課題①プレゼンテーションとディスカッション・講評 「ノート」提出	予習：演習②へむけてのリサーチ	90分
5回	演習②_1「光の演出①」（舞台・ライティング演習） 課題② フィールドワーク②「商業空間の光のリサーチ」	復習：フィールドワーク②画像撮影	60分
6回	演習②_2「光の演出②」（舞台・ライティング演習）	復習：フィールドワーク②画像撮影・プレゼンテーションボード準備	90分
7回	課題②プレゼンテーションとディスカッション・講評 「ノート」提出	予習：演習③へむけて映像のリサーチ	60分
8回	演習③「映像空間」（多層な空間を考察する） 課題③_1 グループワーク「映像のための美術制作」	復習：課題③の制作・記録	90分
9回	課題③_2 グループワーク「映像のための美術制作」	復習：課題③の制作・記録	90分
10回	課題③_3 グループワーク「映像のための美術制作」 スタジオでの撮影	復習：課題③の制作・記録・プレゼンテーションボード準備	60分
11回	課題③プレゼンテーションとディスカッション・講評 「ノート」提出	予習：演習④へむけてディスプレイ空間のリサーチ	60分
12回	演習④「空間プランニング」（仮設空間を使った提案） 課題④_1 グループワーク「ディスプレイ空間の提案」	復習：課題④の制作・記録	60分
13回	課題④_2 グループワーク「ディスプレイ空間の提案」	復習：課題④の制作・記録	60分
14回	課題④_3 グループワーク「ディスプレイ空間の提案」 スタジオでの撮影	復習：課題④の制作・記録・プレゼンテーションボード準備	90分
15回	まとめ・展開 課題④プレゼンテーションとディスカッション・講評 「ノート」提出	予習：プレゼンテーション準備 復習：夏期課題・空間構成Ⅱへ	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッションと研究ノート・課題返却のコメント、プレゼンテーションの講評などで授業内にて随時フィードバックを行う。15回目提出された「ノート」の添削、返却方法は授業内に指示します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する。

■オフィスアワー・研究室

空間構成研究室（日野校舎）基本的には授業実施時間の前後に設ける。目黒校舎でのオフィスアワーは別途掲示する。

■備考

イメージを具体的に示すための方法・技術は専門の枠内ではなく他の分野への興味や好奇心・経験から得る場合が多いことを体験して知ってほしい。

立体造形構想

桐山 征士

2年 後期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

デザインは学習することで習得が可能である。ただし、短期間では習得できない。

デザインとは、「かっこいいカタチを考える」ことではない。「カタチ」を考える前にやらなければならないことはたくさんある。「かっこいいカタチ」は素人でも考えつく。本来のデザインや造形はもっと高いレベルで存在している。デザインはスタイリング(見た目)ではなく、もっと大所高所から考えなければならない。

デザインは目的に応じて様々な進め方がある。一般的には、ターゲットの設定・調査・分析・整理をした後、ターゲットを設定し目標を掲げ、コンセプトの立案をする。この段階は非常に重要である。それなりの経験値を積みあげれば別だが、いきなり絵を描く(カタチを考える)などありえない。カタチはターゲットとコンセプトが導いてくれる。そこでこの授業では、美術家兼デザイナーの担当教員が「デザイン(造形)の構築法」を指導する。実際にデザインや造形を生業としている者とディスカッションしながら構築法を学ぶ。デザインや造形を独学で習得するのは極めて困難だからである。

1/2 ボディーをベースにし、紙を用いて立体造形を試み、立体的なエスキースのトレーニングをする。コンセプトに見合った造形を構想しながら服を制作する。完成させることだけが目的ではなく、造形力の基礎となる「如何に思考の密度を練り上げるか」に重点を置く。造形表現にマニュアルは存在しない。技法も教えない。その都度適切な方法を考察し選択しなければならない。また、目的に応じた解答の重要性を学び、客観的な視点での判断力を育てる。

■到達目標(学修成果)

デザインプロセスやコンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。コミュニケーション能力が養える。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目。全ての造形に関わる授業に必要な構想力・ディスカッション・プレゼンテーションの基礎力を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	美術家兼デザイナーの担当教員による、デザインとアートの違い・デザインプロセスの講義	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	サンプルの原型から立体造形を体験する。立体によるエスキースの体験。	復習。エスキースを煮詰めておく。	60分
3回	サンプルの原型から立体造形を体験する。パターンを造りカタチを形成する。	復習。今後のエスキースのために立体裁断の理解を深める。	60分
4回	コンセプトの設定① ベースとなる思想の構築 担当教員、助手、学生3者による個別ディスカッション	復習：ベースとなる思想のバリエーションを出す。	60分
5回	コンセプトの設定② ベースとなる思想の決定 担当教員、助手、学生3者による個別ディスカッション	復習：コンセプトを煮詰める。	60分
6回	エスキース① 量のエスキース 担当教員、助手、学生3者による個別ディスカッション	復習：エスキースの量を増やす。	60分
7回	エスキース② 質のエスキース 担当教員、助手、学生3者による個別ディスカッション	復習：エスキースのブラッシュアップをする。	60分
8回	ボディーを用いたエスキース① 担当教員、助手、学生3者による個別ディスカッション	復習：エスキースのバリエーションを出す。コンセプトとの整合性の確認	60分
9回	ボディーを用いたエスキース② 担当教員、助手、学生3者による個別ディスカッション	復習：エスキースのブラッシュアップをする。コンセプトとの整合性の確認	60分
10回	立体裁断① ボディーと紙で立体造形を試みる。 コンセプトに沿った発想で実験する。個別ディスカッション。	復習：立体造形したパターンの整理	60分
11回	立体裁断② ボディーと紙で立体造形を試みる。 コンセプトに沿った発想で実験する。個別ディスカッション。	復習：エスキースのブラッシュアップをする。コンセプトとの整合性の確認	60分
12回	立体裁断③ ボディーと紙で立体造形を試みる。 コンセプトに沿った発想で実験する。個別ディスカッション。	復習：立体造形したパターンの整理 コンセプトとの整合性の確認	60分
13回	立体裁断④ ボディーと紙で立体造形を試みる。 コンセプトに沿った発想で実験する。個別ディスカッション。	復習：立体造形の精度を上げる。 コンセプトとの整合性の確認	60分
14回	立体裁断⑤ 立体造形の精度を上げる。 3者による個別ディスカッション	復習：立体造形の精度を上げる。	60分
15回	1/2 ボディーに装着して完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 適宜プリントを配布

■参考文献 プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ/JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会(著)

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考 初回はパソコン教室で授業を行う。

近代日本モード史

梅谷 知世

2年 後期 必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

日本では明治時代以降、西洋文化の影響を受けて近代化が進められました。服飾をはじめとする生活文化についても、現代の生活に直接結びつくような諸相が見られるようになります。ただし、洋服はすぐに普及したのではなく、少しずつ段階を踏んで浸透していきました。欧米各国との対等な外交関係を目指し、明治初期から男性の公的な装いに洋装が採用される一方、多くの人びとはまず、和装に西洋風を取り入れるという形で自然な和洋折衷形式を作り上げました。大正時代後期以降は生活改善運動や職業婦人の増加等を背景に積極的に洋装となる女性も現われ、洋裁学校が相次いで創設されます。戦後、これらの洋裁学校は洋装の普及に大きな役割を果たすことになりました。

本授業では、このような近代日本の服飾文化について、背景にある社会や文化の状況とともに解説します。

■到達目標（学修成果）

- 1、日本人の衣生活に洋服がどのような経緯で取り入れられ、浸透していったかを理解する。
- 2、伝統的な美意識と西洋趣味の融合した近代の和装の展開について理解する。
- 3、服飾を通して、近代日本社会のあり様や人々の精神性を理解する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門必修科目の卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス	予習：シラバスを確認し授業概要を理解する。	30分
2回	明治時代の洋装① 幕末・文明開化期の洋風摂取	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
3回	明治時代の洋装② 近代国家建設と洋服導入	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
4回	明治時代の洋装③ フロックコートとハイカラ	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
5回	明治時代の洋装④ 鹿鳴館時代の女性の洋装	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
6回	和装の近代化① 束髪の広がり	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
7回	和装の近代化② 洋装品をとり入れた和装	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
8回	和装の近代化③ 女学生の袴姿	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
9回	和装の近代化④ 明治・大正・昭和の着物文様	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
10回	和装の近代化⑤ 百貨店による流行の創出	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
11回	大正時代の洋装 女性の洋装の広がり	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
12回	モダン都市文化とモダンガールの装い	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
13回	戦時中の衣生活と戦後の洋裁文化	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
14回	1960年代以降のファッションと社会	復習：授業内容を振り返りノート整理を行う。	30分
15回	まとめ	復習：1回から14回の授業内容を振り返り、理解を深める。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

リアクション・ペーパーへの回答およびコメントを次回授業時に行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献 授業時に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。研究室：研究棟 6042A

■備考 近代日本の文学作品を読んだり、近代日本の絵画や工芸作品に触れたりする機会を持つよう心がけてください。

マーケティング・データサイエンス論

田中 康寛

2年 前期又は後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

データサイエンスとは何かを社会状況や技術などから理解しつつ、ビジネスにどのように活かせるかを学びます。企業へのアドバイスを 행なっていた経験から、企業の進む方向などにも触れながら説明します。アパレルにおけるデータサイエンスへの取り組みは、特にマーケティング活動を中心に積極的かつ必須となっていますので事例を交えて学んでいけるようにします

- ・データサイエンスとは、そして必要性の背景そして生み出されるビジネス価値と活用事例
- ・統計学とAI/深層学習(ディープラーニング) ・データサイエンスの倫理的留意 ・発展的課題と今後の方向性

■到達目標(学修成果)

データサイエンスとは何かを理解し、アパレル、関連業界にて、どのように活用していくかを検討できるようにします

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、必修科目であり、また卒業要件科目の単位となります。

■授業計画

回数	授業内容(前期)	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	データサイエンスとは何か。そしてなぜ必要か(含:アパレル事例)を、コンサルティングを企業に実施した経験から話します	復習:データサイエンスとは何かを自分の言葉で説明できるようにします	60分
2回	データサイエンスはビジネスにどのように活用しているかを学びます 含: ビッグデータに関して	復習:データサイエンスをどのように活かせるか。説明できるように	60分
3回	データサイエンスによるビジネス価値と活用事例 DXとは何か。DXとデータサイエンスの関連も話します	復習:データサイエンスのビジネス価値整理。各業種でどのようなことに使われているかを理解します	90分
4回	データサイエンティストとはどのような役割や業務を推敲しているかを理解	復習:データサイエンティストの役割業務を理解し、データサイエンスを理解	90分
5回	統計基礎1 統計学の必要性、データとは?さらに見える化など、統計ツールベンダーのアドバイザーを経験したことから、データに関してディスカッションし理解を高めます	復習:身近にあるデータから、データの意味を整理。見える化とは何か考えます	45分
6回	統計基礎2 データ発生メカニズムとデータについて	復習:どのようなデータが必要か(含むオープンデータ、ビッグデータ)	90分
7回	統計概論1 Excelを使用して学びます マナバでデータのやり取りも実施。平均、確率、分散 標準偏差 回帰分析	復習:それぞれの分析の意味を整理します。各分析の必要性を整理します	60分
8回	統計概論2 Excelを使用して学びます。正規分布 相関分析 定性データの定量化分析(次週に続く)	復習:それぞれの意味を理解します。そしてなぜその分析が必要かを考えます	60分
9回	統計 演習 例題(交通ICの乗降データと購買データなどを利用)による分析と発表	復習:各自の発表から何を得られたか、分析の視点などを考え整理します	45分
10回	データ収集の現状 IOT、顔認証など 現状と将来像を説明します	復習:周りにどのようなデータがあるか考えます	45分
11回	AIとは何か。AIの利用及びAIはどのように分析をしているかなど基本を学びます	復習 AIとは何か。データサイエンスでの位置付けを理解します	60分
12回	AIの動向と現状を学びます	復習:AIの動向の整理をします	45分
13回	事例 小売業、アパレル業界でいかにAIが使われているか。なぜ今AIを活用されているのかを説明します	復習:AIのアパレル業界での利用を自分で説明できるようにします	45分
14回	なぜディープラーニングが重要なのかを特徴から説明	復習:ディープラーニングの特徴を整理	60分
15回	データサイエンスの重要性と合わせて、実務におけるデータサイエンス倫理の重要性に関して学びます	復習:倫理について、及びデータサイエンスとは何かを事例を交えて自分の言葉で説明できるようにします。	100分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

試験を2回実施提します。提出された用紙に、評価と課題を記述し返却、同時に返却した回の初めにフィードバックをします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題	70%
期末試験・課題	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書 データ思考が未来を変える(織研新聞社) 最初の講義時に販売します 加えて①補足資料②Excelで講義、

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

講師控え室に在籍

■備考

企業の上層部の方から、その業界、企業ならではの視点で話をいただく予定(V I D E O)です

衣装デザイン・制作Ⅰ

大町 志津子・瀧川 美佐子

2年 後期 選択 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

この授業の目的は衣装表現に必要な知識と表現力を学び、造形技術の基礎力・応用力を身に付けることにある。担当教員の欧米におけるオペラ、バレエ、映画等の衣装デザイナーのキャリアを活かした実践的なデザイン指導や、アパレルメーカーでのモデリスト、パタンナーとしての実務経験に基づく技術指導により各自の衣装に対する表現力を養う。衣装表現に必要な知識と表現力を写真や映像などで学び、造形していくための基礎力、応用力、技術力を養う。

■目標（学修成果）

西洋服飾史の知識を得て時代衣装を把握し、イメージを作りデザイン画を描き実際に制作することができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は服飾表現学科の衣装デザイン専攻の学生にとって必修であり、衣装表現者としての知識と技術を学ぶ科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	大町、瀧川：オリエンテーション ロココ時代の時代背景とスタイルについて講義 デザイン考案（人物像の考察、デザイン画）	予習：シラバスを確認する 復習：時代のリサーチ	30分
2回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション 時代衣装と現代服との関連性について、個別デザイン相談1 瀧川：原型制作1	予習：デザイン画レポート作成 復習：デザイン画レポート修正	30分
3回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、デザイン画の描き方（模写1）、デザインに適した生地や素材の説明 瀧川：原型制作2	予習：参考文献を見ておく 復習：制作を進める	30分
4回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、デザイン相談2 瀧川：トワル制作	予習：課題を進める 復習：レポート、デザイン画修正	30分
5回	大町：映画動画を観て衣装表現を学ぶ、デザイン相談3 瀧川：トワル制作・補正	予習：製図完成 復習：制作を進める	30分
6回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、デザイン画の描き方（模写2） 瀧川：コルセット製図	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
7回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、デザイン相談4 瀧川：コルセットトワル制作・補正	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
8回	大町、瀧川：校外研修（舞台、映画、展覧会鑑賞など）で衣装を立体的に学びレポート提出	予習：題材について知識を得る 復習：レポート作成	30分
9回	大町：8回目に対するフィードバック、レポート提出 瀧川：コルセット生地制作	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
10回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、帽子についての説明 瀧川：コルセット制作	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
11回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、デザイン相談5 瀧川：ストマッカー制作	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
12回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、デザイン相談6 瀧川：帽子制作	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
13回	大町：トータルイメージに向けての考察 瀧川：作品点検	予習：制作を進める 復習：ポートフォリオ作成	30分
14回	大町、瀧川：作品プレゼンテーション、ポートフォリオ提出、撮影・撮影のフィードバック	予習：プレゼンテーションの準備 復習：作品の修正	30分
15回	大町、瀧川：ディスカッション・講評・撮影	予習：撮影準備	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内に提出した課題について随時解説と講評を行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて資料を配布する。

■参考文献 西洋コスチューム大全 ジョン・ピーコック
ドレメ式原型 PATTERN MAKING

Patterns of Fashion Janet Arnold 著 Women's Dress Patterns Susan North and Jenny Tirana 著
三省堂図解ライブラリー ファッションの歴史 ビエロ・ヴェントゥーラ/文・画

■オフィスアワー・研究室 日野校舎 B202 衣装表現研究室 オフィスアワー：第1回目の授業で指示する。

■備考 進捗により日程及び内容を変更する場合もある。感性を磨きより広い視野を持つ事を各自心がける。

スタイリング演習Ⅰ

中村 のん・数井 靖子

2年 後期 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

授業担当者の40年以上にわたるスタイリスト経験を通して実感してきた「もっとも必要な基礎知識」を学びます。各分野のプロたちからのあらゆるニーズに応じていかねばならないスタイリストにとって、流行や時代の変化に敏感であること、また、流行が生まれた時代背景を知っておくことは重要です。二次次では、とくにリバイバルが注目されている現在のファッションにつながる過去のストリートファッションのリアルや、それらが生まれた時代や社会背景について豊富な資料を通して深く学びます。

■到達目標（学修成果）

時代ごとの流行・ファッションの基本を把握できる能力を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

服飾表現学科のスタイリング専攻において卒業認定に必要な必修科目です。より専門性を高めて学修していく上での基礎科目になります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【中村・数井】オリエンテーション スタイリストにとって必要な知識、要素とは何かを講義	予習：シラバスを読んでおく	30分
2回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】50年代「フィフティーズファッション」映画や写真集を資料に、時代背景とファッションの関係の講義（以下に同じく）	復習：感想レポート 復習：50年代ファッションに関する資料を独自に探す	90分
3回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】60年代①「スウィングロンドン」	復習：感想レポート 復習：60年代ファッションに関する資料を独自に探す	90分
4回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】60年代②ブレタポルテの始まり「カルダン」	復習：感想レポート 復習：60年代ファッションに関する資料を独自に探す	90分
5回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】60年代③「モッズスタイル」	復習：感想レポート 復習：モッズファッションに関する資料を独自に探す	90分
6回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】70年代①「ヒッピースタイル」	復習：感想レポート 復習：ヒッピーファッションが生まれた背景について独自に探す	90分
7回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】70年代②「ロックファッションにおけるガリーファッション」	復習：感想レポート 復習：ロックファッションに関する資料を独自に探す	90分
8回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】70年代③「グラムファッション」映画や写真集を資料に、時代背景とファッションの関係についての解説と講義	復習：感想レポート 復習：グラムファッションに関する資料を独自に探す	90分
9回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】70年代④「パンクファッション」	復習：感想レポート 復習：パンクファッションに関する資料を独自に探す	90分
10回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】70年代～80年代にかけて「ファッションの潮目が大きく変わった時期」について	復習：感想レポート 復習：この時代に関する資料を独自に探す	90分
11回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】70年代～80年代にかけて「ニューヨークのアートシーンとファッション」	復習：感想レポート	90分
12回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】80年代①「音楽シーンにみるファッション」	復習：感想レポート 復習：80年代ファッションに関する資料を独自に探す	90分
13回	【中村・数井】【ファッションヒストリー】80年代②「世界の変化とそれに伴うファッションとカルチャーの変化について」	復習：感想レポート	90分
14回	【数井】【ファッションヒストリー】90年代①「ナインティエーのストリートファッション」	復習：感想レポート	90分
15回	【数井】3年次に制作する時代別のマップに関するレクチャー	復習：資料集め 課題図書感想レポート	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、レポートメールや学内システム等の活用）方法

感想文は添削して返却する。各提出作品、レポートに評価を与え、授業内外で返却時にフィードバックをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書：現時点では指定なし。授業時に指定する可能性もあり

授業内容に合わせて授業担当者がプリントを作成して配布。学生は一冊のファイルにまとめる。

■参考文献：必要に応じて授業時に指示。授業担当者所蔵の写真集、書籍等を研究室に保管して、必要に応じて使用。

授業時に使用する映画のDVDや書籍に関して、図書館から借りる、購入する、レンタルする等に関しては、事前に準備する。

学生に購入を求める場合もあります。※「ストリートトラッド」（集英社）※「ファッションスタイルクロニクル」（グラフィック社）

■オフィスアワー・研究室：授業初日に指示します。

■備考：写真展等、フィールドワークの内容により学外に出ることもあります。展示を見るために学外に出ることもあります。学生が準備する備品に関しては、授業時に告知します。進展により、日程及び内容を変更する場合があります。

ビジュアルマーチャンダイジング演習 I

中島 ゆう子

2年 後期 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

VMDの基本を理解し、売り場のつくり方、店舗の動き、販売商品、流行カラー、トレンド分析を含めて売り場つくりの基本を学修し、魅力的な売り場の空間を組立てる。1/10サイズのマケットを作成し、店舗の空間スペース、VP、IP、PPなどを学修する。マケットを活用して、プレゼンテーションを実施。授業担当者のファッション・プロデューサーとしての実務にも触れながら授業を実施します。

■到達目標（学修成果）

実務として売り場でディスプレイ及びVMDを作成できる人材を学修する。魅力的な店舗や展示空間を想定し視覚的に商品の世界観を伝えることができる能力のある人材育成を目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ビジュアルマーチャンダイジング専攻学生の卒業認定に必要な科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	基本用語を暗記。ディスプレイの知識を高める。動線、ファザード、デッドスペース、フォーカルポイントなど。	予習：基本用語の暗記	45分
2回	ネットを使いVMDイメージコラージュ6分類を作成。カラー、ナチュラル、クリスマスなどに6分類する。	復習：完了しなかった課題は自宅で作成。	45分
3回	PCを使いイメージコラージュの作成。それぞれ学生と打合せし、内容確認、及び修正する。	復習：完了しなかった課題は自宅で作成。	45分
4回	イメージコラージュ本日提出。学生より内容確認、説明を聞く。今後リアル店舗のミニチュア版作成のテーマを決定。	予習：ミニチュア店舗のイメージに必要な小物を考える。	45分
5回	市場調査実施。秋冬の売り場がどうなっているか、ディスプレイチェック。店舗のサイズ感を確認。原宿、渋谷地区の商業施設を調査。	復習：市場調査のレポート作成。	45分
6回	VP計画書作成。展開テーマ及びコンセプト、展開期間、ターゲット、ディスプレイ雑貨、陳列方法、展開カラー、イメージスケッチ作成。	予習：マケット作りの準備。	45分
7回	店舗マケット作成① スケジュール表作成。予算表作成。	予習：100円ショップでミニチュア店舗に使う小物を購入。	45分
8回	店舗マケット作成② 魅力的な店頭、驚きが伝わる画期的なVPを作成する。床、壁面、天井の決定。	復習：考えた店舗イメージにずれがないか事前にチェックする。	45分
9回	店舗マケット作成③ 1/10サイズで作成。商品の決定。必要なアイテムをネットからセレクト。	予習：床材、壁面などの材料購入。	45分
10回	店舗マケット作成④ 店舗、什器、サイズを決定し、パネルカット作業の実施。	予習：100円ショップでミニチュア店舗に使う小物を購入。	45分
11回	店舗マケット作成⑤ 床、壁、天井素材をパネルに貼る。什器、ハンガーの作成。	復習：自宅でハンガーなどの小物什器作成。	45分
12回	店舗マケット作成⑥ 学生とディスカッション。イメージカラーを特定し、店舗で販売する商品の選出。	復習：自宅で棚、ラック、マネキンを作成。	45分
13回	店舗マケット作成⑦ 各学生とのディスカッション及び修正。マネキン用VPコーディネート、雑貨などの選出。	復習：VP店舗を完成させる。	45分
14回	店舗マケット店舗⑧ 完成までの最終仕上げ 次週のプレゼン練習。学生とディスカッション、修正。	予習：プレゼンの練習	45分
15回	プレゼンテーション実施。 VP計画書、イメージコラージュを使いプレゼンをする。講評とディスカッション。作品を写真にて保存する。	復習：プレゼンの反省及び修正ポイントの見直し。	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題提出のフィードバックは、授業内で講評、解説し返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

改定第3版国家検定 商品装飾展示技能検定 学科編 実技編 著者：日本ビジュアルマーチャンダイジング協会

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは、日野校舎B棟 B205 B101

■備考

ビジュアルマーチャンダイジング検定に向けて学習します。

ショープロデュースⅠ

田中 聖一

2年 後期 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

長年数多くの種類のショーを制作してきた経験から、後期は本格的で基本的なショーのスタイルを学習します。日野校舎工房やスギノホールをステージにして具体的なショーを立案し制作を体験していきます。

■到達目標（学修成果）

本格的なショーの制作を通じてよりプロフェッショナルなプロデュースを体験し、できるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ショープロデュース専攻の卒業要件科目。ファッションショーの制作から感性と表現力と技術力を専門的に身につける。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッションショー制作の全体構成について。スタッフの構成。衣装サンプルのスタイリングと撮影。	予習：シラバスを読む。	20分
2回	ショーの全体構成から内容の組み立て。衣装サンプルの画像よりスタイリング表の作成	予習：指定したショーの動画鑑賞。	90分
3回	ショー音楽の選曲、編集、作成。演出プランの意見交換と進行表の作成	予習：ショーの構成より音楽を選曲、発表の準備。	30分
4回	スギノホールの音響、照明、映像機材等について総合講義。大学祭準備で音響、照明機材の説明、仕込み。	予習：音楽に重点をおいてショーの動画鑑賞。	30分
5回	大学祭にファッションショーの音響、照明、ディレクション、のスタッフとして参加。	予習：照明に重点をおいてショーの動画鑑賞。	30分
6回	大学祭にファッションショーの音響、照明、ディレクション、のスタッフとして参加。	復習：スギノホールでの大学祭ファッションショーの体験レポート。	30分
7回	学生をモデルとしてフィッティング。シューズ、小物等を加えてのスタイリングカードの作成。	予習：モデルのウォーキングに重点をおいてショーの動画鑑賞。	30分
8回	舞台美術、音響照明設備、ディレクションその他ショーの制作要素についての講義。	予習：指定したショーの動画鑑賞。	30分
9回	ショーのヘアメイクについてアメイクアップアーティストを招いて共同講義。	予習：ヘアメイクに重点をおいてショーの動画鑑賞、ファッション誌の購読	30分
10回	日野校舎工房にて照明設備機材について照明ディレクターを招いて共同講義。	予習：照明に重点をおいてショーの動画鑑賞。	30分
11回	日野校舎工房にて音響および照明設備機材を仕込み、準備	復習：リハーサルからショーの問題点を考える。	30分
12回	日野校舎工房にてテクニカルリハーサル。ディレクション、進行（舞台監督）について	復習：リハーサルからショーの問題点を考える。	30分
13回	日野校舎工房にて学生間でブロックリハーサルおよびランスルーリハーサル。	復習：リハーサルからショーの最終確認	30分
14回	日野校舎工房にてモデルを起用してショーの制作。ショーの映像収録。	復習：ショーの問題点、課題を検討。	30分
15回	制作したショーの収録画像を見て、まとめ、ディスカッション。	復習：これまでの授業をまとめて感想レポート提出。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業中は随時質問を受け付け、口頭ないしはメールにてフィードバックする。15回の授業終了後、期末レポートをメールにて提出。その後講評を添えてメールにて返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾃｰｼﾞｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾃｰｼﾞｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

特に使用しません。

■参考文献

特に使用しません。

■オフィスアワー・研究室

初回授業で指示する。連絡先：教務課

■備考

授業以外に課外演習が加わる可能性があります。

映像・メディア表現 I

角倉 典彦・千代崎 寛・澤野 洋士

2年 後期 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

市販のカメラやスマホを使いパソコンで、フルハイビジョンや4K画質の撮影や編集・特殊効果ができ、TV番組や映画、Web動画を製作することが可能になってきた。しかし機材やソフトは単なるツールであり、自身の意図やイメージを表現する映像・メディアを制作するには、技術はもちろんだが文法やシステムとしての映像・メディアの仕組みや方法論を理解しなければならない。本講座はそれらの学修を、テレビ番組・VP制作の実務経験者や現役の映像ディレクターも講師に交え、講義と演習/実習によって組み立てていく。

■到達目標（学修成果）

どんな企画を立て、どんな撮影をしたら、そしてどんな編集/MAをすればどんな作品(映像・メディア)が完成するのかが理解できる「映像・メディアを作り出す基礎能力」を修得することを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

映像・メディア専攻学生の卒業要件科目で、必修科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	角倉：ガイダンス(授業の目的と進め方) ファッション映像の実例の提示と映像制作の基本1	復習:ファッション映像の検索	30分
2回	角倉：企画立案と撮影絵コンテ、 企画書、台本・構成台本の役割と必要性、作成	復習:配布資料と作成シナリオの整理	60分
3回	澤野：撮影基礎1 ショットの種類とカメラワーク、撮影機材の取り扱い方と撮影手順、	予習:使用カメラのマニュアル熟読 復習:撮影練習	60分
4回	千代崎：スタジオワーク1 日野スタジオの概要と使い方	復習:日野校舎スタジオにて実習する。	60分
5回	澤野：撮影基礎2 レンズの種類と効果、被写界深度 各種三脚の使い方	復習:日野校舎スタジオにて実習する	60分
6回	千代崎：スタジオワーク2 照明基礎知識、インターネット 中継システムの構築1	復習:日野校舎スタジオにて実習する	60分
7回	澤野：編集1 ノンリニア編集 素材の取り込みと基本的な 編集の手順	予習:PCの基本操作の確認 復習:動画取込みの実習	60分
8回	角倉：CM制作1 企画・構想 簡単な企画書作成	予習:課題企画	60分
9回	角倉：CM制作2 企画プレゼンテーション/撮影	復習:課題撮影成・編集	60分
10回	角倉：CM制作3 編集/MA	復習:作品のポートフォリオ作成	60分
11回	角倉：CM制作4 作品プレゼンテーションと講評 著作権特 別講義	復習:配布資料の整理	60分
12回	千代崎：スタジオワーク3 インターネット中継システムの 構築2	復習: 配布資料の整理	60分
13回	澤野：ショートムービーの制作1 企画・構想、シナリオ作成	予習: 企画書、シナリオ作成 復習: 撮影計画の作成	60分
14回	澤野：ショートムービーの制作2 撮影台本、撮影コンテの制作、撮影	予習: 撮影素材の取り込みと整理 復習: 編集計画の作成	60分
15回	角倉：ショートムービーの制作3 編集、タイトル、スーパー、MA 作品講評	予習: 課題作成編集 復習: 作品制作ファイルの作成	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システムについて等の活用）方法

常時質問等を受け付ける。また課題作成発表の際にはその都度講評指導する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし、プリント等随時配布

■参考文献

その都度指示。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示。研究室：日野校舎 B105 映像・メディア表現研究室 連絡：教務課

■備考

日頃からスマホでも良いのでカメラを持ち、構図を学習/考察すること。

また自分の好きな映画やテレビ番組、CM、Web動画などを観て、構成、構図、カット割りなどを意識しながら研究すること。

アパレル素材論

田口 雅子

2年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

アパレルに使用される布に焦点を当て、基本的な知識、専門用語を理解するために説明する。応用力を育成するために、実物サンプルを提示しながら解説し、理解を深める。素材に関する知識と素材そのものが持つ手触りや布の表情など、服飾造形を作り出す素材に関心を寄せ、布の種類や構造を理解し、アパレル素材の基本的な知識を修得することを方針とする。

■到達目標（学修成果）

基本的な素材の名称や性質、専門用語、織物やニット生地に関する知識を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は専門選択科目で、全コース卒業要件科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	繊維→糸→布の製造プロセスと授業内容を説明する。ビデオ視聴	（予習）自分と繊維製品との関係性について考察する	30分
2回	何を着ているのか 素材について	（復習）周囲の布に興味を持つ	30分
3回	布の分類 織物とは 三原組織	（復習）日頃の経験をふまえ、構造から考える特性を考察する	60分
4回	織物の種類と規格、物性について	（復習）素材の特徴が織物に与える影響を考察する	60分
5回	綿について 綿織物	（予習）様々な織物の繊維や糸、加工からできる風合いを観察する	30分
6回	綿織物	（復習）織物名を覚え市場調査をする布の手触りなどを確認する	30分
7回	ウールについて ビデオ視聴	（復習）ウールの風合いを観察し特徴を理解する	30分
8回	毛織物	（復習）織物名を覚え市場調査をする	30分
9回	化合繊維物	（復習）長繊維の布の風合いを観察する	30分
10回	ニット 緯編	（復習）構造を立体的に捉え、特徴を理解する	30分
11回	ニット 緯編	（復習）雑誌や店頭に並ぶ商品を見て、布についてその特徴を理解する	30分
12回	ニット 経編・レース	（復習）構造を立体的に捉え、理解する市場調査を行う	30分
13回	不織布・皮革	（復習）構造を立体的に捉え、理解する布を分類し、理解を深める	30分
14回	染色・加工・産地	（復習）様々な技法があることを理解する	90分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等）のフィードバックを行う	（復習）授業内容を振り返る	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業終了時にmanabaを用いた小テストを行い、翌週答え合わせをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

（出欠席）

■教科書

「アパレル素材の基本」織研新聞社

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（16：20～17：50）研究室（3011）

後期：水曜日（16：20～17：50）研究室（3011）

■備考

なし

画像設計演習

白木 ゆみ香

2年 前期又は後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

画像設計演習での使用ソフトは、Photoshop、4D-BOX（素材設計）、Power Point の計3つです。それぞれのソフトの基本操作や特徴を学び、実際に作品を制作しながら技法を習得し、表現力の拡大を図ります。

■到達目標（学修成果）

それぞれのソフトを活用し、連動させながら、デザイン考案やプレゼンテーションが出来る技術を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、専門選択科目で卒業要件科目の単位となります。専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 4D-BOX（素材設計） 基本操作 ポルカ	予習：シラバスを読む。 復習：ノートの整理。	30分
2回	4D-BOX（素材設計） 基本操作 ストライプ、MIX	復習：ノートの整理。	20分
3回	4D-BOX（素材設計） 基本操作 織り柄	復習：ノートの整理。	20分
4回	ブランド立案に向けてのデザイン出し①	予習：図書館・インターネットにて資料収集。	20分
5回	ブランド立案に向けてのデザイン出し② ハンガーイラスト5体	復習：ノートの整理。	20分
6回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄をのせる	復習：ノートの整理。	20分
7回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄をのせる	復習：ノートの整理。	20分
8回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄をのせる	復習：ノートの整理。	20分
9回	Photoshop テキスタイルのレイアウト、画像作成。	復習：ノートの整理。	20分
10回	Photoshop 絵型のレイアウト、画像作成。	復習：ノートの整理。	20分
11回	Power Point 絵型のレイアウト、画像作成。	復習：ノートの整理。	20分
12回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：図書館・インターネットにて資料収集	20分
13回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：資料準備。	60分
14回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：資料準備。	60分
15回	Power Point 各自の作品をプレゼンテーション。	予習：プレゼン準備。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・作品課題の提出は、PC 関係はデスクトップ上の配布提出 BOX ヘデータでの提出。
指定された日時までに提出のこと。元データは各自で保存しているため、返却はなし。
- ・試験はなし。
- ・プレゼンテーションにて発表の際に講評あり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じてプリント配布。

Fashion Ruler（教材）は各自購買部にて購入してください。

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

【前期】木 14:30~16:00 【後期】水 15:00~16:00

【研究室】デザインCG研究室（研究棟1F）

■備考 進度により、日程および内容の変更あり。

ドローイングⅡ

瀬古 徹

2年 前期又は後期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

1点ずつ丁寧に「絵」＝「作品」を制作していく。テーマは色彩による空間表現である。闇雲に筆を走らせるのではなく、描画の技法やシステムをテーマに作品を制作しながら、徐々に「自分の世界」をつくり上げていく。デザイン画やイラストレーションへ向かうだけではなく、発想や構想などのイメージクリエーションのウォーミングアップに展開することを期待する。

■到達目標（学修成果）

1. 「抽象的」なものの方の見方（現象的ではない）を身に付けるきっかけをつくる
2. 型にはまらないフリースタイルな発想を発見する
3. 1. 2. を導き出すための制作の「方法論」、具体化するための「技法」を身に付ける
4. 手ごたえを感じるディティールの集積によって自分の表現の「世界」をつくりあげる実践力を身に付ける

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、選択科目である。服飾表現における感性の精鋭に活かされる科目として位置づけている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション →カリキュラムの流れとその構造、材料、技法の説明など	予習；鈹物系顔料ガッシュ、細密描画用筆の購入準備	30分
2回	自画像 →グラフィティから→ →2トーンによる稜線の選択、形態の分析〔技法：ガッシュ、不透明色の塗り重ね〕 [アクティブラーニング (A.L)]	予習；頭部骨格、パーツの位置に関して、自らの頭部のスタイリング 復習；鉛筆による頭部のドローイング	60分
3回	〃 →ガッシュ（黒）による塗分け作業 [A.L]	予習；頭部の立体形態の確認 復習；モチーフとしてのファッション雑誌よりの写真の収集	60分
4回	色面による写真の分析 →3トーンによる形態の選択、強調、省略〔技法：ガッシュ、不透明色の塗り重ね〕 [A.L]	復習；図像の転写 予習；1年次「色彩演習」にて得た知識を基にした色彩プランニング	90分
5回	〃 前回作品の講評、フィードバック [A.L]	復習、予習；明部、暗部の作成	90分
6回	〃 [A.L]	復習；作品の完成 予習；柔らかい鉛筆の準備	90分
7回	オートマティズムによるドローイング-1 →“偶然”からの出発、選択、構成〔技法：ガッシュ、ウォッシュによるファンデーションと細密表現〕 [A.L]	復習；“描画”の進行とその検証	30分
8回	〃 前回作品の講評、フィードバック [A.L]	復習；“描画”の進行	90分
9回	〃 [A.L]	復習；画面際への意識、完成 予習；モチーフとしての雑誌写真の準備	90分
10回	ファッションフォトコラージュとそこからの制作 →ビジュアルイメージのサンプリング、リミックス〔技法：コラージュ、ガッシュ総合的技法〕 [A.L]	復習；ファンデーション後、モチーフの転写	90分
11回	〃 [A.L]	復習；“描画”の進行とその検証	60分
12回	〃 前回作品の講評、フィードバック [A.L]	復習；“描画”の進行とその検証	60分
13回	〃 [A.L]	復習；作品の完成 予習；人体パーツ写真コピー準備	60分
14回	オートマティズムによるドローイング-2 →“偶然”からの展開、作品の発想へ〔技法：コラージュ、ガッシュ、ドライブラシ〕 [A.L]	復習；人体骨格を意識したパーツ配置	45分
15回	〃 まとめ→「作品」としての成立、「表現」のありかたに関して 前回作品の講評、フィードバック [A.L]	予習；ドライブラシ技法の練習 復習；ドローイングの専門への応用を考える	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回の提出作品の採点后、次回課題授業途中に、作品の全体的な評価点、問題点等を優秀作品の抜粋により解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢等
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	通常作品等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 授業の進行に合わせて、必要な場合プリントを配付する

■参考文献 必要に応じて授業時に指示

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示 連絡研究室 大学表現演習研究室（第3校舎1階）

■備考 なし

和服構成論・実習Ⅰ

平塚 由美子

2年 前期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

我が国の民族服である和服（平面構成）の形状を理解し、手縫いで基本的な基礎技術を習得し、実物（大裁ちひとえ長着ゆかた）の制作をすることによって更に技術と知識の向上と和服に対する感心を深め、次世代へと継承する力を養う。

■到達目標（学修成果）

和服（きもの）の縫製を学び、進めていく為の総べての手縫いの技法を学び正確に速く縫う技術を習得することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	和服（平面構成）の特徴・和服の基礎知識と名称の説明 大裁ちひとえ長着（ゆかた）製作について、各部の名称 基本的なことについての説明（男物の違いなど）運針用布、 基礎縫い等の用布の裁断、基礎縫い見本標の作成の説明	予習 教科書と和服の基礎知識(P14～21) 浴衣の仕立て方(P.54～61)を読む 和裁用具を準備する。 基礎縫い見本標の作成準備	30分
2回	年間授業計画、用具の説明、運針についての説明、練習 （授業初めに10分間運針をする）基礎の縫い方・止め・くけ について説明し基礎縫い用布に正確に作成	予習 基礎縫い(P.50～53)を読む 復習 運針の練習	30分
3回	基礎縫い見本標を完成させ次週提出 ゆかたの下準備の説明(水通し・地直し・検品等)	復習 基礎縫い実習予定まで終了 運針の練習	30分
4回	学生の各自の採寸（寸法表に記入し毎回必ず持参する） 各自の寸法にてゆかたの柄合わせ・折り積みをする	復習 基礎縫い実習予定まで終了 浴衣地用意	30分
5回	地直しをした後、身頃と袖・おくみの柄合わせをし裁断。 袖のしるしつけをする。	予習 裁ち方教科書(P.62～65)を読む ゆかたは水通しをしてくる。	30分
6回	袖縫いに入る・袖の丸み型の作成、丸みの縫いちぢめ 丸みの始末と袖底の始末の説明	予習 しるしつけ教科書(P.67～69) 袖の縫い方教科書(P.72～73)を 読む	30分
7回	袖口の三つ折りくけの説明と袖の完成	復習 袖縫い実習予定まで終わらせる	30分
8回	身頃の縫い方の説明（各自の寸法を確認）としるしつけの 説明	予習 しるしつけ教科書(P.67～69)を 読む 両袖提出の準備	30分
9回	身頃のしるしつけ 背縫いについて説明と実習（二度縫い） 内揚げの説明 袖二枚完成させ（右・左）提出	予習 背縫い教科書(P.74～75)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
10回	背縫い・内揚げの完成	復習 背縫い・内揚げ実習予定まで 終わらせる	30分
11回	脇縫いの説明と縫代の始末の仕方の説明	予習 脇縫いの始末教科書(P84)を読む	30分
12回	脇縫いと縫い代の始末の完成 衿と上前身頃の柄合わせ	予習 肩当てつけ教科書(P.75～76) いしき当てつけ教科書(P.77) を読む	60分
13回	肩当て、いしき当ての説明と完成 衿と衿を切り離す	復習 試験問題の学習 持ち物 浴衣と半幅帯 腰ひも2本	60分
14回	ペーパーテスト（確認テスト） 浴衣の着身体験（各自浴衣持参、予備の浴衣等有り）	復習 自分で浴衣を着てみる	60分
15回	前期授業のまとめ（前期授業予定表と運針表の提出） テストの返却と答え合わせ 衿の印付け後身頃に縫い付ける	予習 おくみつけ教科書(P.78)を読む	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

前期授業の感想の講評と定期試験の解説は後期授業初回に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)毎週の運針練習による 個別の進歩状態の記録、作品の評価ペーパーテストの成績などにより 総合的に評価する。前期授業内で運針上達の習熟度テストを実施する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

和服の基礎とゆかた製作 熊田・森田・古松・秋山 共著 (有) 創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課(本校舎1階) 出講日：火曜日

■備考

実習Ⅱは、実習Ⅰ（前期の課程）を修了していること

和服構成論・実習Ⅱ

平塚 由美子

2年 後期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

実習Ⅰ（前期）の課程で習得した基礎縫い技法を、実物制作することによって、和服の構成と手縫いの技術等への理解の向上を深める。大裁ちひとえ長着制作後、着装実習と和服・和装に関する基礎知識を学び、日本の伝統衣装である和服に関する技術と知っておくべき知識を習得する事が出来る。

■到達目標（学修成果）

実習Ⅰの成果の上に、大裁ちひとえ長着（ゆかた）の制作達成と共に、和服の構成と和服全般に関する知識を充分理解することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期に引き続き浴衣の制作実習。 おくみしるしつけの確認とおくみつけ	予習 おくみつけ教科書(P.78)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
2回	おくみ付けの完成と縫いしろ(耳ぐけ)の説明 衿下(三つ折ぐけ)の始末と額縁の作り方の説明	予習 衿下から裾回しの三つ折りぐけと 額縁のつくり方教科書(P.85)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
3回	おくみと衿下～裾周りの三つ折りぐけの完成	復習 実習予定まで終わらせる	30分
4回	掛け衿の柄合わせ、衿と掛け衿のしるしつけの説明 本衿にかけ衿を付ける	予習 衿つけ 教科書(P.79)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
5回	各寸法を確認して衿つけの待ち針打ちについて説明、 三つ衿芯の作成	予習 三つ衿芯入れ 教科書(P.80)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
6回	身頃の衿肩回りの印付けをしてから身頃に衿をつける (印と印を正確に合わせる) 三つ衿芯入れ、衿幅を整えてしつけをかける	予習 衿先の始末 教科書(P.81)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
7回	衿先の作り方(男物・女物) 衿ぐけ(本ぐけ)の完成	予習 袖つけ 教科書(P.86)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
8回	袖つけの説明と作成 袖の振り(女物)と人形(男物)の説明	予習 教科書(P.72～73)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	60分
9回	肩当ての始末 袖付けの完成と仕上げ 畳み方を覚える	予習 肩当ての始末 教科書(P.87)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	60分
10回	【着物学】和服の種類を見て触って学ぶ講義 第一回 寿ぎの和服 浴衣の提出開始	復習 実習予定まで終わらせる	60分
11回	第二回 おしゃれ着・遊び着としての和服 浴衣の提出	予習 教科書(P.14～43)を読む	30分
12回	第三回 成人式・卒業式に着る和服 確認テストの範囲 浴衣の提出期限	予習 教科書・配布プリントの範囲を覚える 復習 着物での立ち振る舞いを覚える	60分
13回	第四回 特別な着物 終了後講義のレポートを記入し提出 後期授業予定表に感想を書いて提出	予習 自装の準備(腰ひも2本・半幅帯) 復習 家庭でもう一度着装してみる 確認テストの勉強	30分
14回	確認テスト 各自製作のゆかたの寸法・柄合わせをチェックしながら、 自装・他装で着装して帯結びをし着心地を確認する	準備 自由着装発表の準備	30分
15回	「私のきもの遊び」と題して制作した作品を個性を生かし 自由な発想で着てみる。授業のまとめと感想	着物を自由にアレンジして発表	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内での実技テストと製作作品については14回目で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)、毎週の運針練習による個別の進歩の状態の記録、作品の評価、ペーパーテストの成績などにより総合的に評価する。
後期授業期間末に技術習得状況を確認するため、技術実習テストを実施する。

■教科書

和服の基礎とゆかた製作 熊田・森田・古松・秋山 共著 (有)創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課(本校舎1階) 出講日：火曜日

■備考

実習Ⅱは、実習Ⅰ（前期の課程）を修了していること。

衣服管理

三代 かおる

2年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

衣服は着用による汚れを回復させること(洗濯)と製品本来の性能を維持すること(手入れ、保管)を繰り返した後、廃棄あるいはリサイクルされるという一生を送る。本講義では、衣服を管理するために必要な洗浄理論や適切な保管方法を中心に学ぶ。市販されている洗濯関連商品と衣服により、実生活と結びつけてイメージしやすいように実施する。

■到達目標(学修成果)

市販の衣料用洗剤の種類や成分表示、衣類に付着している取り扱い絵表示、洗濯機や乾燥機の機能に関心を持ち、衣服に適した洗濯や保管を行うことで、最初の綺麗で美しい状態を保持し、長く大切に衣類を扱える能力を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、服飾造形関係の基礎を学習する科目。卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス 衣服管理とは 洗濯に関する知識の確認	予習:シラバスを読む。日常で使用している洗剤の確認をする。	20分
2回	衣服の汚れ 衣服の機能との関係	復習:授業資料の確認をし、衣服の機能を理解する。	30分
3回	水と洗剤 硬度成分の影響	復習:教科書を確認し、硬水の影響を理解する。	30分
4回	衣服の洗浄 洗浄に関わる要因	復習:教科書を確認し、洗浄に重要な要素を理解する。	30分
5回	界面活性剤 分類と構造 洗剤プリント提出	予習:家庭の洗剤成分を調べる。	30分
6回	配合剤 種類と作用	復習:教科書を確認し、界面活性剤と配合剤を理解する。	30分
7回	合成洗剤と環境 現在までの変化	復習:教科書を確認し、合成洗剤の変遷を理解する。総復習する。	120分
8回	中間試験	復習:試験問題を振り返る。	30分
9回	洗浄のメカニズム	復習:教科書、配布プリントを参考にし、洗浄作用を理解する。	30分
10回	実験:界面活性剤の作用 レポート提出	予習:界面活性剤の作用を理解しておく。	30分
11回	家庭洗濯	復習:教科書を確認し、洗濯条件を理解する。	30分
12回	商業洗濯	復習:教科書を確認し、理解する。	30分
13回	漂白と増白	復習:教科書を確認し、漂白剤の使用法を理解する。	30分
14回	衣服の仕上げと保管	復習:授業内容すべての総復習をして理解を深める。	120分
15回	まとめ 課題(試験やレポート等)フィードバックを行う	復習:試験問題を振り返る。	30分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

洗剤プリント、レポートを添削返却、解説、また授業内容課題も適宜行い理解度を確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(フレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(フレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

増子富美ほか著、生活科学テキストシリーズ 被服管理学、朝倉書店、2012

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日(10時30分～10時40分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

後期 水曜日(12時10分～12時50分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考

必ず教科書と配布資料を持ってくること。提出物の期日は守ること。

染色化学

中村 弥生

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

衣服は染色と加工によって、美しさ、快適さが与えられる。染色化学では、アパレル生産において染色加工がどのように行われるか、その方法としくみを学ぶ。また、消費性能としての染色物の堅牢性、染色加工を含むアパレル生産が地球環境や社会に与える影響について考える。さらに工芸染色の技法等についても学ぶ。

■到達目標（学修成果）

アパレル生産の流れを知る。染色や加工も含めた衣服づくり、染色堅牢性などの消費科学的な性能、染色加工による環境への影響などを考慮した衣服作りができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目。服飾を専門とする学生として必要な染料、染色加工等に関する基礎的な知識の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業についての概説	予習：シラバスを読み授業の概要を把握 復習：リアクションペーパー提出方法の確認	20分
2回	アパレル生産における染色加工工程①概要・準備工程	予習：アパレル生産の流れを把握 復習：染色加工前準備工程の確認	30分
3回	アパレル生産における染色加工工程②染色工程・浸染	予習：浸染とは何かを把握 復習：浸染の種類、方法を確認	30分
4回	アパレル生産における染色加工工程③染色工程・捺染	予習：捺染とは何かを把握 復習：捺染の種類、方法の確認	30分
5回	アパレル生産における染色加工工程④仕上げ工程	予習：仕上げ加工とは何かを把握 復習：仕上げ加工の種類と方法の確認	30分
6回	染色加工工程まとめ（資料映像視聴） 2～5回授業の確認テスト	予習：2～5回授業の資料をまとめる 復習：染色加工工程の流れを確認	30分
7回	色素	予習：色が見えるしくみを把握 復習：異なる色に見える理由を確認	30分
8回	染まるしくみ	予習：染まるしくみを把握 復習：なぜ染まるのかを確認	30分
9回	染色物の堅牢性	予習：堅牢性とは何かを把握 復習：堅牢性評価の方法と応用を確認	30分
10回	染まるしくみ・染色物の堅牢性まとめ（資料映像視聴） 7～9回授業の確認テスト	予習：7～9回授業の資料をまとめる 復習：染まるしくみ、堅牢度試験を確認	30分
11回	工芸染色①	予習：工芸染色の種類を把握 復習：工芸染色の技法を確認	30分
12回	工芸染色②（資料映像視聴）	予習：地元周辺地域の工芸染色を把握 復習：工芸染色の現状を確認	30分
13回	染色加工による環境への影響①	予習：染色加工の環境への影響を把握 復習：染色加工の環境への影響を確認	30分
14回	染色加工による環境への影響②（資料映像視聴）	予習：自分のワードローブを把握 復習：環境への影響の現状を確認	30分
15回	まとめ	予習：2～14回授業の資料のまとめ 復習：授業内容整理	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manabaを使った授業前後のリアクションペーパーの提出により受講生は授業の予習・復習を行い、教員はコメントを返す。学生の疑問が解決できる内容の授業を展開する形でフィードバックを行う。確認テストの添削返却および解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

使用しない 資料配布（各回の資料を前週に配付する。授業前に予習すること。）

■参考文献

授業内で提示

■オフィスアワー・研究室

連絡先：本校舎1階教務課（オフィスアワーに関しては初回の授業でお知らせします。）

■備考

- ①第1回目の授業で授業内容や受講に際しての注意などを説明します。必ず出席し、内容を十分理解してから受講して下さい。
- ②受講者数、授業進捗状況等により授業内容が多少変更になる場合があります。

繊維ファッション産業構造論

渡辺 博史

2年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

わが国の繊維ファッション産業は、原料・素材から製品、小売りの各段階による分業体制の利点を生かして発展してきた。しかし、現在はその構造が大きく変化、産業の仕組みを再構築する時代に入っている。繊維ファッション産業のグローバル化は急速に進み、国内需要の減少と海外市場の拡大を想定した産業活動に迫られている。この講義では、繊維ファッション産業の過去の発展形態と、SPA（製造小売業）に代表される業態、シェア経済の広がりによる新たなファッション企業の登場など、産業の現状と今後を学習する。担当教員は日本における唯一のファッションビジネス専門紙である織研新聞の記者歴が長く、その経験をベースに繊維ファッションビジネスを俯瞰して講義するとともに、定量的分析だけでなく、定性評価も盛り込む。

■到達目標（学修成果）

繊維ファッション産業を歴史的に知り、その現状と仕組みを知ることで「専門力」と「仕事力」を育成する。特に産業としてのファッションの視点を重視した講義を通して、供給者、企業家の発想を養っていく。歴史の中から時代のトレンドをとらえ、未来を予測し、産業を俯瞰した人材を養うことを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、専門選択科目の単位となる。専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍するための専門力向上に資する科目とする。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション；ファッションビジネスとは何か 授業の内容を抜粋したハンドアウト（印刷物）を毎回配布する	予習：シラバスを読み、自身の関心を整理しておく	30分
2回	産業の現状と今起こっている変化；産業構造とアパレル産業の規模 衣料品市場の現状	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
3回	繊維産業の発足とアパレル産業の成り立ち；世界に誇る素材産業 産業としてのファッションの発端	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
4回	アパレル産業の成長；産業としてのファッションビジネスの変遷	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
5回	繊維素材産業（1）；川上、川中、川下の理解 繊維原料、紡績、合成繊維	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
6回	繊維素材産業（2）；繊維産地と染色・整理産業、テキスタイル産業の理解	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
7回	アパレル産業（1）；アパレル製造業の歴史と現状 クチュールからプレタへの歴史的転換	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
8回	アパレル産業（2）；アパレル製造業の組織と職種、マーチャンダイジング論	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
9回	アパレル産業（3）；アパレル産業の業種別現状 ランキングにみる企業認識	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
10回	アパレル産業（4）；アパレル小売業の概要 各業態別の企業動向、ランキングにみる企業認識	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
11回	アパレル産業（5）；アパレル専門店の概要 各業種別の企業動向、ランキングにみる企業認識	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
12回	アパレル産業（6）；アパレル製造小売業（SPA）の登場とファストファッション	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
13回	アパレル産業（7）；SPA 産業の概要 主なSPA 企業の成り立ちと現状	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
14回	デジタルがもたらす劇的な変化；シェア経済とオムニチャネルバーチャルフィッティング	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
15回	産業構造論まとめ 論述レポートの作成と提出	これまでのハンドアウトを総合的に整理して自身のファッションビジネスに対する関心をまとめておく	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

最終回で、提出されたレポートは添削のうえ返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 毎回、レジュメ及びハンドアウト資料を配布

■参考文献 授業時に指示します。

■オフィスアワー・研究室

木曜日 12時10分～13時 第3校舎・イノベーション実習室（3300）

■備考 なし

ファッション史

鈴木 桜子

2年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

私たちがいま着ている現代衣服の源流は、およそ100年前に遡ります。その間、多くの革新的なデザイナーが誕生し、流行のファッションが繰り広げられてきました。しかし、一見、一過性の流行と思われがちなその現象の背後には、政治的・社会問題や同時代の芸術・デザイン運動との関連性が見受けられます。

本授業では、近現代を中心に、デザイン諸領域の動向を理解しながら、服飾デザインの理論とその歴史性を探っていくことを方針としています。

■到達目標（学修成果）

時代のデザイン思考を学ぶことによって、学生一人ひとりがファッションに対する考え方を確立していくきっかけの一つになることが本授業の目標です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

選択科目ではありますが、1年次の必修科目「西洋服飾文化史」と合わせて服飾史として通史が完成される内容になっています。本学学生には必須の授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 現代ファッションの100年	シラバスの確認	20分
2回	I. デザイン運動とファッション① ジャポニスム	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
3回	② 改良服運動	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
4回	③ アール・ヌーヴォー	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
5回	④ ウィーン工房	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
6回	⑤ ロシア構成主義とデ・スタイル	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
7回	⑥ バウハウス	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
8回	II. モードの革新者たち① マドレーヌ・ヴィオネ	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
9回	② ガブリエル・シャネル	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
10回	③ エルザ・スカパレリ	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
11回	戦後のモード ディオールからサンローランまで	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
12回	モードの多様化 アンチ・モード	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
13回	日本人デザイナーたち	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
14回	北欧デザインとファッション	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
15回	まとめと復習	予習：これまでのノート+manaba復習 の確認	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回プリントノートを提出し、次回授業時に返却します。また進度に合わせて途中評価をフィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※プリントノートの提出
※manaba復習の取組み
※授業内小テスト

■教科書

Web教材：塚田耕一・鈴木桜子「ファッション史年表：現代ファッションの100年」

(杉野学園衣裳博物館 HP：www.costumemuseum.jp) *プリントとしても配布します。

■参考文献

授業内容に応じて紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

なし

ブライダルファッションプランニングゼミ

井口 多恵子

2年 通年 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

1年次に学んだ服飾造形の基礎、社会人基礎や配色の知識を活かし、全日本ブライダル協会認定のカリキュラムに沿ってブライダルに関する基礎知識を修得します。

■到達目標（学修成果）

- ①全日本ブライダル協会のブライダルファッションプランナーの資格取得の試験に合格する。
- ②ブライダル業界についての理解が深まり、将来のキャリア選択の視野が広がる。
- ③資格取得後は、さらなる上位の資格を目指す一歩になる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件の専門選択科目です。ブライダル業界で活躍できる基礎的な知識の修得に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：ブライダル協会の活動とブライダル業界の現状を学ぶ ウエディングの種類：挙式のスタイルを学ぶ。（全般、神前式）	予習：シラバスを読む テキスト「ブライダルの基礎知識」のオリエンテーションとウエディングの種類を読む。	30分
2回	ウエディングの種類：挙式のスタイルを学ぶ。（キリスト教式、人前式）1回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：1回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：ウエディングの種類を読む。	40分
3回	日本のウエディングの歴史：古来～現代の婚礼スタイルに至るまでの歴史を学ぶ。2回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：2回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：日本のウエディングの歴史を読む。	40分
4回	セレモニー・レセプションの現状とトレンド：多様化する現状を学ぶ。3回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：3回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：セレモニー・レセプションの現状とトレンドを読む。	40分
5回	ファッションコーディネーター：サンプル作品を見ながらウエディングドレスなどに必要な各部名称と各種類を学ぶ。4回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：4回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：ファッションコーディネーターを読む。	40分
6回	ファッションコーディネーター（継続）：サンプル作品を見ながらウエディングドレスなどに必要な各部名称と各種類を学ぶ。5回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：5回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：ファッションコーディネーターを読む。	40分
7回	ファッションコーディネーター実習：チュールレースを使って基本的なウエディングベールを制作する→提出	復習：6回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。	40分
8回	フォーマルファッション：ルールブックを用いて、フォーマルウェアのドレスコードを学ぶ。6回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：ベール制作の配付資料を読み返す 予習：フォーマルファッション、ルールブックを読む。	40分
9回	フォーマルファッション（継続）：ルールブックを用いて、フォーマルウェアのドレスコードを学ぶ 8回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：8回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：フォーマルファッション、ルールブックを読む。	40分
10回	カラーコーディネーター：ウエディングの演出として「色」を活用できるように色彩の基礎を学ぶ。9回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：9回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：カラーコーディネーターを読む。	40分
11回	フラワーコーディネーター：ウエディングの空間演出をする会場装花やウエディングブーケ・ブートニアについて学ぶ。10回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：10回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：フラワーコーディネーターを読む。	40分
12回	フォトスタイリング：花嫁を美しく撮影するための基礎知識を学ぶ。11回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：11回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：フォトスタイリングを読む。	40分
13回	和装コーディネーター：和装の各部名称と身に付ける小物の意味や使用している素材について学ぶ。12回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：12回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：和装コーディネーターを読む。	40分
14回	カップルアテンダント：カップルの身の回りの世話やスケジュールを管理するアテンダントの役割を学ぶ。13回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：13回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：カップルアテンダントを読む。	40分
15回	結納・婚約の現状とトレンド：結納における伝統としきたり、婚約式の形式と特徴について、現状を踏まえて学ぶ。14回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：14回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：結納・婚約の現状とトレンドを読む。	40分

16回	マナー：人と交際するうえで必要なマナー（礼儀作法）を学ぶ。15回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：15回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：マナーを読む。	40分
17回	カラーコーディネート実習：ウェディングに関連するカラーの配色を考えて表を作成する。	復習：配付資料を読み返す。 予習：カラーコーディネートを読み返す。	30分
18回	フラワーコーディネート実習：造花を使って、コサージュを制作する→提出	復習：配付資料を読み返す。 予習：フラワーコーディネートを読み返す。	30分
19回	セレモニー、レセプション会場見学：式の多様化に対応している会場を見学する	復習：配付資料を読み返す。 予習：セレモニー、レセプションを読み返す。	30分
20回	衣装見学：花嫁の和装と洋装を見学し、トレンドや着付け、縫製について学ぶ	復習：配付資料を読み返す。 予習：ファッションコーディネート、和装コーディネートを読み返す。	30分
21回	マナー実習：食事をしながら洋食のマナーを学ぶ	予習：マナーを読み返す。	30分
22回	専門用語：式場で使う用語、宝飾（ジュエリー）用語を学ぶ 16回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：16回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：専門用語を読み返す。	40分
23回	接客知識：お客様に満足してもらえる物やサービスが提供できる知識を学ぶ。22回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：22回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：接客知識を読む。	40分
24回	試験対策1：23回目の内容の授業内テスト 過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ、→提出	復習：23回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：1回目～6回目の内容を読み返す。	40分
25回	試験対策2：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：24回目の出題を見直す。すべての単元に目を通す 予習：8回目～13回目の内容を読み返す	40分
26回	試験対策3：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：25回目の出題を見直す。すべての単元に目を通す 予習：14回目～16回目、22～23回目の内容を読み返す	40分
27回	試験対策4：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：26回目の出題を見直す。すべての単元に目を通す 予習：14回目～16回目、22～23回目の内容を読み返す	60分
28回	試験対策5：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：27回目の出題を見直す。 すべての単元に目を通す	60分
29回	模擬試験：検定試験を想定して行う。	復習：すべての単元に目を通す	60分
30回	まとめ 検定試験の解説	復習：検定試験の問題に目を通す	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

制作した作品について、提出後 manaba にてコメントし、返却する。模擬試験、検定試験について試験実施後に解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	60%	小試験、模擬試験 作品：パール制作、コサージュ制作
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験	20%	全日本ブライダル協会認定ジュニアライセンス検定

■教科書

「ブライダルの基礎知識」全日本ブライダル協会発行
「フォーマルウェア・ルールブック」日本フォーマル協会発行
内容に応じてプリントを配付します。

■参考文献

必要に応じて適時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回授業時にお知らせします。

■備考

日程及び内容は変更することがあります。

検定試験（12月初旬に実施予定）までに30回の授業を確保します。（日程は随時伝えます）

テキストは毎回持参します。

検定料が25,000円（教科書代、受験料、認定証書代を含む）がかかります。なお、見学及びテーブルマナー実習費として11,000円、材料費（パール制作、コサージュ制作）に2,000円が別途かかります。

インターンシップ

北折 貴子

2・3年 集中 選択 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明。希望職種アンケート記入。	予習：企業について研究する。	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する。	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る。	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
14回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書き、報告書をまとめる。	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会での発表（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法（モニタリング含む）

研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を当日発表の場でフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	60%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。教室：2401 教室（第2校舎4階）・研究室：研究棟2階 6021

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）または2年生春休み（評価は3年前期）で2週間以上
研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県

色彩論

水越 綾

2年 後期 選択 (単位 講義)

■授業の方針・概要

本授業は、日本ファッション教育振興協会が実施している『ファッション色彩能力検定試験2級』受験を目的とした科目となりますが、試験対策講座に留めるつもりはなく、皆さんがこの先服飾表現関係の専門的な分野において活かせる力を身に付けて頂くという事を目的としています。その為に、まずは1年次に取得した色彩基礎力の定着が必須となります。そして、その上に専門的な知識を重ねてゆきます。

色的に扱えるようになる為には、単に配色パターンを学ぶだけでは足りません。“なぜそこにその色なのか”を客観的に判断でき、かつ第三者に説明できる力が必要になってきます。

その為に、この授業では色を取り巻く事柄(色の科学、歴史、視覚伝達の仕組み、産業における色彩等)について学び、多角的に色を捉える力を養います。

授業回数とは全8回とはなりますが、知識の定着を目指すことから、対面・manabaを通じて双方向型授業で実施してゆきます。

■到達目標(学修成果)

ファッション色彩能力検定試験2級合格と、服飾表現関係の専門的な分野において色を活かせる力を身に付けることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は専門選択科目の単位となりますが、学部評価として色彩検定2級合格が求められており、視覚取得に当たり必要な知識を身に付けることができます。また、視覚的な感性や表現力を持った服飾表現の専門教育に備えての基礎的な能力を養う科目でもあります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	初回オリエンテーション:学習の進め方 3級で学んだ事の確認 第1章:概論(01 産業と色彩、02 ファッション産業と色彩) 本日の確認問題・解説	予習:3級レベルのおさらい(manabaで事前に取組んでおく) 該当箇所を事前に教科書・問題集で確認する。不明な箇所があれば担当教員に質問をしてクリアにする。 復習:確認テストで間違えた箇所に関しては再度教科書を読み返して、確認しておく。	90分
2回	前回の確認問題・解説 第2章:色彩理論(01 光と色) 本日の確認問題・解説	予習:該当箇所を事前に教科書・問題集で確認する。不明な箇所があれば担当教員に質問をしてクリアにする。 復習:確認テストで間違えた箇所に関しては再度教科書を読み返して、確認しておく。	90分
3回	前回の確認問題・解説 第2章:色彩理論(02 色覚のしくみ) 本日の確認問題・解説	予習:該当箇所を事前に教科書・問題集で確認する。不明な箇所があれば担当教員に質問をしてクリアにする。 復習:確認テストで間違えた箇所に関しては再度教科書を読み返して、確認しておく。	90分
4回	前回の確認問題・解説 第2章:色彩理論(03 色彩と心理-2) 第3章:色彩体系 本日の確認問題・解説	予習:該当箇所を事前に教科書・問題集で確認する。不明な箇所があれば担当教員に質問をしてクリアにする。 復習:確認テストで間違えた箇所に関しては再度教科書を読み返して、確認しておく。	90分
5回	前回の確認問題・解説 第4章:配色と色彩調和 本日の確認問題・解説	予習:該当箇所を事前に教科書・問題集で確認する。不明な箇所があれば担当教員に質問をしてクリアにする。 復習:確認テストで間違えた箇所に関しては再度教科書を読み返して、確認しておく。	90分
6回	前回の確認問題・解説 第5章:ファッション産業における色彩計画 (01 ファッション産業において色彩を取り扱う姿勢、02 情報としての色彩、03 商品企画における色彩計画) 本日の確認問題・解説	予習:該当箇所を事前に教科書・問題集で確認する。不明な箇所があれば担当教員に質問をしてクリアにする。 復習:確認テストで間違えた箇所に関しては再度教科書を読み返して、確認しておく。	90分
7回	前回の確認問題・解説 第5章:ファッション産業における色彩計画(04 生産段階における色彩計画、05 販売における色彩計画) 本日の確認問題・解説	予習:該当箇所を事前に教科書・問題集で確認する。不明な箇所があれば担当教員に質問をしてクリアにする。 復習:確認テストで間違えた箇所に関しては再度教科書を読み返して、確認しておく。	90分
8回	前回の確認問題・解説 第5章:ファッション産業における色彩計画(06 パーソナルコーディネーションと色彩) まとめとポイント整理	予習:該当箇所を事前に教科書・問題集で確認する。不明な箇所があれば担当教員に質問をしてクリアにする。 復習:確認テストで間違えた箇所に関しては再度教科書を読み返して、確認しておく。	90分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

授業時間内及びmanabaを通じてフィードバックをおこないます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書:ファッション色彩[Ⅱ]、ファッション色彩能力検定試験2級問題集(財団法人 日本ファッション教育振興協会)

■参考文献:必要があれば、適宜アナウンス致します。

■オフィスアワー・研究室:オフィスアワーに関しては、決定次第manabaにて告知致します。研究室:研究棟1F6012B情報基礎研究室

■備考:1年次に使用した色彩教材(ファッション色彩[Ⅲ]、カラーペーパー)を用意しておいてください。

家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）

阿部 睦子

2年 前期 選択 （2単位 講義）

■授業の方針・概要

社会生活の基本単位としての家庭を経営する視点から、家族や家庭を巡る諸現象の考察を通して、よりよい生活設計のあり方を探ります。授業形態は講義・演習を基本としますが、授業の展開は学生が主体的に取り組めるようにし、今後、教職の学習指導に活かすことができるとともに、学生自身の生活にいかすことを目指します。

■到達目標（学修成果）

今日の生活スタイルの特徴を理解し、①家族関係・家族心理について、②衣食住の運営について、③家庭経済について、④家庭管理についてなどの視点から家庭経営について系統的に考え理解できるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、選択科目として卒業要件科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業計画、生活構造の概要を知り、家庭生活の本質について考える。	予習：シラバスをよく読む。 復習：配布資料を見直す。	30分
2回	家族の形成と変遷：家族とは何か、家族の形成を中心とした人間生活の成り立ちについて歴史を辿ることで考える。	復習：配布資料を見直し、家族の形成についての理解を深める。	30分
3回	家族や家族関係をめぐる現代の諸現象と問題：現代の家族や家族関係の問題と改善案を考える。	復習：配布資料を見直し、家族関係や家族心理についての理解を深める。	30分
4回	自分らしく生きるための生活設計：生涯を見通す長期、中期、短期の設計など、ライフプランについて考える。	予習：将来をイメージしてくる。 復習：配布資料を見直す。	60分
5回	生活時間の実態と分類：生活時間からワークライフバランスについて考える	復習：配布資料を見直し、生活時間についての理解を深める。	60分
6回	「食べる」：家庭経営を具現化するために、食生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、食生活について理解を深める。	60分
7回	「着る」：家庭経営を具現化するために、衣生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、衣生活について理解を深める。	60分
8回	「住まう」：家庭経営を具現化するために、住生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、住生活に理解を深める。	60分
9回	「育つ・育てる」：子どもを育てる視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、子どもの成長に関しての理解を深める。	60分
10回	「高齢社会」：高齢者の視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し高齢者についての理解を深める。	60分
11回	「買う」：ライフステージ別の家計の具体例を通して家計の実態を知り、家庭経済と家庭管理について考える。	予習：発表者は準備。復習：買うことを通して社会とつながる家庭経済についての理解を深める。	60分
12回	「ジェンダー」：男女共同参画社会をベースに、よりよい家事労働の在り方について考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直しジェンダーについての理解を深める。	60分
13回	「持続可能な社会」：ESD・SDGsを通して、循環型社会を創る消費者のライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、持続可能な社会の形成についての理解を深める。	60分
14回	「シチズンシップ」：家庭経営と協働・共生生活を拓くライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、シチズンシップ教育の広がりについて理解を深める。	60分
15回	まとめ：課題のフィードバックを行い、家庭経営についての理解を深める。	予習：これまでの学習を振り返る。 復習：今後の生活課題を自覚する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

・基本的に授業の前後どちらかに振り返りの時間を設け、ナラティブなど記述する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	・授業姿勢（欠席・遅刻も含む） ・日常課題を重要視する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・生きる力をつける学習-未来をひらく家庭科- 望月 一枝 著者代表 教育実務センター

■参考文献

・21世紀の生活経営-自分らしく生きる- 白井和恵 編著 同文書院

■オフィスアワー・研究室

・授業終了後30分程度・第3校舎講師控え室（第3校舎1階）、その他何かあれば教務室経由でお願いします。

■備考 ・特になし

家庭電気・機械

阿久津 勝利

2年 前期 選択 (1単位 講義)

■授業の方針・概要

社会生活や家庭生活で必要となる「エネルギー変換の技術」の基礎について学びます。生活におけるエネルギーの利用について学んだ上で、日常生活で利用することが多い家庭電気機器等を取り上げ、その仕組みを知り、安全な使用方法と故障等のトラブルに対処する方法について考えます。中学校技術・家庭科における関係する指導の実際についても紹介します。

■到達目標（学修成果）

- ・生活におけるエネルギー変換の技術について関心をもつようになる。
- ・家庭生活中で利用する電気機器等の仕組みの概要を理解し、安全に利用できるとともに、正しく動作しない時に、その原因について考えることができるようになる。
- ・エネルギー変換と利用の技術についての基本を理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修その後	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日常生活におけるエネルギー利用の技術について考え、中学校における指導内容を知る。	予習：中学・高校で学んできた電気や機械に関する学習をふりかえる。 復習：学習指導要領を読んで、中学校・高等学校における指導内容を知る。	90分
2回	道具から機械の発明、機械の定義と発達の歴史、機械の構成について知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
3回	電気エネルギーの発生と利用技術を理解するために必要な基礎知識を確認する。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
4回	電気エネルギーの熱への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
5回	電気エネルギーの光への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
6回	電気エネルギーの動力への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
7回	機械の運動伝達、機構、機械材料について知る。 ミシンの構成と布を縫うしくみについて知る。	復習：関心のある機器を選び、そのしくみについて調べる。	90分
8回	電気の情報伝達への利用について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。 まとめ	復習：選んだ機器について、そのしくみと、取り扱い上の留意点等についてレポートにまとめる。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①授業に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む） ②課題の達成度 ③レポートの内容
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・新しい時代の家庭機械・電気・情報 池本洋一／山下省蔵 共著 ジュピター書房

■参考文献

- ・中学校用 文部科学省検定教科書 新しい技術・家庭 技術分野 代表 田口浩継 東京書籍 令和4年度用
- ・生活家電入門 発展の歴史としくみ 大西正幸 著 技報堂出版
- ・家電が一番わかる 涌井良幸 涌井貞美 著 技術評論社

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（11時30分～15時00分）
連絡研究室：2101教室（第2校舎1階）

■備考

なし

食物学（実践栄養学）

山田 奈緒子

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

栄養素の種類と体内での働きや食生活が関係する生活習慣病など栄養学の基礎を学ぶ。様々な健康・ダイエット情報に惑わされることなく、毎日の食生活やライフステージごとに活用できる正しい知識を身につける。また食物摂取頻度調査、食事記録をつけることにより、自分の栄養摂取状態・食生活・健康状態を見直し、具体的な改善方法を検討する。

■到達目標（学修成果）

食物摂取頻度調査の結果や食事記録から自分の心と体が食生活と密接につながっていることを理解する。その上で、栄養素の特徴やバランス良い食生活とは何かがわかり、実際の食生活で実践できる。

ライフステージごとの食生活上の注意点がわかる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定については専門選択単位（ライフスタイル関係）となります。学位授与の方針については、「食物学（実践栄養学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション—食べるとは？— 食べる意義について	予習：栄養・健康などについて知りたいことを考えまとめておく。 1-2ヶ月の食生活について振り返る。	30分
2回	栄養と栄養素について 栄養素の種類と水の働き	復習：五大栄養素についてまとめる。	30分
3回	炭水化物① 食物繊維の働き	復習：食物繊維の分類と役割についてまとめる。	30分
4回	炭水化物② 糖質の種類と特徴および働き、人工甘味料について	復習：糖質の分類と特徴についてまとめる。	30分
5回	たんぱく質 食物摂取頻度調査の実施 たんぱく質の構造と働き	復習：アミノ酸の種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
6回	脂質① 脂質の種類とコレステロールの特徴	復習：コレステロールの役割と特徴についてまとめる。食事記録の作成。	30分
7回	脂質② 脂質の種類と脂肪酸の特徴	復習：脂質の質についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
8回	ビタミン① 脂溶性ビタミンの種類と特徴	復習：脂溶性ビタミンの特徴と過剰症についてまとめる。食事記録の作成。	30分
9回	ビタミン② 水溶性ビタミンの種類と特徴	復習：水溶性ビタミンの特徴と役割をまとめる。食事記録を作成する。	30分
10回	ミネラル 代表的なミネラルについて特徴と働き	復習：ミネラルの種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
11回	食事摂取基準の読み方について 適切なBMIの理解について	復習：健康的な食生活について考える。食事記録を作成する。	30分
12回	生活習慣病について① 肥満とやせによる問題	復習：生活習慣病の復習および食事記録の作成	30分
13回	生活習慣病について② メタボリックシンドローム、糖尿病、歯の健康など	復習：これまでの食事記録を振り返り、改善点を考える。	30分
14回	4群点数法の利用方法 自分に不足する栄養素と食品について考える	復習：4群点数法の復習および食事記録、レポートの作成	30分
15回	もっと野菜を食べよう 野菜を多く摂取するためにどうするか実験を通して考える	復習：授業の復習およびレポートの作成。正しい食生活を実践する。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

食事記録やレポートについては授業内で講評し、返却する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるので注意すること。 *毎回食事記録を作成し提出する。 また、まとめのレポート課題を提出する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

「白熱教室 食生活を考える」編著者 金子佳代子/松島悦子 アイ・ケイ・コーポレーション (2,400円)

■参考文献

授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考

毎回、教科書とノートを持参すること。

家庭情報処理

阿久津 勝利

2年 後期 選択 (1単位 講義)

■授業の方針・概要

生活や産業における情報の意義や役割を理解し、情報処理に関する技術を高めるとともに、中学校・高等学校の家庭科教員として必要な情報や情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付けることをねらいとします。また、中学校における情報処理に関係する指導の実際について知り、高等学校家庭科における関連科目の指導の方法について考えます。

■到達目標（学修成果）

- ・生活や産業における情報に関する技術について関心を持つようになる。
- ・教員として必要な情報活用能力の基礎が身に付く。
- ・校務や問題解決にコンピュータを活用しようとする意欲が高まる。
- ・情報に関する基本的技術について理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	○情報社会 ・情報とメディアとそれらの特性 ・問題解決の方法 ○中学校、高等学校における情報に関する学習指導要領	予習：自分の情報手段の活用能力を確認する。 復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
2回	○情報デザイン ・情報のデジタル化 ・数値の表現 ・文字、音、画像のデジタル表現 ・データの圧縮 ○表計算ソフトウェアによる成績処理	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
3回	○コンピュータのしくみ ・コンピュータの構成・データ処理のしくみ・論理回路 ○表計算ソフトウェアの利用（関数、マクロ）	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
4回	○情報通信ネットワーク ・ネットワークのしくみ ・インターネットの利用 ○表計算ソフトを利用したデータの分析	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
5回	○プログラミング入門 ・アルゴリズム ・プログラムの仕組み ・プログラムの制御構造（順次 分岐 反復） ○プログラミング1	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
6回	○プログラミング2	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
7回	○プログラミング3	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
8回	○情報技術の適切な活用 ○まとめ	復習：授業内容をふりかえり今後の課題について整理する。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて授業等で返却します。家庭学習の課題をmanaba courseで課します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①活動に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	②課題の達成度
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	③レポートの内容
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・高等学校用 文部科学省検定教科書 高等学校 情報 I Step Forward! 赤堀 侃司 他 著 東京書籍

■参考文献

・中学校用 文部科学省検定教科書 新しい技術・家庭 技術分野 東京書籍 令和4年度用

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（11時00分～15時00分） 連絡研究室：2101教室（第2校舎1階）

■備考

毎時間必ず教科書と授業で配布したプリント類（ファイリングしておく。）を持参してください。また、実習で作成したデータファイルを保存するためのUSBメモリーを各自購入して用意すると便利です。（詳しくは、1回目の講義で説明します。）

キャリアプランニング

渡辺 博史

2年 前期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

激しいスピードで変貌する現代は、終身雇用と年功序列に守られた過去の職業観がまったく通用しない時代である。ダイバーシティや女性の社会進出など、これまでの職業意識を大きく変えることがいまや当たり前になっており、仕事に対するスタンスを早くから身につけることが求められている。「キャリア」の言葉が日本で使われ始めたのは1970年代だが、当時の概念と現在ではその意味、方向性とも変化しているといえよう。自分のキャリアを自ら切り開いて行く能力を身に付け、社会参画意識を高めていくことが学生においても必要なのだ。この講座では、自己発見を促し、現代に働くということを理解させる講義と、企業研究など社会人としての適応能力を学ぶ。講義中盤からは、現在企業で働いているベテランや若い先輩のビジネスライフの活動実態を紹介し、職業的世界の現実理解を深める。担当教員は、日本で唯一のファッションビジネス専門紙である織研新聞の記者歴が長く、その経験をベースに特にファッションビジネスの分野で働くことの意義を学生に伝えていく。

■到達目標（学修成果）

①キャリアプランニングとは何かを知り②社会人としての基礎能力を理解し③社会人、卒業生の体験を聞くことを通して将来像を描ける能力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目の単位となります。全学生の共通必修で、社会人基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション；ノート、アンケート、採点基準、講義概要、ハンドアウト（印刷物）の配布	予習：シラバスを読む	30分
2回	知識・理解：大学4年でやるべき事⇒自立した家族などに聞くインタビュー型アンケートを配布、後日回収する	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
3回	知識・理解：キャリアって何、キャリアをプランニングするための理論を知る	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
4回	知識・理解：「能力」と「キャリアプランの関係」を考える	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
5回	社会人基礎力：「社会人基礎力」を身につける 演習：「自己と他者」を考える	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
6回	就職活動に臨む基本的スタンスを本学の就職部が講義する。就職指導を含め、就職部がサポートする内容などにも触れる	復習：就職部が提供する資料などを読み、具体的な就活イメージを養う	30分
7回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：独立して事業を立ち上げた若手デザイナーに聞く「私の就職時代以」	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
8回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：コレクションデザイナーによる最新ファッションの理解	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
9回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：ファッションメディアにおけるキャリア意識の変遷	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
10回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：変貌する流通現場で働くということ	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
11回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：卒業後に求められる社会人基礎力を身につける	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
12回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：アパレル経営者からみる必要な人材とは	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
13回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：ファッションイベントのいま、キャリアプランニングノート提出	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
14回	職業的世界の現実理解：プレスアタッシュの役割とその職業意識	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
15回	最新ファッションビジネス就職事情（ゲスト講師） まとめ講義、ノート返却	復習：返却されたノートを整理して理解を深める。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

平常点で評価します。大学ノート1冊を用意してください。13回講義の際にこのノートを提出してもらいます。採点後に評価項目を記述して15回講義時に返却しますので就活時に活用してください。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

基本的には講義をもとに自身で作成したノートや配布資料が教科書になります

■参考文献

「Break Down Wall」（尾原蓉子、日本経済新聞出版社）「キャリアデザイン入門」（大久保幸夫、日経文庫）、「働く人のためのキャリア・デザイン」（金井壽宏、PHP新書）

■オフィスアワー・研究室

木曜日 12時10分～13時 第3校舎・イノベーション実習室（3300）

■備考

この科目では、原則として遅刻は認めません。授業中に次のことはしてはいけません。離席、私語、飲食、メールなど授業に関係のないこと。職業的世界の現実理解は専門職社会人のゲスト講師が担当します。

心理学 A

手島 陽介

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

心理学は、人の行動や心を科学的に研究する学問である。本講義では、基礎心理学の分野を中心に、心理学の全体がつかめるよう幅広い領域の理論について、概説する。「心」とは何か、「心理学」とはどのような学問か、グループ学習やディスカッションなど体験的な学習を通して、自ら学び、深めていくことを目指していく。また、服飾業界やビジネス場面において心理学知見がどのように活用されているかにも触れていく。

■到達目標（学修成果）

心理学の領域における概念を理解し知識を身につけるとともに、心理学的な見方ができるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の選択科目で卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心とは何か① ー心理学の定義と研究分野、意識と無意識の世界ー	予習:心理学という学問についてのイメージ、何を学びたいかを考えてくる。	15分
2回	心とは何か② ー心理学の活躍する場、心理学の歴史ー	復習:プリントを振り返り、日常の心理現象について考える	30分
3回	性格の心理 ー個人の性格について、遺伝と環境、性格テストー	復習:パーソナリティテストの結果を見て、自身の現在の状況について振り返る	30分
4回	発達の心理① ー乳幼児期～児童期までの発達段階と課題ーグループディスカッションを通して、発達過程を考える	予習:誕生してから現在までどのような発達経過を辿ってきたのかを考えてくる	15分
5回	発達の心理② ー青年期以降の発達段階と課題、アイデンティティについてーグループワークを行い自我を考える	復習:エリクソンの発達段階説をもとに現在の自分の課題について考える	30分
6回	動機づけ（やる気・モチベーション）のメカニズム ーストレス社会とどう向き合うか、内発的・外発的動機づけー	復習:自身の身の回りのストレスナーについて考えコーピング方法を検討する	30分
7回	コミュニケーション ー人間関係づくり、円滑なコミュニケーションを行うには、非言語的表現と自己表現ー	復習:非言語的コミュニケーションを意識し他者と会話を試してみる	30分
8回	学習はどのように成立するか、記憶の構造とゆがみについて	復習:本日の資料と教科書を振り返り、学習の心理を復習し理解する。	30分
9回	感情のメカニズム① ー人間の感情のメカニズムと分類、感情の表出についてー	予習:ここ最近に感じる感情について、出来事との関連を考えてくる	30分
10回	感情のメカニズム② ー欲求不満の心理、ストレスとストレスナーの関係、自我防衛機制ー	復習:身の回りのストレスナーについて考え、コーピングを試してみる	30分
11回	集団の心理 ー集団の中での行動、社会的促進、リーダーシップについてー	復習:集団の心理的現象について振り返り日常の中での影響について考える	30分
12回	色彩の心理学と服飾 ー色が人のところに影響する要因、知覚（視覚）の機能について、色と服飾の関係ー	復習:インテリアや服など周りの色を観察し、心理的な影響について考察する	30分
13回	自分の強み、自分を知る-日常生活の無意識や認知から自分の強みを発見し表現する、自分とは何者かを考える-	復習:授業プリントを振り返り、再度自分の強みについて振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Aのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期:水曜日(12:00-15:00) 研究室

後期:水曜日(12:00-15:00) 研究室

【連絡研究室】心理学研究室 (研究棟1階 6015)

■備考 毎時間、プリントと教科書を準備してください

心理学B

手島 陽介

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本講義では、「心理学A」の授業内容をもとに、基礎心理学から応用心理学への展開を概説する。グループ学習やディスカッションを通して体験的に学び、心理学的な知見がどのように社会場面に活かされているのかを学習していく。心理学に親しみながら、知識を身につけるとともに、自己理解、他者理解を深めていく。

■到達目標（学修成果）

本講義を通し、論理的な思考力を養い、さまざまな見方や柔軟な行動ができるようになることを目指していく。また、学習したことを、日常生活や社会場面の中で具体的に活用できるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心理学とは何か① ー対人認知と印象形成、意識と無意識ー	予習:身近な心理的な現象について考えてくる	30分
2回	心理学とは何か② ー対人魅力と人間関係を探るー	復習:プリントを振り返り、対人認知の心理について理解する	30分
3回	影響の心理① ー他者からヒトはどのように影響を受けるかを考えるー交渉や説得について考えるグループワークを行う	復習:他者からの影響を受けた経験について振り返り要因を探る	30分
4回	影響の心理② ービジネス場面での影響の心理学を考える、購買の心理学ー	復習:実際のCMや広告などでメディアによる心理的影響について考える	30分
5回	知覚の心理① ーヒトは世界をどのように認識しているのか、ものが見える仕組み、音楽心理学、感覚器官の不思議、ー	復習:教科書とプリントより、錯視や幾何学図形を見て知覚を振り返る	30分
6回	知覚の心理② ー音と脳の関係、音楽で変わる行動心理、音楽療法の世界ー	予習:身の回りの音楽や店舗のBGM、環境音などについて調べてくる	15分
7回	思考の心理① ー「考える」とは何か、問題解決能力とはーグループワークを通して、思考のプロセスを考える	予習:問題を解決した、乗り越えた場面について考えてくる	60分
8回	思考の心理② ー創造性と創造的人格、創造性の段階ーグループワークを通して、創造性について考える	復習:創造的な発想のプロセスを復習し、課題に生かしてみる	30分
9回	犯罪の心理 ー犯罪の背景、サイコパスとは何か、法と心理学、犯罪者の心理、犯罪被害者の心理ー	復習:配布プリントを振り返り、犯罪心理学の定義やデータについて確認する	30分
10回	精神的健康とは ーこころが健康な状態を考えるー	予習:現在の自分の健康状態について考えてくる	30分
11回	心と身体の関係① ー認知・感情・行動・身体から心のバランスを考えるー	復習:心のモデルに、様々な状況を当てはめて考える	30分
12回	心と身体の関係② ー呼吸法とストレス、睡眠などについてー	復習:呼吸について、日常で体験をする	30分
13回	幸福感と人間関係 ー世界の文化と幸福感、主観的幸福感の要因ー	復習:世界の幸福感についてのデータを振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Bのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室 後期：水曜日（12：00-15：00）研究室
【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考

毎時間、プリントと教科書を準備してください

憲法 -法学入門-

東島 日出夫

2年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

この科目では、憲法に関する議論について学ぶことを主としつつも、総体として法学の入門として機能するような工夫を施しながら授業を進めていきます。近年耳目を集めるトピックであって憲法学と関連し得るもの（たとえば、ヘイトスピーチ、PTAに関する賛否、「ブラック企業」における就労など）はもとより、授業の計画に掲げるような様々な単元について、参考文献や具体的な判例・裁判例などを通じて理解を深め、関連する条文の内容及び解釈についての知識を身に付けつつ、法的な思考を養います。

■到達目標（学修成果）

「憲法」や「法学」などという、堅苦しくてつまらないものというようなイメージがあるかも知れませんが、そうした不安を払拭すべく、身近なことから様々な事件などを素材に、分かりやすいだけでなく、将来社会人として生活していく上で役に立つような法的知識が得られるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で、教養選択科目の単位となります。そして、本授業科目は、とりわけ社会人としての資質・能力の向上に貢献します。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス、法解釈とは何か、憲法論の概説	予習：シラバスの熟読、憲法条文の印刷（電子政府 e-Gov サイトで無償入手可）	45分
2回	立憲主義、国民主権、平和主義	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
3回	人権論概説、基本的人権、人権享有主体	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
4回	基本的人権の限界	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
5回	生命・自由・幸福追求権、法の下での平等	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
6回	精神的自由権① -内心の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
7回	精神的自由権② -表現の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
8回	経済的自由権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
9回	人身の自由、国務請求権、参政権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
10回	社会権① -生存権、教育権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
11回	社会権② -勤労権、労働基本権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
12回	統治機構概説、権力分立	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
13回	裁判所、財政・地方自治	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
14回	総括・小試験	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	90分
15回	補論・小試験の解説	復習：試験問題の振り返り	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目にまとめと試験、15回目にその解説をする予定。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

成績評価においては、14回目（予定）に行う授業内試験結果を基本とするが、授業態度・姿勢、日常課題等を加味する。なお、出題する可能性のある箇所は、それぞれの授業回において、その旨をその都度言及するので、復習に力を入れていただきたい。試験には、自筆の講義ノートであれば、持ち込み可とする予定であるが、持ち込み不可など条件を厳しくする場合もある。

また遅刻者は、入室時に入室時間・学籍番号・氏名を指定用紙に記載すること。

■教科書 特に指定しない。板書をするのみならずレジュメ等の資料を配布する。

■参考文献

- ・芦部信喜『憲法（第7版）』（岩波書店、2019年）
- ・初宿正典、大沢秀介他『目で見る憲法（第5版）』（有斐閣、2018年）

■オフィスアワー・研究室 連絡先：教務課（本校舎） 出講日：金曜日

■備考 なし

社会福祉学 A-福祉を知るー

阿部 仁

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

社会福祉とは何か。社会福祉の定義や歴史、わが国の社会福祉制度の概要および動向、その問題状況について概説する

■到達目標（学修成果）

社会福祉に関する基本的知識の修得および自らの社会福祉観の形成

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教養選択科目の卒業要件科目である。卒業後、社会人としてさまざまな分野で活躍するために、常識の範囲内で身につけておかなければならない社会福祉に関する基本的理解を目指す

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 講義の概要、評価方法等についての説明	自らの社会福祉的体験を確認する (予習)	30分
2回	I. 人間生活と福祉 1. 社会福祉とは (1) 意義	なぜ社会福祉制度が必要なのかを考える (予習)	30分
3回	(2) 定義	社会福祉が必要な理由を整理する (復習)	30分
4回	2. 社会福祉の対象	社会福祉の定義を整理する (復習)	30分
5回	II. 社会福祉の歴史 1. イギリスの社会福祉の歴史	社会福祉の対象を整理する (復習)	30分
6回	2. アメリカの社会福祉の歴史	エリザベス救貧法、工場法、福祉国家について理解する (復習)	30分
7回	3. 日本の社会福祉の歴史	セツルメント活動、ソーシャルワークについて理解する (復習)	30分
8回	III. 社会福祉の組織 1. 法制	公的救貧制度の流れを理解する (復習)	30分
9回	2. 機関	日本国憲法第25条、社会福祉法等について整理する (復習)	30分
10回	3. 施設	福祉事務所、児童相談所の業務内容等を理解する (復習)	30分
11回	4. 従事者	児童福祉施設、高齢者福祉施設等について整理する (復習)	30分
12回	5. 経費	保育士、社会福祉士、介護福祉士等の専門職について理解する (復習)	30分
13回	IV. 社会保障制度 1. 社会保障の概要	社会保障関係費、民生費について理解する (復習)	30分
14回	2. 公的扶助	社会保障の必要理由を考える (復習)	30分
15回	3. 社会保険	年金保険、医療保険制度について調べる (予習)	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

第8回授業において、授業内課題を行う。第10回授業において、課題内容の解説とレポート添削の返却を行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新 社会福祉とは何か（第4版）』 大久保 秀子 著 中央法規

■参考文献

授業内にて指示をする

■オフィスアワー・研究室

連絡先 教務課（本校舎1階）

出講日 金曜日

■備考

授業中の私語、飲食、メール等の受講マナーに反する行為は慎むこと

社会福祉学 B—福祉を知る—

阿部 仁

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

社会福祉学 A の授業内容を基に、社会福祉の対象について、さらにその動向や問題点を詳説する

■到達目標 (学修成果)

社会福祉に関する基本的知識の修得および自らの社会福祉観の形成が到達目標である

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は教養選択・卒業要件科目である。卒業後、社会人としてさまざまな分野で活躍するために、常識の範囲内として身につけておかなければならない社会福祉に関する基本的理解を目指す

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション 講義の概要、評価方法等についての説明	自らの社会福祉的体験を確認しておく (予習)	30分
2回	I. 社会福祉の基礎理解 1. 意義 2. 定義	なぜ社会福祉制度が必要なのかを考える (予習)	30分
3回	II. 社会福祉援助技術 1. ソーシャルワークとは 2. ケースワークとは	社会福祉の意義・定義を整理する (復習)	30分
4回	3. グループワークとは 4. コミュニティワークとは	ケースワークの手法を整理する (復習)	30分
5回	III. 社会福祉の対象 1. 貧困と福祉 (1) 貧困とは	グループワーク、コミュニティワークの手法を整理する (復習)	30分
6回	(2) 生活保護制度の概要と動向	相対的貧困と絶対的貧困の違いを理解する (復習)	30分
7回	2. 高齢者と福祉 (1) 高齢社会の動向	生活保護制度の概要と動向について整理する (復習)	30分
8回	(2) 介護保険制度	高齢社会と高齢化社会の違いを理解する (復習)	30分
9回	3. 子どもと福祉 (1) 少子化社会の現状と課題	高齢社会の現状と課題について整理する (復習)	30分
10回	(2) 児童福祉施策の動向	少子化社会の現状について整理する (復習)	30分
11回	4. 女性と福祉 (1) 母子保健 (2) 母子福祉	保育施策や児童養護施設の現状について整理する (復習)	30分
12回	5. 地域と福祉 (1) 地域福祉の意義 (2) 地域福祉の現状と課題	女性福祉についての基本理解と問題点を整理する (復習)	30分
13回	6. 障害と福祉 (1) 障害とは何か	バリアフリー、ユニバーサルデザインについて調べる (予習)	30分
14回	(2) 障害児・者福祉の現状と課題	「障害とは何か」についての基本理解を整理する (復習)	30分
15回	IV. まとめ	障害児・者福祉の現状と課題について整理する (復習)	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

第8回授業において、授業内課題を行う。第10回授業において、課題内容の解説とレポート添削の返却を行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	20%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新 社会福祉とは何か (第4版)』 大久保 秀子 著 中央法規

■参考文献

授業内にて指示をする

■オフィスアワー・研究室

連絡先 教務課 (本校舎1階)

出講日 金曜日

■備考

授業中の私語、飲食、メール等の受講マナーに反する行為は慎むこと

化学 A—皮膚科学と化粧品科学—

野村 直

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。

■到達目標（学修成果）

皮膚の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と日常の皮膚トラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目です。卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。自身のトラブル回想。	30分
2回	<皮膚概論1>役割と基本構造、理想の肌とは	予習：自身の皮膚と理想について考える。	30分
3回	<皮膚概論2-1>皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
4回	<皮膚概論2-2>皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
5回	<皮膚概論3-1>皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
6回	<皮膚概論3-2>皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
7回	<皮膚概論4>皮膚の疾患、過脂性と乾燥性、ニキビ・ドライスキン	予習：自身の肌質やトラブル、原因と対処法を整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	<皮膚概論5-1>アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30分
11回	<皮膚概論5-2>アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30分
12回	<皮膚概論6-1>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
13回	<皮膚概論6-2>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
14回	<皮膚概論6-3>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物は コメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を以てフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、課題レポートを2回提出するものとする。

■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利顕著 漆畑修改訂 南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンズ著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株) ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室

金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考

授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します。

化学B—皮膚と毛髪と化粧品科学—

野村 直

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。加えて、外部専門家による最新の情報を基にした特別実習や講義も予定しています。

■到達目標（学修成果）

皮膚や毛髪の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と皮膚や毛髪のトラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚や毛髪を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目であり、卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。	30分
2回	<皮膚総論①>皮膚と付属器官の役割と基本構造	予習：自身の皮膚について考えておく。	30分
3回	<皮膚総論②>皮膚トラブル	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
4回	<毛髪概論①-1>毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
5回	<毛髪概論①-2>毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
6回	<毛髪概論②-1>毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
7回	<毛髪概論②-2>毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料の学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	<毛髪概論③-1>ヘアカラー	予習：自身もしくは周りの人のヘアカラーした髪を観察しておく。	30分
11回	<毛髪概論③-2>パーマネントウェーブとくせ毛矯正	予習：自身もしくは周りのパーマやくせ毛矯正した髪を観察しておく。	30分
12回	<毛髪概論③-3>ヘアスタイリング	予習：自身のスタイリングの問題点を整理しておく。	30分
13回	「ヘアケア実用編」企業で毛髪研究に従事している専門家による特別講義を予定	予習：第1回と第12回授業の内容を整理しておく。	30分
14回	「香りの世界」香料開発に長年従事されてきた専門家による特別講義を予定	予習：自身の香りや生活の中の香りについて考えておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物はコメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を持ってフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、進捗確認の実施に併せて課題レポートを2回提出するものとする。

■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利顕著、漆畑修改訂 南山堂、「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンス著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株)ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室

金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考 授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します。

体育 B—身体と表現—

水上 雅子

2年 後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

スポーツも日常の生活も、全て身体活動です。しかし、現在の私たちは“からだ”に対して興味が無く、自分の“からだ”なのに借り物のようです。“からだ”を意識し、どう付き合うのかを学習することは大切です。なぜなら、自分の“からだ”こそ個性であり、身体活動こそ自己を表現する基本だと思うからです。一流のスポーツ選手のパフォーマンスに感動を覚えたことはありませんか。他人の何気ない振る舞いに美しさを感じたことはありませんか。自分の身体活動にも、自然な美しさや自分らしさが表現できたら楽しいと思いませんか。個人種目とチームの課題（ダブルタッチ）で技術向上を目指し学習します。障がい者スポーツ、ニュースポーツを経験し、スポーツでの共生を学習します。

■到達目標（学修成果）

授業では、スポーツを通して自己の表現を探し、自分らしさを発見できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の社会人としての豊かな人間性を涵養することをめざす教養選択科目の単位となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業のイメージづくり manaba 提出方法、到達目標、自己目標の明確化 からだを動かす—姿勢と自分の動き 一人、またはペア、グループでからだを動かす	予習 シラバスを読んでくる。	10分
		復習 自分の体の動きをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
2回	バドミントン① 基本技術の習得 ドライブ・サーブ	復習 シャトルとボールの違いをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
3回	バドミントン② 基本技術の習得 ハイクリア ダブルスゲーム	予習 ダブルスのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
4回	バドミントン③ 基本技術の習得 ドロップ・ヘアピン シングルスゲーム	復習 シングルスとダブルスのルールの確認。基本運動を3日以上実践する。	30～60分
5回	バドミントン④ 応用技術の習得① 正式なルールでのゲーム（ダブルス）	予習 基本技術の確認 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
6回	バドミントン⑤ 応用技術の習得② 正式なルールでのゲーム（グループ）	復習 バドミントンについてレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30～60分
7回	ユニバーサルスポーツ① 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 ユニバーサルスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
8回	『動きの表現—写真』 グループで動きの感じられる作品づくり	予習 作品の構想を考えてくる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
9回	卓球① 基本技術の取得①シングル練習	予習 シングルのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
10回	卓球② 基本技術の習得②ダブルス練習	予習 ダブルスのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
11回	卓球③ 応用技術の習得①正式なルールでのゲーム（チーム戦）	復習 ルールと動きの確認をし、レポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
12回	卓球④ 応用技術の習得②正式なルールでのゲーム（チーム戦）	復習 卓球についてレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30～60分
13回	ユニバーサルスポーツ② 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 ユニバーサルスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
14回	ユニバーサルスポーツ③ 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 ユニバーサルスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
15回	正式ルールでゲームを行う。 各クラスで種目を選択し、実践する。	復習 後期に学んだことを到達目標と比較して振り返りレポートにまとめる。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manaba を使用し、授業内の個人の記録や課題を提出してもらい、コメント・評価を返す。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて資料を配布する。

■参考文献 随時紹介 経験する種目のルール集 『はたらく細胞』（清水茜 講談社）

■オフィスアワー・研究室

初回授業で伝える 【連絡研究室】 体育研究室 (第4校舎1階 体育館横)

■備考 状況に応じて内容が変化することあり。

基本運動：毎回縄跳び（ダブルタッチなど）・腹筋・背筋—体力維持、ストレッチなど、身体活動の生活化

英語（総合）A

小林 慶子

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

英語（総合）Aの授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4つのスキルを伸ばしていくことを目的とします。教科書の各ユニットでは、さまざまなトピックについて英語で学びます。特に、耳から音声を何度も聞き、口に出して練習することで教科書に出てきた会話表現を使って話せるようになることに重点を置きます。授業の最後にはプレゼンテーションを通して自分の興味関心について発表できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけること、またそれらを使えるようになること。リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになること、自分の意見を適切に表現できるようにすること。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての英語（総合）Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、教科書の進め方、自己紹介など	シラバスを読む。	30分
2回	Unit 1 Campus Life アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
3回	Unit 1 Campus Life（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
4回	Unit 2 Weekends アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
5回	Unit 2 Weekends（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
6回	Unit 3 Japanese Culture アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
7回	Unit 3 Japanese Culture（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
8回	Unit 4 Healthy Living アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
9回	Unit 4 Healthy Living（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
10回	Unit 5 Fashion アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
11回	Unit 5 Fashion（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
12回	Unit 6 Lifestyle アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
13回	Unit 6 Lifestyle（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
14回	まとめ	前期範囲の総復習	30分
15回	講評	前期範囲の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

単語テストや章のテストは採点し、1-2週間内に返却します。返却の際に解答の基準や要点を説明します。ワークシートなどはコメントをつけて返却します。優れたコメントはクラスで紹介します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	小テスト、発表（+発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

Chat and Share! Topic Starters for Today's Students 話してみよう! トピックベースの英会話（金星堂）

■参考文献

授業内で提示します。

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

すべての英語レベルの学生が履修可能です。

英語（総合）B

小林 慶子

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

英語（総合）Bの授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4つのスキルを伸ばしていくことを目的とします。教科書の各ユニットでは、さまざまなトピックについて英語で学びます。特に、耳から音声を何度も聞き、口に出して練習することで教科書に出てきた会話表現を使って話し、自分の意見を言えるようになることに重点を置きます。授業の最後にはプレゼンテーションを通して自分の興味関心について発表できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけること、またそれらを使えるようになること。リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになること、自分の意見を適切に表現できるようにすること。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての英語（総合）Bは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、教科書の進め方、Unit 7について	シラバスを読む。	30分
2回	Unit 7 Celebration	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
3回	Unit 7 Celebration（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
4回	Unit 8 Travel	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
5回	Unit 8 Travel（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
6回	Unit 9 Food	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
7回	Unit 9 Food（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
8回	Unit 10 The Environment	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
9回	Unit 10 The Environment（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
10回	Unit 11 Business	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
11回	Unit 11 Business（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
12回	Unit 12 The Internet and Social Media	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
13回	Unit 12 The Internet and Social Media（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30分
14回	まとめ	前期範囲の総復習	30分
15回	講評	前期範囲の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

単語テストやUnitのテストは採点し、1-2週間内に返却します。返却の際に解答の基準や要点を説明します。ワークシートなどはコメントをつけて返却します。優れたコメントはクラスで紹介します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	小テスト、発表（+発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

Chat and Share! Topic Starters for Today's Students 話してみよう！トピックベースの英会話（金星堂）

■参考文献

授業内で提示します。

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

すべての英語レベルの学生が履修可能です。

ワールド・カルチャーA

小林 慶子

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

各国のDVDの映像を見ながら、その国に関する一般的な知識を深めるとともに、各国で話されている「英語」に目を向けることで、英語がいわゆる英語圏のものだけではなく、それぞれの国の言語文化背景が反映されたものであることへの理解を深めます。また、教科書の様々なアクティビティを通じて、リスニング、ライティング、リーディング、スピーキングの4技能を高めることが出来ます。

■到達目標（学修成果）

諸外国の社会文化事情及びその国で話されている「英語」やその他の言語について理解できるようになること。また、英語のボキャブラリー、リスニング、ライティング、リーディングの継続的スキルアップをめざします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのワールドカルチャーAは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数		準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入、授業の説明 教科書や授業の進め方、Introduction	【予習】シラバスを読む。【復習】授業に必要なものを準備する。辞書など。	30分
2回	Chapter 1 India	【復習】教科書の予習、復習をする。インドについて知識を深める。	30分
3回	Chapter 1 India（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
4回	Chapter 2 Philippines	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
5回	Chapter 2 Philippines（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
6回	Chapter 3 Thailand	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
7回	Chapter 3 Thailand（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
8回	Chapter 4 Vietnam	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
9回	Chapter 4 Vietnam（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
10回	Chapter 5 Korea	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
11回	Chapter 5 Korea（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
12回	Chapter 6 France	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
13回	Chapter 6 France（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
14回	まとめ	前期の総復習	30分
15回	講評	前期の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

単語テストやChapterのテストは採点し、1-2週間内に返却します。返却の際に解答の基準や要点を説明します。ワークシートなどはコメントをつけて返却します。優れたコメントはクラスで紹介します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	小テスト、発表（+発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

World Adventures 映像で学ぶ世界の文化と英語（金星堂）

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

ワールドカルチャーAとワールドカルチャーBは、授業の概要・目的はほぼ同じですが、扱うトピックは異なります。現代の言語事情・世界情勢・文化事情に注目します。

ワールド・カルチャーB

小林 慶子

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

各国のDVDの映像を見ながら、その国に関する一般的な知識を深めるとともに、各国で話されている「英語」に目を向けることで、英語がいわゆる英語圏のものだけではなく、それぞれの国の言語文化背景が反映されたものであることへの理解を深めます。また、教科書の様々なアクティビティを通じて、リスニング、ライティング、リーディング、スピーキングの4技能を高めることが出来ます。

■到達目標（学修成果）

諸外国の社会文化事情及びその国で話されている「英語」やその他の言語について理解できるようになること。また、英語のボキャブラリー、リスニング、ライティング、リーディングの継続的スキルアップをめざします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのワールドカルチャーAは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数		準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入、授業の説明 教科書や授業の進め方、Introduction	【予習】シラバスを読む。【復習】授業に必要なものを準備する。辞書など。	30分
2回	Chapter 7 Italy	【復習】教科書の予習、復習をする。イタリアについて知識を深める。	30分
3回	Chapter 7 Italy（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
4回	Chapter 8 Denmark	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
5回	Chapter 8 Denmark（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
6回	Chapter 9 Portugal	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
7回	Chapter 9 Portugal（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
8回	Chapter 10 Turkey	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
9回	Chapter 10 Turkey（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
10回	Chapter 11 Egypt	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
11回	Chapter 11 Egypt（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
12回	Chapter 12 South Africa	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
13回	Chapter 12 South Africa（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
14回	まとめ	後期の総復習	30分
15回	講評	後期の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

単語テストやChapterのテストは採点し、1-2週間内に返却します。返却の際に解答の基準や要点を説明します。ワークシートなどはコメントをつけて返却します。優れたコメントはクラスで紹介しします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	小テスト、発表（+発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

World Adventures 映像で学ぶ世界の文化と英語（金星堂）

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

ワールドカルチャーAとワールドカルチャーBは、授業の概要・目的はほぼ同じですが、扱うトピックは異なります。現代の言語事情・世界情勢・文化事情に注目します。

実用英語 A

Kim Collins

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日常会話や仕事の場面での英語でのコミュニケーション方法を学びます。

■到達目標（学修成果）について

本授業を履修することにより、食事の注文、道案内、アドバイス、様々なトピックについての会話、プレゼンテーションなど、日常的な場面で英語でのコミュニケーションができるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養（国際関係）選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての実用英語Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション	【予習】 シラバスを読む	30分
2回	インテリア・単数/複数、前置詞	【復習】 クラスルーム・イングリッシュクイズ	30分
3回	地図・道を教える、尋ねる	【復習】 ジャーナル準備	30分
4回	ジャーナル（あらゆるテーマでのライティングやスピーキング）	【復習】 ジャーナル	30分
5回	食べ物・料理の注文	【復習】 フレーズワークシート	30分
6回	レストランの話	【復習】 クイズ	30分
7回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】 スピーキングテスト準備	60分
8回	中間発表テスト	【予習】 テスト	30分
9回	日常生活・スケジュール	【復習】 ジャーナル準備	30分
10回	ジャーナル（あらゆるテーマでのライティングやスピーキング）	【復習】 ジャーナル	30分
11回	ショッピング・比べる	【復習】 フレーズワークシート	30分
12回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】 クイズ	30分
13回	最終テストのプレゼンテーション準備	【復習】 スピーキングテスト準備	60分
14回	最終テストのプレゼンテーション	【復習】 テスト	30分
15回	最終テストのプレゼンテーションフィードバック	【復習】 テストの復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	会話への参加含む
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	最終プレゼンテーション, 中間発表テスト
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【研究室】 英語研究室（研究棟3階） 【出講日】 金曜日

英語研究室に連絡してください。

■備考

ハンドアウトはA4のファイルに綴じてください。期末に確認します。

実用英語 B

Kim Collins

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日常会話や仕事の場面での英語でのコミュニケーション方法を学びます。

■到達目標（学修成果）

本授業を履修することにより、映画やお祭り、伝統について話したり、さまざまなトピックについて話したり、プレゼンテーションを行ったりするなど、日常的な場面で英語でコミュニケーションをとることができるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養（国際関係）選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての実用英語Bは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	コース紹介と夏休みについての会話	【予習】シラバスを読む 【復習】ワークシート	30分
2回	夏休みについてショー・アンド・テル	【復習】夏休みについてのレポート	30分
3回	好み 好き嫌い - 提案	【復習】ジャーナル準備	15分
4回	ジャーナル（あらゆるテーマでのライティングやスピーキング）	【復習】ジャーナル	30分
5回	Movies ムービーpt1	【復習】ワークシート	20分
6回	Movies ムービーpt 2	【復習】クイズ	60分
7回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】中間テストに向けて復習	30分
8回	中間発表テスト	【復習】中間テスト復習	30分
9回	マインドマップ	【復習】ワークシート	30分
10回	祭りと伝統	【復習】ジャーナル準備	30分
11回	ジャーナル（あらゆるテーマでのライティングやスピーキング）	【復習】ジャーナル	30分
12回	祭りと伝統	【復習】クイズ	30分
13回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】プレゼンテーション準備	60分
14回	最終プレゼンテーション	【予習】プレゼンテーション	30分
15回	フィードバック	まとめ	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	会話への参加含む
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	中間発表テスト、最終プレゼンテーション
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟3階） 【出講日】金曜日

英語研究室に連絡してください。

■備考

ハンドアウト、テスト、プレゼンの準備はA4のファイルに綴じてください。期末に確認します。

ファッション英語 A

北澤 茉奈

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションに関する英語語彙・表現の習得、英文記事の内容を速く正確に理解する力を身につけファッション業界の最新事情に精通することを目指します。ネットニュースなど最新のファッション関連記事を扱い、語学としての英語と、服飾関連の知識の両方にフォーカスします。毎回の授業では、記事の内容把握に関する問題に取り組んでもらいます。また、ファッションに関連する動画を視聴しリスニングの練習も行います。

■到達目標（学修成果）

英語で書かれた記事の内容を理解し自分の言葉で説明できるようになる。映像と関連させながら聞こえてくる英語の内容を理解できるようにする。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのファッション英語Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。授業内容について確認する。	30分
2回	服飾関連記事の読解（1） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
3回	服飾関連記事の読解（2） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
4回	服飾関連記事の読解（3） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
5回	服飾関連記事の読解（4） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
6回	服飾関連記事の読解（5） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
7回	服飾関連記事の読解（6） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
8回	服飾関連記事の読解（7） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
9回	服飾関連記事の読解（8） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
10回	服飾関連記事の読解（9） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
11回	服飾関連記事の読解（10） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
12回	服飾関連記事の読解（11） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
13回	服飾関連記事の読解（12） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る	60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る	30-60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

クイズの解答はその場で提出してもらいます。解答は皆で共有し授業内でフィードバックを行います。まとめのテストは採点します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	クイズ、書き取り練習の解答の提出
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 プリントを配布します。

■参考文献 必要に応じて指示します。

■オフィスアワー・研究室

英語研究室（研究棟3階6034）第1回目の授業で提示します。

■備考

テキストは、プリントを用意します。

ファッション英語 B

北澤 茉奈

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションに関する英語語彙・表現の習得、英文記事の内容を速く正確に理解する力を身につけファッション業界の最新事情に精通することを目指します。ネットニュースなど最新のファッション関連記事を扱い、語学としての英語と、服飾関連の知識の両方にフォーカスします。毎回の授業では、記事の内容把握に関する問題に取り組んでもらいます。また、ファッションに関連する動画を視聴しリスニングの練習も行います。

■到達目標（学修成果）

英語で書かれた記事の内容を理解し自分の言葉で説明できるようになる。映像と関連させながら聞こえてくる英語の内容を理解できるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのファッション英語Bは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。授業内容について確認する。	30分
2回	服飾関連記事の読解（1） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
3回	服飾関連記事の読解（2） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
4回	服飾関連記事の読解（3） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
5回	服飾関連記事の読解（4） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
6回	服飾関連記事の読解（5） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
7回	服飾関連記事の読解（6） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
8回	服飾関連記事の読解（7） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
9回	服飾関連記事の読解（8） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
10回	服飾関連記事の読解（9） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
11回	服飾関連記事の読解（10） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
12回	服飾関連記事の読解（11） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
13回	服飾関連記事の読解（12） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る	60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る	30-60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

クイズの解答はその場で提出してもらいます。解答は皆で共有し授業内でフィードバックを行います。まとめのテストは採点します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	クイズ、書き取り練習の解答の提出
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

必要に応じて指示します。

■オフィスアワー・研究室

英語研究室（研究棟3階6034）第1回目の授業で提示します。

■備考

テキストは、プリントを用意します。

フランス語（総合）A

福本 しのぶ

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

フランス語の歴史を追いながら、フランス文化を学び、フランスのエスプリを感じ、フランス語の楽しさを実感できます。フランス語未習者も選択可能です。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、日常会話、ファッション関連のフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、Web辞書、Web翻訳を使いながら、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目として卒業要件となります。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る フランスと日本の関わり合い 基本のあいさつ	復習：講義メモ整理	10分
2回	フランス語の歴史 発音の決まり	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
3回	フランスの文化 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
4回	フランス語基礎会話 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
5回	フランスの生活 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
6回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
7回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
8回	映画についてディスカッション	予習：フランスらしさ、とは何か。	30分
9回	フランスの文化 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
10回	フランス語基礎会話 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
11回	フランスの生活 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
12回	レポート課題を考える	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
13回	大学図書館にてフランス関連資料を見る	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
14回	レポートの仕上げ	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
15回	まとめ ファイルチェック レポート発表	復習：講義メモ整理・発音練習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/理解の確認を行い、最後にレポート提出か発表をしてもらう。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

■教科書

随時コピー配布。
仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。

■参考文献

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。
希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行う。
言語は話さないと上達しませんので、積極的に声をだしてください。

フランス語（総合）B

福本 しのぶ

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

映像などを見ながら、フランスの歴史、フランス文化、芸術、社会背景に触れ、フランス語の楽しさを実感できます。フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。フランス語未習者も選択可能です。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、日常会話、ファッション関連のフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、Web辞書、Web翻訳を使いながら、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目として卒業要件となります。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る フランス語の歴史	復習：講義メモ整理	10分
2回	発音の決まり基本のあいさつ	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
3回	フランスの生活映像 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
4回	フランスの文化 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
5回	フランスの芸術 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
6回	フランスの過去	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
7回	フランスの現在	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
8回	フランスの生活映像 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
9回	フランスの文化 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
10回	フランスの芸術 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
11回	レポートの課題を考える	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
12回	大学図書館にてフランス関連資料を見る	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
13回	レポートの中間発表	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
14回	レポートの仕上げ	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
15回	まとめ ファイルチェック レポート発表	復習：講義メモ整理・発音練習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/活用を行います

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

■教科書

随時コピー配布。
仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。

■参考文献

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。
希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行う。
言語は話さないと上達しませんので、積極的に声をだしてください。

ファッションフランス語 A

福本 しのぶ

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

フランス語の初級文法、簡単な会話を学びながら、基本的なファッション用語を身につける。
映像などを見ながら、フランス・ファッション、文化に触れ、「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、一歩フランス人に近づきましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス旅行する時、フランスでアトリエ現場研修する時などに役立つ表現を覚え使えるようになり、基本的なファッション用語が聞き取れるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連3

教養選択科目として卒業要件となります。現在フランスや日本で使用されている服飾用語を分析、つなぎ合わせていくと、服飾文化の源流の一つに辿り着き、大局的に服飾文化を見直す糸口が見つかる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る 日本との違い 基本的なあいさつ	予習：シラバスを読む	10分
2回	アルファベ・筆記体・発音の決まり・つづり字	復習：発音 / 筆記体練習	30分
3回	衣服の名称 ① 発音練習	復習：発音練習	30分
4回	数字 (0~20) サイズ表現	復習：発音練習	30分
5回	フランス人が好きなファッション（ビデオ） 発音練習	復習：資料まとめ	30分
6回	衣服の名称 ② 発音練習	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
7回	色、フランス独自の色 名詞（男・女）	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
8回	発音練習	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
9回	生地素材、柄 発音練習	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
10回	大学図書館のフランス語資料 ファッション用語探し	予習：プレゼンテーションの内容決定 復習：資料まとめ / 発音練習	30分
11回	発音練習	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
12回	数字 (20 ~ 100) ものの位置	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
13回	発音練習	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
14回	フィードバック	予習：資料まとめ / プレゼンまとめ	30分
15回	まとめ プレゼンテーション	復習：資料のファイリング	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎授業にて講義メモを出すので随時授業内でチェック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ノート・ファイルの整理力、発音練習の積極性を重視
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	発音チェック、課題提出、学修ファイルチェック
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

教科書なし。毎回講義メモ配布。

仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。仏和辞典を購入希望の場合は要相談。

■参考文献

大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍・DVD やフランス語サイト。

■オフィスアワー・研究室

金曜日(12:20~12:50)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考

フランス人との交流会を試みますが、その都合などにより、授業内容は変更することもあります。

希望者には実用フランス語検定試験5級~3級の受験指導を行います。

みなさんが声を出さないと発音を直すことはできませんので、教室では積極的に大きな声で文字を読むようにしましょう。

ファッションフランス語 B

福本 しのぶ

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

映像などを見ながら、フランス・ファッション、フランス文化、芸術、社会背景に触れ、フランスのファッションの在り方を見ていきます。映像、資料を見ながら解説をし、次の授業では語彙の説明、発音をし、理解を深めていきます。

フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。

■到達目標（学修成果）

フランス旅行する時、フランスでアトリエ現場研修する時などに役立つ表現を覚え使えるようになり、基本的なファッション用語が聞き取れるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連3

教養選択科目として卒業要件となります。現在フランスや日本で使用されている服飾用語を分析、つなぎ合わせていくと、服飾文化の源流の一つに辿り着き、大局的に服飾文化を見直す糸口が見つかる。

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッションフランス語A 簡単な復習	予習：シラバスを読む	10分
2回	3世紀におよぶファッション ポール・ポワレからシャネル、そして現在	復習：資料を読む	30分
3回	発音練習	復習：発音練習	30分
4回	フランスのファッション学校 ECSCP から Casa93 まで	復習：資料を読む	30分
5回	発音練習	復習：発音練習	30分
6回	あなたにとってのファッションとは？ パリコレの真相	予習：あなたにとってファッションとは？ 復習：資料を読む	30分
7回	発音練習	復習：発音練習	30分
8回	フランスのファッションの多様性 FASHION MIX	復習：資料を読む	30分
9回	発音練習	復習：発音練習	30分
10回	大学図書館のフランス語資料	予習：プレゼンテーションの内容決定 復習：資料まとめ / 発音練習	30分
11回	モードとフランス フランス文化庁の関わり合い グループディスカッション	復習：資料を読む	30分
12回	発音練習	復習：発音練習	30分
13回	衣装博物館	復習：資料を読む	30分
14回	フィードバック	復習：資料のまとめ 予習：プレゼンテーションまとめ	30分
15回	まとめ プレゼンテーション	復習：資料のまとめ	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎授業にて講義メモを出すので随時授業内でチェック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ノート・ファイルの整理力、発音練習の積極性を重視
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	発音チェック、課題提出、学修ファイルチェック
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

教科書なし。毎回講義メモ配布。

仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。仏和辞典を購入希望の場合は要相談。

■参考文献

大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍・DVD やフランス語サイト。

■オフィスアワー・研究室

金曜日(12:20~12:50)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考

フランス人ゲストの都合、衣装博物館の展示などにより、授業内容は変更することもあります。

希望者には実用フランス語検定試験5級~3級の受験指導を行います。

みなさんが声を出さないと発音を直すことはできませんので、教室では積極的に大きな声で文字を読むようにしましょう。

中国語（総合）A

盧 繁華

2年 前期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

一年生の総合ⅠとⅡの内容をレベルアップした中国語文の構築や品詞の働きなどを充実させる。特殊な文法文型を深めながら中国語作文を自由に活用できるように授業を進める。

■到達目標（学修成果）

中国語の聞く、話す、書く、読む総合力を高めることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）A】は教養科目の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな言語表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	中国語の複文構造	復習：既習の文型文法 1年目の「中文課本」第3課～16課	40分
2回	等位複文、偏正複文、多重複文	予習：第1課「自己紹介」の読み練習	30分
3回	等位複文の種類	復習：第1課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
4回	等位複文の一種→並列表現文	予習：第2課「私の家庭」の読み練習	30分
5回	偏正複文の種類	復習：第2課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
6回	偏正複文の一種→譲歩関係の表し	予習：第3課「インターネット」読み練習	30分
7回	比較文の表し方→“比”の構文	復習：第3課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
8回	特定条件複文	予習：第4課「約束」の読み練習	30分
9回	常用疑問詞の呼応表現	復習：第4課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
10回	常用副詞の活用	予習：第5課「温泉旅行」の読み練習	30分
11回	補語の種類と重要な働き	復習：第5課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
12回	方向補語	予習：第6課「私の趣味」の読み練習	30分
13回	特殊な存現文の伝達機能	復習：第6課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
14回	総合まとめⅠ	復習：まとめペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内及び授業外で完成した平常小テストを期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『2冊目の中国語・購読クラス』 劉穎（白水社）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞の『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

前期：木曜日（13:30～16:40）研究棟 6036 室

後期：木曜日（13:30～16:40）研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（総合）B

盧 繁華

2年 後期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

既習の内容を実践に応用できるようにする。教材文を使うと同時に中国語圏のニュース記事などの新鮮な話題を取り入れた模範文に合わせて勉強し、文章翻訳をも新たに拡張する。

■到達目標（学修成果）

大学二年生の中国語レベルに達成し、中国語の文章力を身につけることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）B】は【中国語（総合）A】と併せて教養科目中の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな言語表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	既習の文法ウォーミングアップ	復習：教科書第1課～6課までの復習	30分
2回	特殊文“是…的”	予習：教科書第7課「友達になる」	30分
3回	様態補語	復習：第7課の読解練習問題	30分
4回	可能補語	予習：教科書第8課「会食する」	30分
5回	常用疑問詞の不定用法	復習：第8課の読解練習問題	30分
6回	選択複文	予習：教科書第9課「目覚まし時計」	30分
7回	受身文“被”の構文	復習：第9課の読解練習問題	30分
8回	転折複文	予習：教科書第10課「アルバイト」	30分
9回	動量補語の用い方	復習：第10課の読解練習問題	30分
10回	使役文	予習：教科書第11課「冬休み」	30分
11回	連動文の構造	復習：第11課の読解練習問題	30分
12回	“把”の文構成特徴	予習：教科書第12課「留学」	30分
13回	常用副詞“就”、“都”の応用	復習：第12課の読解練習問題	30分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『2冊目の中国語・購読クラス』 劉穎（白水社）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

前期：木曜日（13:30～16:40）研究棟 6036 室

後期：木曜日（13:30～16:40）研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（会話）A

盧 繁華

2年 前期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

今まで慣れてきたリスニング・シャドーイングの発話練習の拡張をはかり、教材文中の日常臨場感がある言葉内容を会話題材にして授業を進める。

■到達目標（学修成果）

中国語の発話能力を高め、有用性のある言葉を身につけてコミュニケーションができることをめざす。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(会話)A】は教養科目中の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな中国語の発話表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	既習の内容を再度チェックする	復習：ウォーミングアップ 1年目の「中文課本」第3～16課	30分
2回	名前、干支、年齢などの聞き方と答え方	予習：第一課「自己紹介」 読み練習	新出言葉 30分
3回	初対面の時に使う挨拶	復習：第一課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
4回	移動手段の聞き方と答え方	予習：第二課「通学」 読み練習	新出言葉 30分
5回	距離、所要時間の言い方	復習：第二課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
6回	趣味の聞き方と答え方	予習：第三課「趣味」 読み練習	新出言葉 30分
7回	できる（技術の習得）、動作の出来、程度	復習：第三課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
8回	排除（～以外）や添加（さらに）の文	予習：第四課「アルバイト」 読み練習	新出言葉 30分
9回	伝聞、所在、比較などの表現	復習：第四課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
10回	予定を尋ねる、相手を誘う時の表現	予習：第五課「スケジュール」 読み練習	新出言葉 30分
11回	招待する時、約束する時の表現	復習：第五課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
12回	介詞（～把）の文	予習：第六課「料理を注文する」 読み練習	新出言葉 30分
13回	料理を注文する時、お願いする時の表現	復習：第六課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のプリント まとめペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック（ペーパー）	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『しゃべくり中国語』 内田慶市（金星堂）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

前期：木曜日（13:30～16:40）研究棟 6036 室

後期：木曜日（13:30～16:40）研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（会話）B

盧 繁華

2年 後期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

語彙やフレーズを確実に把握した上で会話の応用範囲を深める。教材文のほかに中国の衣食住文化に触れ実践的な表現語の内容を新たに勉強する。

■到達目標（学修成果）

聞き取れる内容を正確に伝えられ、自分の意思でフリートークができることをめざす。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(会話)B】は【中国語(会話)A】と併せて教養科目の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな中国語の表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期の内容を再度チェック	復習：既習の語彙・フレーズ	30分
2回	病院での表現	予習：第七課「診察を受ける」	新出言葉 30分
3回	すでに起こったことについて聞く	復習：第七課 総合練習問題	所定の頁 20分
4回	値切る時の表現	予習：第八課「買い物」	新出言葉 30分
5回	相手の意見を求める、サイズや様子がちょうど良い	復習：第八課 総合練習問題	所定の頁 20分
6回	褒める、謙遜する表現	予習：第九課「旅行」	新出言葉 30分
7回	比較文、まもなく起こること	復習：第九課 総合練習問題	所定の頁 20分
8回	反語文、使役文	予習：第十課「髪型」	新出言葉 30分
9回	いろいろな色と髪型	復習：第十課 総合練習問題	所定の頁 20分
10回	現在進行形Ⅰ（動作の進行）	予習：第十一課「ファッション」	新出言葉 30分
11回	服スタイル及び服の言い方	復習：第十一課 総合練習問題	所定の頁 20分
12回	現在進行形Ⅱ（状態の持続）	予習：第十二課「宿を予約する」	新出言葉 30分
13回	ホテルで役立つ表現のまとめ	復習：第十二課 総合練習問題	所定の頁 20分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のプリント	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『しゃべくり中国語』 内田慶市（金星堂）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

前期：木曜日（13:30～16:40）研究棟 6036 室

後期：木曜日（13:30～16:40）研究棟 6036 室

■備考

なし

博物館経営論

丸山 憲子

2年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館の経営について学習する。多様化する博物館の経営体制について認識を深め、今日の博物館経営をめぐる諸相を把握し、今、博物館に何が求められているのか、また博物館本来の存在意義について学習する。

■到達目標（学修成果）

- ・博物館の適切な機能や経営体制の把握
- ・ミュージアムマネジメントについての基礎的事項の理解
- ・現代博物館を多角的な視点で考察できることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得するべき博物館に関する科目の単位の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館経営論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	ミュージアムマネジメントの意義について学習する。	予習：教科書の博物館経営論部分を読んでおくこと。 復習：ミュージアムマネジメントについてまとめておくこと。	60分
3回	博物館法について学習する。	復習：博物館法の復習	30分
4回	独立行政法人立等、設立母体について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
5回	指定管理者等、設立母体について学習する。 設立母体についてのまとめ	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
6回	博物館評価について学習する。	復習：配布資料の読み返し。教科書読み返し。	30分
7回	博物館の館内組織・館外組織について学習する。	復習：配布資料の読み返し。教科書読み返し。	30分
8回	博物館の施設・設備について学習する。	予習：インターネット上で博物館建築をリサーチしておくこと。 復習：配布資料の読み返し。	60分
9回	博物館におけるマーケティングについて学習する。	復習：配布資料の読み返し、マーケティングについてまとめておくこと。	30分
10回	ミュージアムショップやレストラン等アメニティという側面から学習する。	予習：インターネット上でミュージアムショップ、レストランをリサーチしておくこと。 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	60分
11回	今日の社会状況を踏まえた博物館の課題について学習する。	復習：配布資料の読み返し、博物館をめぐる課題をまとめておくこと。	30分
12回	まとめ及びプレゼンテーションのための説明。	復習：配布資料の読み返し、全体の振り返り	90分
13回	実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーション	予習：プレゼンテーション準備 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	90分
14回	実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーション	予習：プレゼンテーション準備 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り・プレゼンテーション準備	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験・プレゼンテーションの後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献

随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表をしてもらいます。

博物館資料論

丸山 憲子

2年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館において資料は必要不可欠な存在である。どんな博物館でも「資料」を有し、コレクションをなしている。今日の博物館のコレクションは多種多様であり、一口で「博物館」と言ってもその範囲は極めて大きい。本講では現代博物館が扱う資料（コレクション）について、博物館の歴史とともに体系的に学習する。また、資料収集・整理保管・調査研究・教育普及という4つの博物館機能（活動）を通して、いわゆる実物（1次資料）から2次資料が発生していくことを理解し、それぞれの機能（活動）における1次資料・2次資料の特性・役割を学習する。

■到達目標（学修成果）

博物館資料の様々な特性を理解し、博物館活動にとって必要なもの・ことを認識できるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得するべき博物館に関する科目の単位の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館資料論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	博物館の成立背景に見られる資料についての事例を挙げ、博物館＝資料の存在を認識する。	予習：教科書の博物館資料論の部分を読んでおくこと。	30分
3回	1次資料と2次資料の博物館活動における役割、及び資料の価値について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
4回	1次製作資料として分類される実物製作資料と情報製作資料について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
5回	1次標本資料（1）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。」	30分
6回	1次標本資料（2）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
7回	1次資料についてのまとめ 2次資料（1）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
8回	2次資料（2）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
9回	2次複合製作資料について学習する。 2次資料についてのまとめ	予習：1次資料・2次資料の違い、種類を再確認しておくこと。 復習：語句の整理をしておくこと。	60分
10回	博物館機能を再確認する。 資料の収集について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
11回	資料の整理保管について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
12回	資料の調査研究活動について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
13回	教育普及という観点から、資料のもつ意味とその効果について学習する。	復習：配布資料の読み返し、教育普及活動のまとめをしておくこと。」	30分
14回	資料の取り扱い、及び運搬という観点から学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験の後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献

随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表をしてもらいます。

博物館資料保存論

梶淵 規彰

2年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館資料論を基礎として、博物館資料の保存の意義、目的、資料保存の前提としての劣化要因とその対策、資料の材質に応じた劣化対策、保存技術等について、論理的に授業を進めます。

■到達目標（学修成果）

学芸員が日常的に取り扱う博物館資料について、収集、保管、調査研究、展示他の活用といった博物館機能の各局面において、資料保存の理論と実践法を習得し、時代に適応できる博物館学芸員としての資質を得られるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目ではありませんが、学芸員資格取得のための必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	博物館資料保存の意義、目的	予習 シラバスを事前に目を通す	30分
2回	博物館資料の種類と特性	復習 博物館資料の種類と種類ごとの特性について確認する。	30分
3回	文化財保護と博物館資料1	復習 文化財と博物館資料の関係について確認する。	30分
4回	文化財保護と博物館資料2	復習 博物館資料と文化財保護の関係について確認する。	30分
5回	博物館史にみる資料保存の方法	復習 博物館史上の伝統的保管方法について確認する。	30分
6回	博物館資料の材質による劣化と対策1 瞬間的・破壊的な劣化(人災、天災)	復習 人災や天災による瞬間的・破壊的な劣化と対策について確認する。	30分
7回	博物館資料の材質による劣化と対策2 緩慢、確実に進行する劣化①(温湿度、大気等)	復習 温湿度の変化、大気中の粉塵等の影響・対策について確認する。	30分
8回	博物館資料の材質による劣化と対策3 緩慢、確実に進行する劣化②(汚染物質、薬品類、光等)	復習 大気中の汚染物質及び薬品類、光等の影響・対策について確認する。	30分
9回	博物館資料の材質による劣化と対策4 緩慢、確実に進行する劣化③(虫害、黴菌類等)	復習 虫害及び黴菌類等の影響・対策について確認する。	30分
10回	博物館資料の修理と修復	復習 博物館資料の修理・修復の必要性とその方法について確認する。	30分
11回	博物館資料の保存環境(収蔵施設・展示施設等)	復習 博物館資料の保管・展示に適した施設の条件について確認する。	30分
12回	博物館資料保存のための科学技術1	復習 博物館資料の保存科学技術について確認する。	30分
13回	博物館資料保存のための科学技術2	復習 博物館資料の保存科学技術について確認する。	30分
14回	博物館資料の取扱い1(資料取扱い上の留意点等)	復習 博物館活動の様々な局面における資料取扱い上の留意点を再確認する。	45分
15回	博物館資料の取扱い2(展示ほかの活用等)	復習 展示他の活用の局面での資料保存を前提とする取扱い法を確認する。	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業時間中に小試験を実施し、出題の意図及び模範回答等について解説し、理解・習得の促進をサポートします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業への取組みは、出欠状況を中心に受講態度、取組状況等評価します。授業内試験を実施し、講義内容の理解度を測定し、成績判定に活用します。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

本田光子・森田 稔 『博物館資料保存論』、青木 豊 編 『人文系博物館資料保存論』

■オフィスアワー・研究室

土曜日（講義時間 14:55～16:05）第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

■備考

なし

VIII. ゼミナール

先生方のご好意により開講されるゼミです。
単位は出ませんが、積極的に参加して学んで下さい。

【整理番号】

【1】 瀧川ゼミ

瀧川ゼミ

瀧川 美佐子

2・3年 前期又は後期 自主ゼミ (演習)

■授業の方針・概要

自分の興味や関心からスタートし、例えば「好き (かわいい、かっこいいなど)」を形にするための技術を一緒に研究するゼミです。

二次元と三次元とを行ったり来たりしながら、魅力を感じるディテールやパーツを実際に「つくってみる」「観察する」を繰り返す、イメージする「形」を構成する力を養っていきます。ゼミでは服飾造形基礎Ⅰ、Ⅱで学んだことを発展させると共に、具体的な「形」を客観的、多角的に表現する力を高めていくことを目標とします。履修者の能力、希望に合わせて内容の変更もあります。

■到達目標 (学修成果)

1. イメージを具現化する発想力、応用力を養う。
2. パターン展開、立体構成の基本的な技術を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

自主ゼミであり、卒業要件科目ではないが、服飾における構成力の習得と応用能力を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション ・ゼミについて	課題：制作ノートの準備 復習：課題案のアイデア収集	30分
2回	各自課題の設定 個別ディスカッション 製図説明	予習：課題について資料収集	60分
3回	・ディテールのバリエーション①フリル 各自製図	予習：フリルのリサーチ PATTERN MAKING などを確認する	30分
4回	各自製図	予習：作業を進める	30分
5回	・ディテールのバリエーション②プリーツ、リボン トワルについて (裁断、組立)	課題：制作ノート提出 予習：プリーツ、リボンのリサーチ	60分
6回	トワル仮縫いについて (仮縫い、補正、修正)	予習：作業を進める	30分
7回	・ディテールのバリエーション③袖-① 型紙作り 実物裁断 (印入れ)	予習：作業を進める 袖のリサーチ	60分
8回	・ディテールのバリエーション④袖-② 縫製手順について (制作マップ) 実物組立	予習：作業を進める	30分
9回	実物仮縫い 補正、製図修正 型紙修正 (生地修正)	課題：制作ノート提出 予習：作業を進める	60分
10回	・ディテールのバリエーション⑤襟-① 制作①	予習：作業を進める 襟のリサーチ	60分
11回	・ディテールのバリエーション⑥襟-② 制作②	予習：作業を進める	30分
12回	制作③	予習：作業を進める	30分
13回	・ディテールのバリエーション⑦トリミング 制作④	予習：トリミングのリサーチ 作業を進める	30分
14回	制作⑤ (作品完成)	課題：制作ノート提出 予習：作業を進める	60分
15回	まとめ プレゼンテーション		

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

ディスカッションと制作ノート、課題の講評によって、随時フィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

成績評価はしない

■教科書

授業の進行に合わせて必要な場合、提示、プリント配布する

■参考文献

授業時に紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー曜日、時間、研究室は授業内で指示する

■備考

授業の曜日、時間は未定である。オリエンテーション期間中に履修希望者と相談の上決定する